

台草根

第 2 号

2010年3月

驚落土爛、只求枝葉代代傳。



① 2009年5月4日歡喜合唱團訪問台灣海洋大學、與李校長、海韻合唱團合影

② 2009年5月3日與海洋大學莊慶達教授及莊媽媽合影

③ 2009年5月4日與寶泉豐珠國民中小學吳校長、老師們合影

④ 2009年5月4日與郭芝苑老師、前駐日代表許世楷夫婦、郭芝苑室內合唱團合影

⑤ 2009年10月8日福岡県女性海外研修の翼參訪台灣國家劇院

⑥ 2009年10月9日與郭芝苑室內合唱團音樂交流合影

⑦ 2009年10月25日歡喜合唱團參加第37回「福岡県お母さんコーラス交流会」

⑧ 2009年4月13日參加「大人の遠足」、山野草與音樂的集會

⑨ 2009年11月22日陳世憲書法與郭妹吟鋼琴連合演出在福岡

九州台日文化交流会

九州台日文化交流会は九州地区に台湾と日本の文化交流活動を通して、台湾と日本の民間交流並びに相互理解を図るとともに台日親善、文化交流、環境保護の推進に寄与することを目的として、2009年に発足しました。

活動紹介



① 2009年1月18日(日)台湾貿易センター(TAITRA)が主催「台湾国際企業人材育成センター日本研修」學員25名を招待して、交流会を開催。



② 2009年1月25日(日)郭芝苑室内合唱団指揮阮文池先生一行を迎え、今宿ボビーコーラス、飯倉中央コスモスコーラス、原西ララコーラスと音楽交流会を開く。



1月28日(水)高取第二保育園教学参観・交流。



③ 2009年3月「草の根」通信創刊号を発行、40ページ。



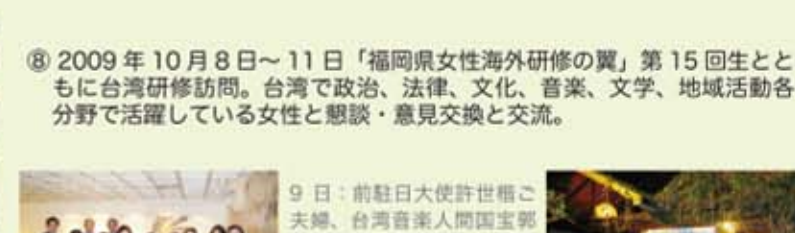
④ 2009年4月13日(月)「大人の遠足」と山野草・音楽の集いを交流。



⑤ 2009年5月4日(月)台湾豊珠国民中小学校にて口腔衛生講義及び指導を行う。



⑥ 2009年6月14日(日)「粽と蜚」交流会。



⑧ 2009年10月8日～11日「福岡県女性海外研修の翼」第15回生とともに台湾研修訪問。台湾で政治、法律、文化、音楽、文学、地域活動各分野で活躍している女性と懇談・意見交換と交流。



⑦ 2009年8月12日(水)台東大學児童文学作家洪文瓊先生、藍孟祥先生、書道家陳世憲先生一行を迎えて、日本の関係者らと交流。



9日：前駐日大使許世楷ご夫婦、台湾音楽人間国宝郭芝苑先生、郭芝苑室内合唱団指揮阮文池先生、い草博物館館長藤恵子女士、郭芝苑室内合唱団と対談・音楽交流。



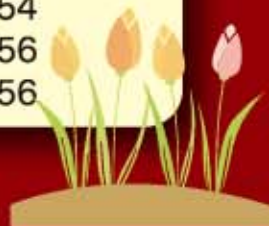
10日：高雄市文化愛河協会参観、理事長許玲齡女士と対談。この研修が有意義に行われたのも台湾書道家陳世憲氏にご協力いただいたことに感謝したい。

会長：四維宗曉

事務局：〒816-0843 春日市松ヶ丘2丁目157番 ☎&Fax: 092-596-6326

目次

九州台日文化交流会 一年の歩み	編集部	3
台湾多元文化的なもう一つの考え	呉錦発	4
台湾多元的文化のもう一つの考え	呉錦発、翻訳：岩倉夫妻	5
社区营造與草根交流	本郷啓成	6
地域作りと草の根交流	本郷啓成、翻訳：徐みつ子	7
特集 福岡県女性海外研修の翼	絵一片野博	8
感想文	稗田慶子	9
麗しの島台湾	野崎通世	9
「台湾研修のつばさ」感想	野崎真紀	10
感想文	久保田久美子	11
福岡県女性海外研修の翼	中村睦子	11
楽しく充実した台湾研修旅行	坂本富子	12
活気溢れる台湾女性の活動家にふれて	片野博・明子	13
お尻の赤いおさるさん	盧千恵 絵：宋艾凌	14
おとなの遠足一春を食らう山里遠足	写真：本郷啓成	16
関於郭芝苑先生	阮文池	17
初の台湾旅行	菊池啓子	18
台湾初旅	菊池啓子、翻訳：阿娥	20
予防歯科一微笑人生・音楽交流一歌曲紹介(プログラム)		22
歓喜合唱団台湾之行	岩倉淑玲	28
出外人	斉藤華蓉	28
台湾、日本音楽文化交流札記	蔡佩君	29
回流的郷音	本郷みどり	30
音楽巡礼	本郷みどり	32
牙齒銀行的成立與未來：牙齒幹細胞於再生醫療之高度展望	李勝揚	34
歓喜與快樂	光本武	36
日本心得：福岡三月	許少華	39
培養子供の自勝力	郭展禮	41
以歌会友	萬逸真	42
福岡媽媽合唱交流会感想	米多粒	43
台湾音楽 萬萬歳	原良子	44
台湾音楽 萬萬歳	原良子、翻訳：岩倉淑玲	45
陳世憲書法與郭姝吟鋼琴演出in福岡	編集部	46
台湾からの「書道&ピアノによるジョイント演出」in福岡	編集部	47
袖舞	陳世憲、翻訳：本郷みどり	48
車陣中の玉蘭花	陳至興	50
卓也之行	謝元敏	50
郷愁二帖	阿玉	50
背影	童静瑩	51
拉麵店のお客	本郷みどり	52
粽子	阿娥	53
到日本小学説台湾故事—3700公里的日本縦断紀行	顔俊傑	54
古早人的話	編集部	56
編後語	本郷みどり	56



台灣洋流、季風與海洋文化

自古以來，台灣就是多族群文化組成的社會，很早以前台灣就有南島系的民族居住在此，台灣的原住民目前在政府登記下有十二族，而在更早的1650年代荷蘭統治時期，曾經超過四十九個種族生活在這個島上。漢民族移居到這個島上之後，加上漢民族的系統，台灣共有兩大系統：一是南島民族的十幾個族，以及漢民族的系統。

長久以來很多歐美人士一直不了解台灣與中國的差別在哪？他們也一直不知道在這個三萬六千平方公里的小島上，有這麼多元的民族及文化。他們一直以為台灣文化是個從中國文化移植來的次文化，事實上的情形並非如此。要了解台灣，有幾個有趣的基礎點：首先，台灣在東亞島鏈地區中有其特殊的地理位置。在地理和生態上，台灣自南往北以及北往南，有兩個重要的海流經過，其中最重要的是「黑潮」；另外，台灣處於季風地帶，冬天為東北季風，夏天則是西南季風，這種洋流和季風的變化，使得台灣在早期便和南部的南亞種族有很密切的來往，因此台灣有很豐富的海洋文化。這樣的條件，使得台灣在十七世紀時，便和歐美等國有密切的來往，我們稱那個時代為「大航海時代」。由於這個兩條件，使得台灣和中國大陸地上的文化非常的不一樣。

台灣文化與中國文化之差別

要了解台灣與中國文化之差別，可以從地理的觀點去發現。以前我們的地理課本上說中國邊緣有兩個重要的島嶼：台灣和海南島，事實上由於季風和潮流的差別，台灣和海南島形成了完全不同的存在。海南島並不像台灣有洋流經過，因此和南島體系之間的接觸很少，但台灣在很早以前便和南島體系之間有來往；也因為季風之故，在十六世紀末到十七世紀，就把葡萄牙、西班牙和荷蘭等的力量帶到台灣來，使台灣成為東亞貿易的重要據點；相較於海南島只是中國大陸陸地的沿伸，台灣卻成了太平洋的一部份。

延續我之前提過的看法，台灣的文化基本上屬於海洋觀念的文化；來自於中國文化的本質，時至今日仍以平原觀點、大陸觀點為主發展。這是兩種

不同的文化，一個是向海洋發展的民族，一個是以大陸地空間去思考的民族。舉例來說，這就如同一個用「獅子」的眼光去看的世界，另一個文化則是以「海龜」所看到的世界，這兩個看世界的觀點是不同的。因之，形成之「文化觀」自然也不同。

台灣文化最大的特色在於其開展性、寬廣的接受性，有點類似希臘文明中的克里特島，接受許多外來文化，而且是非常輕易地接受進來，然後在本地融合成我們自己的文化特色。然而中國文化因為長期處於一種陸地強權狀態中，一直認為其他人是低一級，因此對文化的接受度有時非常地排斥，這也就是台灣和中國文化的不同處，台灣文化的優勢在於：雖然只是一個很小的島，但她融合了許多不同文化，像是之前提到南島民族文化、西班牙文化、葡萄牙文化、荷蘭文化，到後來的日本文化，混種文化的結果形成台灣一種獨特、有活力、向海洋邁進的文化特質。這也是台灣在近代很容易接受民主制度，而中國很難接受民主制度觀念的原因。

關於台灣的文化，歷史學家湯恩比(AJ.Toynbee, 1889-1975)先生將文化與文明當成是不同的東西，「文明」是一個民族的「文化」到非常成熟的時候稱作「文明」，例如：中國文明、印度文明、埃及文明；「文化」則是「一個族群正掙扎著想要實踐自己」，所以我們稱「台灣文化」而不是「台灣文明」，亦即是台灣的人民從中國文明繼承了一部份，另外從其他東方的、西方的、南島民族的文化接觸到的，漸漸融合成我們獨特的一種風格和生活方式，我們想向世人展現的是，台灣是非常獨特的地方，呈現出來的藝術、音樂、舞蹈等總和的價值觀念就是我們台灣的文化，台灣文化是一個正要從少年走向青年的文化體，而中國則是正走向老年的文化，這是很多人不瞭解的地方。

舉例來說，美國和加拿大都是從盎格魯撒克遜古老文明走出來的另一個民族，他們利用盎格魯撒克遜古老的文明，創造了一個有活力、和英國不一樣的美國文化和加拿大文化，我們可看到這兩種文化正用一種強大的力量去實現自己，想要和英國的古文明有所差別。

舉一個簡單的例子，美國人把歐洲的樂器和非洲裔美國人所帶來的節奏感融合成美國文化中最特殊的爵士樂，人們都知道爵士樂是屬於美國人的，而非英國人的。

台灣政府的多元文化政策與文建會的努力為何

文建會的工作有許多不同的項目，最主要的是要將台灣多種族文化特色發揮出來，讓大家知道台灣擁有這麼多豐富多元的文化；另外，結合這股多元文化的力量，形成整個社會豐富多元、新層級的文化觀。基於這種多元文化所延伸出來的藝術表現，文建會也扶植這樣的藝術人才，並推展至國際上，讓國外人士了解台灣擁有這麼多包含音樂、舞蹈等各方面多彩多姿的人才。

現在世界上民主國家有一個共同問題是：因為移民社會日益頻繁，以致每個國家都要面對如何處理多元文化的問題，例如：美國、加拿大。台灣在以往政策都是以漢民族為中心去支配其他民族，我們以前沒有去尊重別的種族文化的習慣；但現今民主的台灣，必須面對到每一個種族文化都一樣平等的世界潮流，所以我們現在正在努力架構出台灣是一個多種族平等的文化觀念，讓國人了解這樣的觀念對國家發展是有益的，亦符合世界潮流。



台灣海流、季節風と海洋文化

古くから台湾は、エスニック集団の文化体であった。昔、台湾は南島(マレーポリネシア語族)からの民族が居住していた。台湾の原住民は政府が把握しているのは、12種類の原住民族である。最も早い1650年代オランダ統治の時代、49種類以上の民族がこの島で生活していました。漢民族がこの島に移住後、漢民族の系統が加わりました。台湾は、2つの民族の系統に分けられます。十数種類の南島系民族と漢民族の系統に分けられます。

長い間、欧米では、台湾と中国の違いを理解することができませんでした。彼らは、わずか3万6千平方キロの地に、こんな多数の民族と文化が存在することを知らなかった。彼らは、ずっと台湾文化は、中国大陸から移ってきたサブカルチャーだと思っていたが、実際はそうではありません。台湾を理解するのに、基本的な考え方が有ります。まず、台湾は、東アジアでは地理的な特殊性をもっている。地理的、生態的にいって、台湾は、南からと北からの海流が通っています。最も重要なのは「黒潮」といえます。もうひとつ、台湾は、季節風が吹く地域であり、冬は、東北の季節風。夏は西南の季節風が吹くということです。海洋の流れと季節風の変化によって、台湾は、南アジアの民族と密接な交流がありました。それによって、台湾は、豊富な海洋文化を有することになったのです。また、これらの条件で台湾は17世紀から欧米と交流が生まれました。この時代を私たちは「大航海時代」と呼んでいます。ふたつの条件によって、中国とは文化的に大きな違いがあります。

台灣文化と中国文化の違い

台湾と中国文化の違いを見る場合、地理的な面で見ると、過去、私たちの教科書では、中国の端っこにふたつの重要な島、台湾と海南島があると言います。しかし、実際は、季節風と海流の違いで、台湾と海南島は完全に違う存在といえます。海南島には、台湾のような海流が通っていないので、南洋の島々と接触が少ないのです。しかし、台湾は、昔から往来が多くありました。季節風によって、16世紀の末から17世紀まで、ポルトガルとスペイン、オランダの勢力

が台湾にやって来ました。台湾は、東アジアの貿易の重要な拠点になったのです。それに比べて、海南島は中国大陸の延長線にあって、陸地の一部のようなものでした。台湾は、太平洋の島々の一部であったのです。

上記の見方から、台湾の文化は、海洋文化に属します。中国文化の本質は、大陸のかつ平原的である。これらは2種類の違う文化です。一つは、海洋から発展した民族。一つは大陸的発想の民族である。例えば、獅子の眼から見た世界と海亀から見た世界では、見た世界は違うということです。よって、必然的に、これらの文化観の違いは発生します。

台湾文化の最大の特徴は、進歩である。広く受け入れる性質である。少しギリシア文明のクリト島に似ています。外来文化を非常に安易に受け入れるということです。自分たちの文化とミックスして新たな特長を持つ文化にしていけます。しかし、中国文化は長い期間、大陸的な大国の状態にあったのです。彼らは、他の国を見下ろす傾向があり、他の文化に対しても排他的であると言えます。そこが台湾と中国文化の違うところである。台湾文化の優れたところは、台湾はただ、小さな島ですが、しかし、沢山の文化が混ざり合っています。前述のように南島民族文化、スペイン文化、ポルトガル文化、オランダ文化、後に来た日本文化、混在した結果は、台湾独特な活発な海洋展開型特質をもった文化の特長を持っています。それで、近代で民主主義を受け入れやすくなって、中国は民主主義を受け入れにくいことの原因である。

台湾の文化に対して、歴史学者：アーノルド・J・トインビー先生(AJ.Toynbee, 1889-1975)は文化と文明は違うもので、文明は一つの民族の文化が非常に成熟したものである。たとえば、中国文明、インド文明、エジプト文明など。文化は、一つの種族が必死に自分たちを実現しようとしたものである。よって、台湾文化とは言いますが、台湾文明とは言えないのです。台湾人民は、中国文明の一部を継承し、東洋的、西洋的文化と南島民族文化とが接触し混じり合って独特な風格と生活スタイルができました。私たちが世界の方々に知って頂きたいのは、台湾は非

常に独特な地方であり、芸術、音楽、舞踏などの表現を総合的に合算させたものが、台湾の文化と言えます。台湾文化は、現在、例えば、少年から青年に成長しているところです。しかし、反対に中国は、老年的文化に向かっている。これは、人々が理解できないところです。例えば、アメリカとカナダは、全て、古いアングロサクソン文明から生まれたもう一つの民族文化である。アングロサクソン系の活力で、彼らは、イギリスとは違うアメリカ文化とカナダ文化を作り上げました。ふたつの文化は強大な力で、自己実現を果たし、イギリスの古い文明とは、違いをつけたいと考えたのです。

簡単な例をあげると、アメリカ人はヨーロッパの楽器とアフリカ系アメリカ人のリズムで、アメリカ文化であるジャズを作り上げた。人々は、ジャズはアメリカ人のもので、イギリス人の文化とは、言いません。

台灣政府的多元文化政策と文建会(文化建設委員会)が努力すべき目標

文建会の仕事には、沢山の違う目的があります。主な仕事は、台湾の多民族文化の特長を伸ばすこと。台湾が豊富な多元的文化を持っていることを知らせたい。更に、多元的文化の力をつなぎ合わせたい。文建会は、社会を、豊富で多元的文化を元に新しい文化観を生み出したい。文建会は、このような多元的文化の芸術表現を持った音楽家や芸術家が存在し、海外にその人材の存在を知らせたいと考えています。

今、世界の民主主義国家の共通問題は、移民社会によって多元的文化が直面していることである。例えば、アメリカ、カナダなどです。台湾は昔、漢民族を中心にして他民族を支配していました。過去、私たちは、他の民族文化を尊重する考えを持っていませんでした。しかし、現在の民主的な台湾は、各民族文化を平等に見ています。私たち文建会は、台湾が多種民族に平等な文化観念を作り出す努力をしています。台湾の国民がこの観念を理解してもらえば、国の発展に有益であり、世界の潮流にあっています。

(翻訳：岩倉夫妻)

台湾の「社区营造」在日本稱為「地域づくり」(地域營造)。

20多年前、在大分県の僻地郷村大山町に栽植梅樹與生産梅子加工產品、不只為大山町帶來經濟上的繁榮、也替住民帶來更多就業的機會、更透過帶動村民出國考察等自主學習與實地研修、把學習的經驗帶回村裏、貢獻所學使村的農作產業得以進階的提昇。從大山町開始的「一村一品」運動更進而擴展到大分縣全域、九州與全國各地。在當時稱此為「村おこし」(郷村活性化)運動。大部分著重於經濟效益。

而後「地域營造」更如雨後春筍般的蓬勃發展開來。「地域營造」也是国土交通省の総合政策裏の一項重要部門。有別於20世紀由政府官方主導的地域營造、21世紀由於少子高齢化的進展、地方公共団体の財政悪化與産業構造の変化使得地域社會的处境越顯艱困。也因此地域再生成為很迫切重要的課題。加上肥大化中央集權型行政系統的制度疲勞、「地域營造」不再只是「為了地域住民」(for the people)、更重要的是「由地域住民の手」(by the people)來營造、也就是說主導權由官方經過官民連携、逐漸交回到住民的手中、由旧來的「中央省庁主導の縦割画一行政系統」變革為「住民主導の個性総合行政系統」、以期達成「分權型民主社會」。

民主主義制度的条件之一是「参加與平等」。但即時在日本、住民對政治的冷感與疏離意識的什麼呢？那是缺乏最基本的「大家的事由大家來決定」的自己管理、自己統治的實感。即時再嚴密完備の政府組織架構、如果是由上往下、君臣民一主從方式的「give and take」、住民也只是被動地觀望與等待而已。

超越官方的組織架構、由住民自發自主的透過了解學習、發見問題、設立目標、計畫立案、推進執行、展開發展、評価調整改進…透過住民共同的意識決定、參加與協力、共同來完成一項「公的」事業。也就是說由下往上的「do and take」、經由責任義務的遂行、而達權利的完全共有(of the people)、經此共同學習與參與的過程、住民才能主動地主導共同体的命運、在社區的公共生活層面上落實民主的意義、也才有可能成就一個有生命力的社會。聰明的政府知道怎樣站在輔・導・督的角度、引導住民自我管理的知識、能力、方法與運作、並且作好持續監督的責任。

而住民與住民之間、世代與世代之間、資源分配、利害關係、利益團體…有很複雜的關連性、這些都必須透過「公民」再教育、社區學習、從最基本的個人與公民、個與公、義務與權利、人權與公義的再學習、培養自立、自律與自制的公民為要務。否則、明藉社區營造之名、暗行資源(補助金・人脈・派閥・選舉・図利・權勢…)營造之實、那比中央集權、貪官汚吏的腐敗遺害更甚。

現今台灣的社區營造有如百鳥爭鳴一般、光是社區通網站的註冊登記就有3千6百多個。各個團體對社區營造的理解與經營也各有異。住民若能發揮自

發自主的力量、聚合集体的共識與決策、實行集体永續經營、通過這種共同參與的「過程」、落實民主的生活方式。從身邊社區「公」的課題開始、經由社區住民自己決定權的擴充、超越性別、年齡、職業、透過所有階層住民的共同參與、來實現民主主義；以此社區層次的住民主導和男女共同參與的民主主義為基礎、方能往上成就國政層次的健全議會政治。

引用陳其南教授的話：「社區總體營造是要營造出一個新社區、新社會和新人種、在這個『造人』的工程中、是依賴社區公民和知識份子的互相學習、自我學習和自我改造。在社區總體營造的過程中、是要建立一個體系化的社區學習社會和學習共同体。」可以說社區營造即是人的營造、而社區營造人材的培育更是刻不容緩。

對於日本各地蓬勃展開的地域營造企畫、活動與事業、為了各個團體的活性化、團體間情報的交換與交流的支援、各個縣市都設有地域營造團體協議會、以及全國協議會。福岡県也設有「地域營造連絡網福岡県協議會」(地域づくりネットワーク福岡県協議會)。到2008年4月為止有184個團體加入。主要事業內容有①研修・交流支援事業。②分區會議事業。③情報提供事業等。

地域營造的實務推進與作業、須要住民志工積極的參與、特別是女性的力量。福岡県政府為了培育推進地域營造的女性人材、由「男女共同參與推進課」主事的「福岡県女性海外研修の翼」事業已經辦了26回。藉此海外研修、對外國各種制度・施設の視察・調査以及交流、拓寬國際視野、回到自己的地域發揮研修的成果、貢獻己力於地域營造為目的。

今年、福岡県女性海外研修の翼第15回生の台灣研修、我們「九州台日文化交流會」很高興能提供台灣經驗與台灣女性在政治、文化、法律、外交、社區營造各方面積極活躍的個人與團體作為台灣研修的內容、並由會長四維宗曉先生與企畫執行本郷啓成同行導覽、深感榮幸。更期待能藉這種草根交流、促進台灣與日本之間住民與住民的相互理解、相互提昇、以期落實「還政於民」的民有・民治・民享的民主社會。

女性の社会参画、台湾に学ぶ 福岡県の研修団

福岡県の海外研修事業「女性研修の翼」に参加経験者などによる台湾研修団(団長・柳田慶子前副知事)がこのほど台湾を訪れ、各界の女性リーダーと交流、女性の社会進出の現情を学んだ。

メンバーは同研修事業の参加者や「九州台日文化交流会」関係者など10人。台北市では陳郁秀・元行政院文化建設委員會主任委員(文化相)や、女性の地位向上運動のリーダーと意見交換。台湾の立法委員(国会議員)選挙では各党の比例代表名簿の半数が女性であることなど、女性の社会参画が制度的に義務付けられている現状を学んだ。

また、許世楨・前台北駐日経済文化代表処代表と、夫人で児童文学者の盧千恵さんと交流。政治的理由で、30年以上日本での生活を余儀なくされた経験談や、文化交流の取り組みに耳を傾けた。

(台北・小山田昌生)

台湾でいう「社区营造」は日本において「地域づくり」と称されている。

20数年前大分県の大山町は梅の栽培とその特産品によって、経済的に繁栄しただけでなく住民の雇用機会も増加した。また、町民は海外視察などの自主学習と実地研修によって習得した経験を地域に持ち帰り、地域の農産業向上に貢献した。大山町で始まった「一村一品」運動は大分県全域に広がり、更に九州、全国各地へと広まった。当時それは「村おこし」運動と称され、その経済効果が重んじられた。

その後「地域づくり」は雨後の春筍のごとく興起発展した。「地域づくり」は国土交通省総合政策の重要項目でもある。20世紀における政府主導の地域おこしと違って、21世紀は少子高齢化と地方公共団体の財政難、産業構造の変化によって地域社会は厳しい状況に陥り、地域の再生は逼迫した課題となった。中央集権型行政肥大化の疲労も加わって、「地域づくり」はもう「地域住民のため」(for the people)だけではなく「地域住民による」(by the people)創出となった。主導権は政府から官民連携を経て住民の手に渡され、従来の「中央省庁主導による縦割り画一行政システム」は「住民主導による個性総合行政システム」に改革され、「分権型民主社会」の達成が期待される。

民主主義体制の必須条件に「参加と平等」がある。しかし現代日本における住民の政治に対する無関心と疎遠は何を意味するのだろうか？それは最も基本的な「みんなの事はみんなで決めよう」という自己管理や自治意識の欠如である。政府組織構造がどんなに完璧であっても、君臣民、上から下への一方的な「give and take」方式において、住民はただ受動的に待望するだけだろう。

政府の組織構造を飛躍させ、住民自ら学習理解、問題発見、目標設立、計画立案、執行推進、開発進展、評価調整を進めるなど…住民共同の意識決定、参加と協力を通してひとつの「公的事業」を完成すること。言い換えれば下から上への「do and take」は住民としての責任義務遂行を通して権利を完全共有(of the people)すること。このような共同学習と参加の過程あってこそ住民は能動的に共同体の命運を主導することができ、共同生活の次元において民主を実感しうる、生命力あふれる社会が実現可能となるのだ。賢明な政府であれば適度な補助、指導、監督の立場で住民の自己管理につ

いての知識、能力、方法と運営を導き、持続監督の責任を果たすであろう。

また住民と住民の間や世代間には資源分配、利害関係、利益団体など…複雑な関連性が存在する。これらは「道徳」の再教育、地区学習を通して、基本的な個人と公民、個と公、義務と権利、人権と正義を教えて自立した自律と自制を持った良民を培うことが要となる。さもないければ、「地域づくり」の名目を借りて資源(補助金、人脈、派閥、選挙、営利、権勢)が乱用されてしまう。それは中央集権や官僚の汚職に劣らず腐敗を招くであろう。

現在台湾における「地域づくり」は百家争鳴のごとく、地域のネット登録だけでも三千六百余りにのぼる。「地域づくり」に対する理解と経営はそれぞれの団体によって異なる。住民が自発的に自主能力を発揮できるならば、共識と画策を結集し、集団永續経営を実行できる。このような共同參與の「過程」を通して民主的な生活方式も実現できる。身近な地域の「公」から始め、地域住民の自己決定権の拡充を通して、ジェンダー、年齢、職別を超え、すべての階層の住民が共同參與して民主主義を実現する；地域の次元における住民主導の、男女共同參與の民主主義を基礎にしてこそ、国政次元での健全議會政治が成り立つのである。

陳其南教授の言葉を引用すると：「地域全体の造りとは、新たな地域、新社会と新人種を造ることである。この「人作り」の工程において、頼るべきは地域良民と有識者の相互学習、自己学習と自己改造である。地域全体の造りとは体系化された地域学習社会と学習共同体を建造することである。」地域づくりすなわち人づくりであり、人材の育成は地域づくりの急務でもあると言えよう。

日本各地で立ち上げ展開された地域づくりの企画、活動と事業について、団体間の情報交換、交流支援など各団体の活性化のため、各県各市に地域づくりの団体協議会、及び全国協議会が置かれている。福岡県においても「地域づくりネットワーク福岡県協議会」が設置され、2008年4月現在で184団体が加入している。その主な事業内容は①研修・交流支援、②区域ごとの会議、③情報提供などがある。

地域づくりの實務推進と作業において、住民の意志による積極的參與は必須であり、特に女性たちの力は不可欠である。福岡県政府は地域づくりを推進する女性人材育成のため、「男女共同參與推進課」による「福岡県女性海外研修の翼」事業を26回も行ってきた。この海外研修をかりて海外の各種制度、施設を視察、調査し交流を通じて国際視野を広げ、各自の地域において研修成果を発揮して地域づくりに役立てるのを目的とする。

今年、「福岡県女性海外研修の翼」第15回生の台湾研修について、我々「九州台日文化交流会」は喜んで台湾の経験を提供し、政治、文化、法律、外交、地域づくり各方面で活躍した個人と団体を研修内容に組み入れた。また、会長でいらつしやる四維宗曉先生と企畫執行を担当された本郷啓成先生に御同行頂き、至極光榮に存じます。このような草の根外交を通して、更に台湾と日本の住民間相互理解を深め、互いに高め合い、「民政奉還」なる民有、民治、民享の民主社会の実現がいっそう期待されるのである。



台湾での女性の社会進出の現状について学んだ研修団メンバー —台湾・苗栗県



絵：九州大学名誉教授 片野 博

感想文 福岡県女性海外研修の翼第15回生 団長 稗田慶子

私達平成9年度(第15回つばさの会の仲間20名“いちごの会”)会員は毎年研修旅行を実施してきた。今迄何度か海外にも行きたいとの希望もあったが、実現しなかったが、13年目となる今年、それが遂に実現した。外国人のお友達が沢山いらして国際交流で大活躍していらっしゃる片野さんの企画で、平成21年10月8日～11日の3泊4日で、台湾研修となった。今回の参加メンバーは片野、久保田、坂本、中村、野崎、稗田とそれに片野さんのおつれあいと野崎さんのお嬢さんの8名であった。故宮博物館をはじめ名所、

旧跡、文化施設等を要領よく案内して頂き、又台湾の歴史も勉強出来たし、女性団体と交流することも出来た。大変有意義でしかも楽しい海外研修であった。そして何より“めん類”のおいしかった事。種類も多く、どれも味が旨かった。又、食べに行きたいものである。

今回は片野御夫妻とその御友人に大変お世話になった。心より感謝しお礼申し上げる次第である。

台湾の皆様、又九州台日文化交流会の四維先生、
本郷先生、大変お世話になりました。

麗しの島台湾 野崎通世

10月8日から3泊4日の台湾視察は、事前には想像
もできない素晴らしい旅行となりました。

台湾の方は親日家の方が多いとは聞いていましたし、20年ほど前に音楽関係のことで行った時も、大変厚遇を受けたことを覚えています。今回は行く先々で台湾の歴史と文化、産業に触れ、また市民運動の方々のエネルギッシュな話もお聞きし、とても充実した日々となりました。

ご案内役の本郷先生、視察を計画してくださった事務局の片野さんをはじめ、団長の稗田先生、また同行の方々、現地でお目にかかった方々に心から感謝申し上げます。

台北では、総統府・国立師範大学などを見学、そして旧街九份へ。

九份老街での楽しいショッピング試食(?)等。ここで私は二人の娘と、中の娘と呼んでいるお嫁さんに、それぞれの名前をお花と鳥の美しい絵文字でアレンジしたものを、可愛らしい額に入れてもらいました。

また、圧倒された国立中正文化中心、壮大な劇場と音楽堂、そのスケールの大きさ美しさ。その台湾を代表するトップの陳郁秀董事長は叡智を秘めた、風格のある美しい方でした。

その夜の晩餐会では、一人のファッショナブルな美しい若い女性が印象に残っています。

台北市の市議会議員で、ここは議員50数名の内20数名が女性とのこと。しかもこの国では、まず候補の段階で4分のが女性というクォーター制が導入され、女性の進出を推進しているということでした。

2日目は故宮博物館に行き素晴らしい台湾の財産と共に「翠玉白菜」もしっかり見てきました。夜の山荘での音楽会では、ご当地の女性コーラスに驚き！私た

ちがつたなく歌った台湾の歌「雨夜花」を、女性コーラスの方々が全員で歌われた時、星降る異国の夜空に響き渡る、そのあまりにも深みのある美しい歌声に、足が震えるような気がしたのを覚えています。

50年もの長きにわたり、日本が統治してきた台湾。その是非はともかく、時として故郷日本の懐かしい匂いを感じるの、私一人ではないでしょう。

3日目は人間国宝郭芝苑先生のお邸を拝見でき、三義木雕博物館を訪れ、またい草の博物館では、実際織っている現場を見学し、その素適な製品の数々に感動しました。

4日目は高雄を流れる愛河のほとりを散策。前日この愛河を市民を巻き込んでの運動を展開して清流とした許玲齡さんのお話を聞くことができ、台湾の女性のパワフルな行動力に敬服しました。

全行程を若き書道家の陳世憲先生が、最後の日は愛娘さんも連れてのエスコート。日本では、考えられない大らかさ。初日、3日目の晚餐会の華やかさ。ディナーの美味しかったこと、ワイン・ピールのほどよい冷たさ。すべてが夢の中の世界のようにでした。きっといつまでも心に残る旅となることでしょう。いろいろとお世話になりました。



「台湾研修のつばさ」感想 野崎真紀

私にとっては3度目の台湾でしたが、これほど充実した台湾旅行はありません。

初日、台湾桃園国際空港から、台北101、圓山飯店、基隆の海岸を横目に「悲情城市」「千と千尋の神隠し」で有名な九份へ。石畳と行燈のレトロな街並みと人の活気が、楽しみにしていた期待を裏切らず、まず初めに台湾を感じた場所となりました。



次に訪れたのは台湾国立音楽廳。大理石のエントランスや素晴らしい展示物、見事なパイプオルガン

のあるステージと天井のシャンデリア、壮大なスケールを感じた後、音楽家である館長からお話を聞く事ができました。まず、最初に出会った「台湾で活躍する女性」でした。日ごろの勉強不足ゆえ、男女共同参画や女性問題については疎い私でしたが、家庭を持ちながら、立派に仕事をされている姿をみて、とてもあがれました。また、夜は、蔡端月舞踏研究社で見学させていただきながら、そこで働く女性に丁寧な説明をうかがいました。

二日目、故宮博物館に収められている様々な展示物(陶器、銅器、玉器など)はとても素晴らしいもので、歴史と文化に触れることができました。午後からは三義の町で、木彫の見学など、地元の文化を見ることができました。山の中の自然豊かな卓也小屋での夕食は、地元の薬膳料理を味わい、珍しい食べ物にビックリしながらも美味しく頂きました。

さらに、許世楷ご夫婦を囲んでの研修(大使の隣ではほほ笑む夫人の表情は、とても穏やかで、しかも力強さを感じました)、合唱団による演奏など、盛りだくさんな夜となりました。

三日目、人間国宝である郭芝苑先生のお宅を訪問した際には、音楽を通じて台湾と日本



を結んだ偉大な功績と、台湾での生活様式がいたるところに感じられる一方、気さくに話しかけてくださる温かさがありました。また、い草の博物館では、女性たちが手作業でつくる作品の数々にも同じ温かさが感じられました。

高雄市へ移動し、愛河での愛護活動の様子をうかがいました。高雄市と多くのボランティア達の「河をきれいにしたい」という思いから始まったプロジェクトですが、その背景には、女性たちがそれぞれの生活を抱えながら、愛護活動を続けてきた事がわかりました。その苦勞のおかげで、魚が住み、両岸には花を咲かせる、本来あるべき河の姿を取り戻すことができたのでしょう。翌朝の散歩は本当に気持ちのよいものでした。「十数年前までは川岸でデートをしようとは思えない」というほど汚れていたとは、全く感じられませんでした。

さて、この旅で私が一番印象に残ったのは、「台湾の女性は夫が亡くなると、翌日から屋台を引いてでも働き始める」という言葉でした。

多くの台湾で活躍するパワフルな女性たちから、力強さを学んだような気がします。



四日間を通し、多くの方と出逢い、台湾のいろいろな文化に触れ、台湾の事がとても好きになりました。また、笑顔もてなしに人の温かさを教えていただいたようにも思います。人とふれあうことの素晴らしさは、言葉は通じなくても、その分、表情やジェスチャーに心がこもり伝えることができるのです。自分の目と耳はもちろん、土や風の匂いを吸い込んで、様々な物に触れ、地元の美味しい料理をいただき、五感すべてで台湾を感じる事の出来た旅でした。

美しい島といわれるにふさわしい台湾の姿に、「絶対にまた来たい!」と思わずにはいられません。

美しい島といわれるにふさわしい台湾の姿に、「絶対にまた来たい!」と思わずにはいられません。

感想文 久保田久美子

「いちごの会」10周年企画、台湾研修のつばさに参加させていただきました。

稗田団長と共に飛んだあの感動をもう一度台湾ツアー稗田団長他いちごの会のメンバーは五人という少ない参加でしたが片野さんの尽力と色々な方の協力で福岡からの一行10人と台湾各地で一緒に下った皆さんとでにぎやかでとても有意義な楽しい旅をさせて頂きました。先ずは、御協力頂いた台湾及び日本の方々に厚く御礼申し上げます。その節は大変お世話になりました。暖かいもてなしを有り難うございました。

「10周年はお祭」観光ばかりでイイヨネー等と呑気な事を考えての参加でしたが内容は翼で飛んだ時を思い出させるほど、ビッシリの研修でした。この度の研修では男女共同参画云々以前の人間としてのあり方、もてなしの心、台湾人の生き方等に私のこれからの人生に多くの示唆を頂きました。

全行程を御一緒に頂いた陳さん、著名な書家との紹介でしたが、とても気さくにおつきあい下さいました。愛娘のたんたんちゃんと一緒に皆で唄った「千の風になって」今も唄っているのでしょうか。

合唱交流でお世話になった若い阮御夫妻、正に男女共同参画。息もピッタリでさりげなく私達をもてなして下さいました。お互いを認め尊重しあっている事が傍目にもはっきり感じられる素敵なカップルでした。

福岡県女性海外研修の翼 中村睦子

「いちごの会」初の海外研修旅行に参加させていただきました。ありがとうございます。研修地は台湾、参加者は稗田団長以下5名の会員でした。十年一昔の感がありました。

企画及び事務局は国際感覚抜群の片野さんをお願いしました。お世話になりました。研修内容は観光旅行とは異なり大変有意義でした。台湾出身の知人も羨ましく思われたほどでした。施設・名所旧跡の視察、著名人との面接等、訪問に感謝し、鉄道・建造物等高度成長には驚かされました。

お会いした中で特に印象深かった先生方では、元台湾大使許世楷氏、夫人の児童文学者盧千恵女史、人間国宝で音楽家郭芝苑氏でした。

親切な方々との出会い、風光明媚な景



行政や文化等様々な分野で活躍されている女性達との交流が実現出来たのは片野さんは勿論ですが陳さんや本郷先生のお骨折りのお陰、本郷先生の折々のお話は奥深く、ユーモアもたっぷりていつも楽しく学ぶ事が出来ました。

私は今回の旅では台湾の女性活動家との交流もさる事乍ら各地で行動を共にして頂いた皆さんに大きな感動をおぼえました。

「千の風になって」この歌を唄う時、私は陳さんやたんたんちゃんを「雨夜花」を口ずさむ時、皆で歌った卓也小屋の夜や阮御夫妻の事を思い出す事でしょう。

謝々 再見

色に感嘆し美味しい料理に舌鼓を打ち、何かと思い出多き4日間でした。片野様ご夫妻、友人の先生方お世話になりました。感謝申し上げます。団長の稗田先生・会員の皆様色々ありがとうございました。



楽しく充実した台湾研修旅行 – 温かい歓迎に感謝 – いちごの会 坂本富子

「いちごの会で海外旅行に行きたいね」との話が出たから、延び延びになっていたところ、1班の片野さんから台湾旅行では?の提案。

台湾には前々から行ってみたいと思っていたので、年休が少ないことも、仕事も、百歳の母のことも横において参加しました。

私が台湾について知っていることは、日本が統治していたこと、第2次大戦後蒋介石が台湾を統治したことぐらいで、乏しいものです。食べ物はおいしそうだし、故宮博物館を見たいぐらいの気持ちでの参加でした。



いちごの会メンバーは残念ながら6名と少なかったのですが、10名の一行は、10月8日～11日の4日間は楽しく、充実した研修旅行でした。

ドジな私は、福岡国際空港が遠くに移転していることを知らず、初日から遅刻、皆さんに大変迷惑をおかけしました。

台湾では、観光もさることながら、毎日新しい出会いがありました。

一日目は、台北市議、弁護士、地域活動をしている女性の方たちの交流。二日目は、台湾駐日本文化代表処前代表 許世楷夫妻との懇親会と郭芝苑室内合唱団の方たちとの合唱交流。ママさんコーラスと謙遜されていましたけれども素晴らしい合唱でした。

三日目は、人間国宝の郭芝苑先生訪問と高雄文化愛河協会の方たちとの交流と意見交換会。汚れた「愛河」を綺麗にする運動から始まった家庭の主婦たちの市民活動が環境保全や文化保存の活動へと進んでいるお話は、私にとって大変興味深いものでした。



このような出会いは、観光旅行では出来ない貴重な体験でした。台湾の方たち(女性たち)の明るさや熱意、たくましさを知ることができました。

台北から高雄まで、台湾の北から南とかけめぐり、観光あり、現地の方々との交流あり、また、食事をご招待してくださるなど、毎回各地で温かい歓迎を受けました。台湾の方々の温かさをしみじみ感じました。

旅行社のツアーにはない創意工夫された日程を組まれ、お仕事も休まれて、朝から夜まで同行して下さった本郷先生、陳さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

また旅行を計画した片野さん、資料の用意や各自への連絡など、その上ご夫妻で私たちのお世話をして下さいまして大変だったことでしょう。

皆さん、ありがとうございました。

最後に、食事もおいしく、台湾料理も満喫でき、大満足の旅行でした。



活気溢れる台湾女性の活動家にふれて

福岡県女性海外研修の翼第15回生 片野 明子 九州大学名誉教授 片野 博

私共10名は、平成21年10月8日～11日まで、福岡県女性研修の翼15回生と九州台日文化交流会と共に台湾で活動している方々を訪問し交流を深めました。



「福岡県海外女性研修の翼」は福岡県内各地で活躍する女性を対象に、地域活動の推進役となる指導者の育成を目的として海外研修を毎年行っており、各種施策や施設を視察・調査し、地域を介して、国際的視野を広げ、女性問題に関する意識を高め、地域活動の推進役となる女性指導者の育成を目指す女性行政の重要な施策で毎年実施されています。今回の台湾訪問は、海外で活躍している女性に直接会って、女性の地位向上、社会活動への参加の在り方等をたずね、今後の女性の活動の指針がえられた研修会になりました。

10月8日福岡発 台北・台中・高雄訪問を致し11日に帰国致しました。

○国立中正文化センター理事長・前台湾文化相 陳郁秀女史と対談し、女性の文化貢献の役割では国家づくり、特に文化の面には女性の力が欠かせず国会議員の4人の中の1人は女性を入れるという法律があり、女性が参画しやすい環境がある事を話されていました。



○台湾婦女団体全国聯合会 創会理事長 尤美女女史 日本の主婦連にあたる組織をつくり、女性の権利向上、女性参政者の人員確保、家庭内暴力法、セクハラ法等の法律制定にとりくんでいらっしゃいました。

○台北市議会議員の呉思瑤女史 市政における女性権利向上政策を市議会で奮闘中と話されていました。

○台湾(舞踊)会の創始者蔡瑞月女史の活動記録を集めている(メモリアル)を訪問。

案内は蔡さんのお嫁さんです。台湾の舞踏を女性の立場から話されていました。

○元駐日大使の許世楷御夫婦 大使を補佐するために大使夫人が大きな役割を果たし大統領や首相のファーストレディーの役割を担う。そのためには自身の国の文化をきちんと理解し、相手国に伝える能力が非常に重要になることを語られました。30年間母国に戻れなかった台湾の事情やその中で台湾と日本の懸け橋として、頑張ってきた



お二人に敬意を心から感謝致します。

○人間国宝勲章をもらった音楽家の郭芝苑先生は合唱団の創始者であり、市民が音楽に親しめるような活動を長期間行ってきた、この活動により、個々であった女性(主婦が中心)が共通の話題と認識をもち、社会活動への参加が活発化したと話されました。

○高雄市文化愛河協会 理事長 許玲齡 女史 高雄市を流れる愛河の汚染を市民活動により改善し、市民の憩いの場とした際の責任者で、一般人の主婦が、自分たちの住む町が経済優先の開発で荒廃することを憂い、子供の代までよりよい環境を確保することの必要性を認識し、仲間をつくり環境問題を改善し、市民運動のレベルまで高められました。また、現在では、文化財の保護と活用を含め高雄市の町づくりに取り組まれています。女性を中心となったボトムアップの活動が社会的に認められた好例といえるのではないのでしょうか。

また、夜の山荘での人間国宝郭芝苑先生一行と合唱団指揮者の阮文池先生とコーラスの皆さんによる歌声は今も私共の心の奥に響いています。文化習慣に違いがあっても心に響く歌声と温かい心は万国共通と思います。この研修で多くの台湾の方々にお世話になったことと、台湾の人々通じ今回もなお一層温かい人柄に触れた研修会でありました。そして今回の訪問が有意義に行われたのも、全行程をお付き合ひしていただいた芸術文化書道家陳世憲先生また九州台日文化交流会会長四維宗曉先生・本郷啓成先生のおかげです。本当に御協力に感謝いたします。そして益々台湾の方々が大好きになりました。有難うございました。



1. 昔、台中の北屯というところに、大金持ちの夫婦が住んでいました。つかいきれないくらいお金を持っていました。それでも、二人はもっともお金がたまらないかと願っていました。ですから、お金を使うことがだいじらい。まずしい人に、ほどこしてあげるなどということは、考えたこともありません。近所の人たちは誰もつきあいませんし、お手伝いにきている女中さんもしばらくいるとみんなやめていきました。



2. ひとりだけ、大きな家にのこって、この夫婦をたづねていました。この女の子はやさしい骨惜しみをしないいい子でしたが、鼻のひくい、目の小さい、おにぎりや押しつぶしたような顔をしていました。おもい病気にいかかって動けない父親のために、がまん強くはたらいていました。一日中コマネズミのように走り回ってはたらき、夜になるとくたびれて、口もきけないほどでした。主人夫婦は女の子のおかしな顔をいつも笑いのたねにしていました。



3. このケチンボ夫婦が年に何回か、たくさんお金を使って、ごちそうを作ることがありました。神さまを祝う祭りの日がそうでした。一月のはじめ、天公生とよばれる神さまのお誕生日を迎えた日、夫婦はごちそうを作るように、女中に命じました。ここへきて、はじめてのことでした。

「ごちそうをどうなさるのですか？家の中にはご主人様だけですのに。」

「おそなえするんだよ。きょうは天公のお誕生日だからね、神様が喜ばれるように、一番上等な材料をつかったお菓子とお料理をおつくり。」



4. 女中が何をつくろうか考え込んでいると奥さんは、つけたしました。

「わたしたちが、こんなに金持ちでいられるのは、祭りのたびにほかの誰よりもいいごちそうを、神さまにそなえてきたからだ。それをしない人は、神さまにみはなされて、貧乏になるんだ。お前だってそうだよ。もっと金持ちになるよう、私たちは、うん

とごちそうを作ってお願いをするのだからね。」
「こんなにお金持ちなのに、もっとお金がほしいのですか？」
「お金はね、いくらあってもこれだけでいいとは思わないのさ。」

5. 女の子は首をかしげながら、ごちそうの用意をはじめました。そのとき、みずぼらしいこじきが裏口から入ってきました。
「きのうの朝から何も食べていないのです。たべものをすこしください。」
こじきは、ふるえる手で、かけた茶碗を出しました。女中は、かわいそうに思って、手にしていたとりをくをわたそうとしました。

6. うしろから、大きな声がして、肉を持った手を、びしやり！と、たたかれてしまいました。だいどころへ入ってきた奥さんでした。

「おまえ、神さまにおそなえする大事なとりにくを、役にもたないこじきなんかにやっとうするのだい？さあ、そこのお年寄り、とつと出て行きなさい。お前にやるようなものは、なにもないんだからね。」



7. こじきは、足を引きずりながら、今にも倒れそうなようすで、出て行きました。奥さんは、女中をにらみながらいいました。

「今度、また、こんなことをしたらおまえもおいだしてしまうよ。」

奥さんが出て行くと、女中はご飯と肉をつつんで、うらぐちから外へ出ました。こじきは、戸口にたおれていました。

「おじいさん、これをあげましょう。早くもって行きなさい。奥さんに見つかる大変だからね。」

8. それから、何日かたったある日、女中は、近くの川へでかけていきました。エビを一かごすくってくるよう、いいつけられたのです。川の中へ入ってすくっていたのですが、いっぴきもつかまりません。夕方になり風も、冷たくなってきました。カワラナデシコのくきが、ゆれて寒そうです。女中は、悲しくなつて、なみだがあふれました。鼻の低い、目・小さい、おにぎりやおしつぶしたような、なみだ顔が、水にうつっています。その自分の顔を見て、もっと悲しくなりました。



9. こんな顔だから、みんなにだいにされたい。きれいな顔の女中たちは、この家をやめても、使ってもらえるところがあるけれど、じぶんにはない。心がけが悪いから、みにくくまずしいのだと、奥さんはいう。なみだがとまりませんでした。



10. 「どうしたんだい？やさしいむすめさん。」
とつぜん声がするので、ふりかえると、いつかのこじきでした。
「あつ、お元気でしたか？」
「あの時はありがとう。おかげで、元気でいるよ。ただ、背中の傷が痛くてね。うみを出してしまうと楽になるんだがね。」

11. ひどい傷でした。大きくむらさきいろにはれ上がっていました。

「まあ、大きなおできが。これでは痛いでしょう。」

「両手で、力をこめて押しつぶして、このくすりははってくんかね？」

「力をこめて押していいのですか？こう？」女の子は、おできをそつと、力をこめておしてやりました。うみがピューととびだし、女の子の顔や手にかかりました。

12. 「ありがとう。やさしいむすめさん。この川の水で顔と手を洗いなさい。それからかごを入れて、エビをすくってごらん。」

女の子はいわれたとおり、顔と手をあらいました。ひびだらけだった手が、白くなめらかになりました。

かごを水に入れました。持ち上げられないほどの、エビが入っていました。女の子はおおよろこびで家へ帰っていきました。



13. 裏口に、どっこいしょとかごをおいた女の子に奥さんは、がみがみいいはじめました。

「今ごろまで、なにをしていたんだね。エビは取れたかね、おや？」

14. 女の子が顔を上げると、奥さんは目を丸くしました。

「おまえは、い、いえ、あなたは、だれなのですか？」

女の子のほうがおどろきました。
「奥様、どうしたのですか？わた



しですよ。」

「だって、お前にちがいないのだけれど、どうしてそんなにきれいに、」

「奥様、また、わたしの顔を笑いものにしないでください。」

「からかっているんじゃない。いったいどうしたんだね。見違えるほどきれいになって。」

女の子は、川でこじきにであったことを話しました。

15. 「そうだったの？じゃー、あのこじきは神さまだったんだ。お前、もう一度川へ行つて、あのおじいさんを家へつれておいで。」

女の子が裏口からでていこうとしたとき、こじきが通りかかりました。奥さんはニコニコしながら、こじきの茶碗に、食べ物をたくさんいれてあげ、背中にはってあるこう薬をはがしました。



16. 「まあー、ひどい傷。うみを出してあげましょう。」

力いっぱい傷口をおしたので、こじきは、ひめいをあげました。出てきたうみを、奥さんは顔にぬりました。ご主人の顔にもぬりました。

17. それから、二人で川へ急いでいき、冷たい水の中に飛びこみました。顔だけでなく、手も体もごしごしみがきました。どうしたのでしょうか。ごしごしこすると、灰茶色の毛がはえてきます。洗えば洗うほど濃くなってきます。水にうつった顔も毛だらけです。体じゅうごわごわした毛でおおわれているのにおどろいて、ぬれたまま家へとんで帰りました。



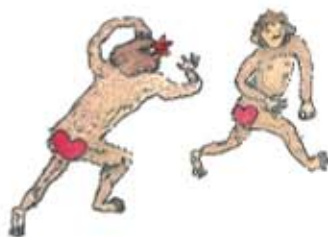
18. こじきはまだいました。帰ってきた二人を見て、かまどの中から、熱くしておいたレンガを二つだし、いきました。レンガの上に落ちたしずくが、音をたててかわいてしまうほどの熱さです。

「この上におすわり。」

二人は、いうとおり熱いのをがまんしてすわりました。おしりは、レンガの上でジュージュ音を立てました。金持ち夫婦は、長いあいだ、レンガの上にすわっていました。おじいさんのいうことをきけば、元にもどると考えていたのですが、毛は全身に生えたままです。がまんできなくなった二人は、立ち上がって、おじいさんをさがしにいきました。おじ

いさんはいつの間にか見えなくなっていました。おしりは真っ赤にただれました。

19. 灰茶色の毛におおわれた全身、真っ赤なおしり、いつのまにかはえたしっぽ、今までギャーギャーもくばかりいていた口からは、人間の言葉ではない、キャッキョという音が出るだけになりました。二人は、はずかしくなつて、やまおくに、にげていきました。



20. 台中の北屯にある観音山にいくと、たくさんの子孫が、竜眼や、マンゴーの木の下をのびのびと遊んでいる様子が見られます。

註：作者 盧千恵女史(写真左)は台湾人の児童文学者。台湾駐日経済文化代表処前代表許世楷夫人。1936年台湾生まれ、1955年来日し、夫と共に台湾民主と独立運動に関わってこられました。2004年夫の代表就任に伴って再来日されました。2008年6月17日、夫の代表辞任に伴い日本を離れました。現在は台中市に在住。

主要著書：『呉鳳さまー子どもに聞かせる台湾人ものがたり』こぐま社、1975年。『台湾は台湾人の国：天になるごとく、地にもなされたまへ』はまの出版、2005年。許世楷と共著。『私のなかのよき日本ー台湾駐日代表夫人の回想五十年』草思社、2007年。

註2：絵は台北芸術大学学生 宋艾凌の作品です。



写真：本郷啓成

關於作曲家郭芝苑先生 阮文池

郭芝苑先生出生於日治時代（一九二一年），一生走過幾個文化性質非常不同的統治政權時期，他說，他就如同前總統李登輝先生一樣，深刻感受到台灣人的悲哀。尤其身為在這個時代的讀書人，在學習過程上，都遇到很大的困難。成長學習的時期因為戰爭沒有機會有完整的學習，更沒有豐富的西方文化來源，當然這不只在音樂領域如此，其他領域也一樣受到波及；而戰後台灣，又因為國民黨政權實施所謂「封鎖政策」，獨裁統治，新的進步的西方文化資訊進不來，連要出國唸書也要是所謂「黨政關係」非常好的人才有可能。戰後，至少有二十年的時間，郭芝苑先生稱當時的台灣是「文化的沙漠，無樂之邦」。



郭芝苑先生說，他非常後悔當時沒有聽勸日本友人的意見，留在日本。後來確實證明，戰後實施民主制度的日本，在他們謙卑認真的民族性，在學習西方文化上的復甦非常快速，尤其音樂的部份，很快的他們就趕上西方現代音樂的步伐。

但是雖然如此，他選擇回到台灣，卻並沒有在台灣當時那種惡劣文化環境下，放棄學音樂，放棄這條他自己稱的，所謂「不歸路」；他依然靠著自學，透過美國親人寄來的現代音樂樂譜研究，了解現代音樂的新趨向，甚至還在四十幾歲再度到日本留學，一生不斷的努力創作，為台灣創作了很多具台灣獨特民族風格的經典之作。他有一本書的書名就自己取名叫「穿紅鞋的人生」，意思是，他要如同電影裡的舞者，穿上紅色的舞鞋後，就不可能再脫下，一定要跳到死為止。這應該是郭先生一生從事音樂創作最鮮明的寫照。

在西方音樂進入台灣的一百年裡，第一代作曲家中，不管是來自中國或是台灣本土，在作品數量、種類、品質的水準上比較完整的，並且具現代性的作曲家，第一位是江文也，第二位就是郭芝苑了。其餘的第一代作曲家，大部分只寫一些聲樂曲，合唱曲，配上一些簡單和弦的鋼琴伴奏，老實說，在西方不會稱他們是作曲家。不過，雖然如此，我們也不能抹煞他們對台灣音樂史的貢獻。只是台灣因為政治意識形態等等關係，誇大他們是偉大作曲家，而真正重要的作曲家，大家卻不知道，這不是好現象，值得反省。

戰後回到台灣的郭先生因為不適應中國人的習



慣與作風而沒有在大學音樂系任教，在整個大環境劇烈改變下，這位萌芽於日治時代、應該活躍於戰後台灣的作曲家，卻逐漸遠離所謂的主流音樂舞臺，真正變成郭先生自稱的「失聲的一代」！導致一般民間頂多只知道郭先生是「心內事無人知」、「紅薔薇」和「楓橋夜泊」的作曲者。甚至好像以為他是一位不大有名氣、失意、寫流行歌的業餘作曲者一樣。直到九〇年代隨著政治上解嚴所帶來本土文化的復興，這位堅持一生的音樂創作者才得到遲來的掌聲。前文建會主委陳郁秀教授為他寫了一本書，說他「記錄了由小市民至知識份子，由廟口至音樂殿堂的所有心聲」；國立台北藝術大學音樂學教授顏綠芬寫了很多文章書籍，鄭重的向台灣音樂界宣示了郭芝苑先生在台灣音樂史的重要地位。不過，那個時候，郭先生已是七十幾歲白髮蒼蒼的老者了！確實，這樣的掌聲是遲來的。

真的，再說一次，郭芝苑先生的創作範圍是從歌劇、交響曲、協奏曲、管絃樂、室內樂、器樂獨奏曲、合唱獨唱歌曲等作品都包括，而且作品的質和量都有很高水準，並具有現代性的專業作曲家，這在當時台灣第一代作曲家裡，除了江文也先生以外，是沒有的，大家應該要好好認識他，而且在台灣開始接觸西洋音樂之初，確實是扮演著舉足輕重的角色，可以說是台灣現代民族音樂的開拓者，尤其對大部分不認識自己文化的台灣人來講，他也是本土文化復興的重要啟蒙者。

註：作者阮文池老師任教於靜宜大學。也是指導郭芝苑室內合唱團的指揮。



2009年5月1日～7日まで、「歓喜合唱団」のピアニストとして演奏旅行in台湾に参加させていただくこととなった。初めての台湾に期待でいっぱいだった。

新型インフルエンザが出始めたばかりの頃だったので、慣れないマスクをし、万全の対策で福岡空港を出発。そしてあっという間に台湾到着。到着した機内で聞き慣れた歌がBGMで聞こえてくる。合唱で練習した「満山春色」だ!! 数少ない私の知っている台湾の歌が流れてきて、とても嬉しくて感激し、台湾に来たのだなと実感した瞬間だった。

1日目

「いざ台北市内へ!」と、その前に、早速小さな失敗をしてしまった。桃園空港からタクシーに乗る際のこと。日本で言う「助手席」側に回り、ドアを開け乗り込もうとした私。運転手さんにビックリされてしまった。台湾では車は右側通行だったのだ。運転手さんごめんなさい。

いよいよ市内へ向かい高速道路を降りるころ、眼前に異国情緒たっぷりの、あまりにも堂々とした建物が現れる。「圓山飯店」というホテルらしい。日本では見られない色使いや建築様式に釘付けになった。しかし釘付けになるのはまだ早すぎた。荷物を置いて早速連れていってもらった大きなお寺。その屋根の彫刻たるや信じられない複雑さ。ドラゴンをメインモチーフにして、うねりを表現したような色鮮やかな装飾が屋根に施されている。どうやって作っているのだろうととても疑問だ。この大きなお寺だけが凄いかと思ったが、後日田舎の小さなお寺でも同じような飾りを目にし、これは台湾の特有の物なのだとなつ納得した。朱色に対しての鮮やかな青。この組み合わせは日本にはないと思う。

暗くなり夜の屋台へ出かける。ちょうど帰宅ラッシュ時なのか、やたらとバイクが多い。しかも二人乗りは当たり前。中には、お父さんが運転でお母さんが後部、その間に子供が乗って3人乗り。一体何人乗ってる? というのもあった。しかし何となく懐かしい光景に思える。交差点には、車の停止線より前に設けられた「バイク待機スペース」みたいなものがあるのに驚いた。青信号になるとバイクレースが始まるのかと思うほどだ。

屋台から溢れる食べ物の匂い、車やバイクの多さとその騒音、店員さんや行き交う人々の大きな話し声、まぶしいほどのネオン、気温、それらすべてから強くて逞しい生活へのエネルギーを感じた。日本では感じるここのない感覚。

2日目

故宮博物館に連れていってもらう。想像以上に大

きくて風格漂う建物に見とれてしまった。是非隅々まで見たいと思ったが、あまりの人の多さに断念した。でも、あの「白菜の翡翠」だけは見なくては!! と思い、人込みをかき分けて「白菜」を目指す。やっとの思いで見つけた瞬間の私の感想は「あれ?? ちっちゃいな...」。本物の白菜と同じサイズを想像していたので、なんだか狐につままれた気分だった。しかし、あの光り輝く翡翠の美しさは見事だった。他にも興味深いものがあったのだが、観光客で大混雑していたため、後ろ髪をひかれつつ後にした。

3日目

合唱団のメンバーが揃い九份へ向かう。途中の景色を見ていると本当に飽きない。白い花の木が、山のあちこちに見える。背の高い南国特有の木も見える。ガムの木(檳榔樹)も教えてもらった。ガム屋さんについての面白い知識(?)も教えてもらった。

山間に見える家のようなものはお墓なのだそう。てっきり別荘か何かとばかり思っていた。日本で見るような湿っぽくて陰気な雰囲気は感じられない。こんなに明るい雰囲気だと、お墓の景色もいいものだなと思う。

九份は今では有名観光地だが、昔は九件しか家がなかったとか。昔の静かだった頃を想像しながら通りを歩いた。静かな村が観光地化されていく様子はどこも変わらないのだろう。

4日目

いよいよメイン行事であるコンサートの日。場所は、台北県貢寮というところの山奥にある学校だった。私はどんな女の子達に会えるのかとても楽しみだった。そして会ってみると、想像通り笑顔のかわいいどこにでもいる子達だった。

コンサートでは、みんな真剣な眼差しで聞いてくれていた。嬉しかったのは、言葉が通じない私も、ピアノの音を通してコミュニケーションできたことだ。ピアノをやっていてよかったなと思ったし、音楽は世界中どこでも通じる大きな力を持っていると改めて思った。生徒たちがピアノの側の扉から出て行くときに、私に笑顔を見せてくれたのが忘れられない。彼女達がいつか、心からの笑顔でずっと過ごせる日々が来ることを願う。

4日目夜は苗栗の「建民農場」という所で地元の郭芝苑室内合唱団との交流パーティーが行われた。食事は合唱団の皆様の手作りで、私には見た目も味も珍しいものばかりで大興奮だった。

食事後は、まず地元の郭芝苑室内合唱団から発

表があった。全く歌詞の内容はわからないのだが、とにかく迫力の演奏で、情熱的な歌ばかりだった。しかも上手い! 皆さん本格的に歌の勉強をなさっていたのかな? と思ったほどだ。何かわからないが、エネルギーの強さに只々圧倒された。後で聞くと、やはり恋愛などの情熱的な歴史ストーリーがある歌だったようだ。

次に驚いたのは、それらの曲を作曲なさったのが、その場にいらっしゃった台湾の人間国宝である郭芝苑先生だったということ。一見お見受けすると、とてももの静かでお優しい雰囲気なので、激しく情熱的な曲とのギャップが大きかった。一体どのような先生なのだろうかとても興味深く思えた。

5日目

まず、苑裡にある「華陶窯」という植物園のように広大で素敵な庭園を見学。何もかもが美しくて珍しくて、写真を撮るのに大忙しだった。その後、なんとあの郭芝苑先生のご自宅に伺うということになった。日本でさえ人間国宝のお宅に伺うなどという機会がないのに、台湾でこんな機会が訪れるなんて!

伝統的な台湾スタイルのおうちなのだろう。門、壁、庭など何でも新鮮で、興味津々だった。先生はプライベートのお部屋におられ、そこでご挨拶をした。私のことなど覚えておられないだろうと思ったが、ちゃんと覚えていてくださって感激だった。

「どこの大学で勉強したのか?」という事を聞かれたと思う。「東京音楽大学です。昔は東洋音楽大学と言っていました。」と申し上げると、実は郭先生は若い頃に東洋音楽大学に留学する予定だったということをおっしゃっておられた。偶然にも嬉しい共通点が見つかった。本当に驚きだったが、郭先生との距離が少し縮まった気がした。そして先生は、日本で勉強なさるようになった経緯など昔のことをお話してくださった。日本で学んだ事にとっても影響を受けているということをお聞きし、私は日本人として嬉しく、少し誇らしい気持ちになった。

先生の書棚には、日本で馴染みの深い音楽書や楽譜などがたくさん並んでいた。先生は何の訛りもない大変きれいな日本語をお話になるので、一瞬ここが台湾だという事を忘れてしまいそうだった。最後に先生からピアノ曲の楽譜をいただいた。音楽に携わっているものとしてこんなに嬉しいプレゼントはない。私のようなものにまで、温かく接して下さいって本当に有難い。いつか郭先生の曲を演奏して、たくさんの方に知っていただけたらと思う。

最終日

観光の定番「101」へ行く。街の中に突然聳え立

つタワー! 色といい形といい、他の国の高層タワーとはまた異なる様相だ。しかし中にはいると何か新鮮さを感じない。何故だろうと考えた。日本にも同じようなビルがあるよね? 六本木ヒルズ? 新宿? 台湾でも日本でも、もし次に高層タワーを作るなら、どこにもないようなものをお願いしたいな...

今回台北では、私は指揮の吉川先生、団長の萬さんのお宅にお世話になることとなった。そこではご家族の皆様本当に温かく迎えていただいた。そして日本語も交えて会話してくださった。台湾語・中国語が全くわからない私にとって、日本語を話してくださるのはとても安心できた。しかし同時にとても複雑な思いでもあった。なぜみんな日本語を話すことができるのか... 自分にはどうしようも出来ない事なのだが、過去を想い、自分のことに置き換えながら、あらためて温かくおもてなしをしてくださるご家族に感謝の思いを持った。

約2年前「歓喜合唱団」との出会いがあるまで、私の台湾に関する知識は皆無に等しかった。恥ずかしながら学校の授業で習った程度のことしか知らなかった。当初団員の方とお話していると、みんな自国を思い愛する気持ちが強いことに驚いた。当然日本も関わってきたこれまでの複雑な歴史などが背景にあるのだろう。日本人は自国についてこれほど熱く議論することがあるだろうか。

台湾はいつもどこでも賑やかだ。最初にも書いたが、街の中はクラクションや車の音が絶え間ないし、人々の話し声もとても大きい。食べ物のインパクトも最高だ。生きるパワーを強く感じる。それを経験すると、日本はなんて淡泊なのだろうと思ってしまう。おとなしい。食べ物も薄味。もちろんそれが日本の良い所でもあるのだが。日本にお住まいの台湾の方々、きっと日本を物足りないと思っているのではないだろうか。今回の旅は、自分が日本人であることを意識し、自分を見つめる良い時間だった。

初の台湾旅行に関して、まだまだ書ききれなかったたくさんの事がある。また機会があれば是非ご紹介したい。食べることが大好きなので「食べ物特集」も書けそうだ。

この2年間で新しい世界が大きく広がり、さらに楽しく豊かな人生になった。「歓喜合唱団」の方々には本当に感謝している。「ピアノ」という私にできることで、何か台湾・日本のために協力できることがあれば嬉しい。

最後に、この旅行に際して台湾・日本でご尽力いただいた皆様に感謝申し上げたい。

2009年5月1日～7日，我以「歡喜合唱團」鋼琴伴奏的身份，一起前往台灣演奏旅行。這是我生平第一次去台灣，所以有很多的期待。

正好是新流感剛爆出來的時候，戴著不習慣的口罩，以萬全的準備從福岡機場出發。沒多久就抵達台灣。飛機剛一著地，機內BGM傳來一首很熟悉的歌曲，正是歡喜合唱團練習曲之一的「滿山春色」！！也是我僅知少數的台灣歌曲之一。那種真正到達台灣的瞬間實感，那種高興與感動真是無以言狀。



第1天

才想說「Go！向台北市出發！」，就馬上犯了個錯。從桃園機場搭計程車時發生的事。我繞到左側在日本叫「助手席」的門，正想開門進去，却被坐在裏頭的計程車司機嚇了一大跳。原來在台灣車子是右側通行的。計程車司機！对不起！

快到台北市內，下高速公路的時候，眼前突然出現一大片異國風情，富麗堂皇的建築，聽說是「圓山飯店」。我望著在日本絕對看不到的建築用色和樣式發愣。

但是說發楞，還早呢！一放下行李，朋友馬上帶我去附近一家很大的寺廟。那兒屋頂的彫刻，那種複雜的造形實在令人難以置信。主要樣式的龍的造形，以及為了表現龍的波浪起伏，安置各種鮮艷色彩的裝飾。令人感到不可思議的是這些彫刻到底是怎麼製作的呢。我以為只有這間大寺廟特別不同凡響，後來去鄉下地方，那兒的小寺廟也是類似的裝飾，我才明白這種以朱紅色對鮮青色的配色是台灣的特色。我想在日本是不会有這種組合的。

天黑後，我們往夜市去，正好是下班巔峰時刻，摩托車多得嚇人。而且乘坐兩個人是理所当然的。有的還是父親在前面駕駛座，母親坐後面，孩子夾在中間，共3個人。有的還分不清到底乘坐幾個人的呢。但是不知怎麼形容才好，那種有點令人懷念的光景。另外令我驚訝的是在十字路口，車輛停止線的前面好像設有「摩托車待機區」。好像綠燈信號一閃，摩托車賽車隊就要衝出去那樣。

從夜市裏漂出來的食物的味道，車子和摩托車之多，還有噪音，店員和來往行人的大嗓門，刺目耀眼的霓虹燈，氣溫，所有這些都是導引支持剛毅堅強生活的能源。這也是在日本感受不到的感覺。

第2天

請朋友帶我去故宮博物院。望著比想像中魁偉，獨特風格的建築，真是看呆了。原想看遍故宮的每個角落，但是看到集在那兒的人山人海，不得不放棄。但是，那個「翡翠白菜」不能不看！！於是拼命殺開人群，目標朝向那個「白菜」。好不容易找到白菜的一瞬間，呈現腦海裏的感想却是「怎麼？？這麼小...」。想像中應該和真的白菜一樣大，此刻反如狐迷一般的氣分。不過，翡翠光輝燦爛的美真的是太棒了。雖然還有其他感興趣的東西，但是觀光客太多太混雜的關係，不得不難分難捨的離開。

第3天

合唱团成员全部到齊後，一起往九份去。途中的風景，再怎麼看都不膩。山的這道那道到處都可看見開白花的樹。很像南國特有的高大樹木。他們告訴我說是檳榔樹。還告訴我一些有關檳榔的有趣知識（?!）。

在山腰看到很多很像房屋的建築，聽說是墳墓。我還以為是別墅呢。不像日本那般陰濕的氣氛。像這麼明亮氣氛的墳墓景色也是蠻好的。

九份如今已是有名的觀光地，聽說以前只有九戶人家。想像著從前靜謐的鄉間風景漫步其間。靜謐的鄉村被觀光化的樣子，似乎到那裏都一樣。



第4天

終於到了主要活動音樂演出的日子。場所在台北貢寮鄉山裏的一所学校，和平常學校並沒有什麼差別。想像著到底會遇到怎樣的女同學，越想越高興。果然和想像中的一樣笑容可愛的孩子們。

音樂演出時，大家都以認真的眼神靜靜的聆聽。最令我高興的是雖然我語言不通，但透過鋼琴的琴聲，彼此之間可以有對話與交流。不只讓我覺得從事鋼琴工作真好，更再度讓我想到音樂無國界的巨大力量。我永遠無法忘懷當學生們從鋼琴旁邊的門出去時，對我投來的微笑。我也祈願這些女同學們能每天由衷地展現微笑，迎接每個日子。

第4天晚上在苗栗的「建民農場」，和當地郭芝苑室內合唱團有交流晚宴。料理全部是團員們自

己親手作的，都是我從來沒看過，沒吃過的珍奇料理，讓我興奮不已。

餐後，由郭芝苑室內合唱團先表演。雖然我完全不懂歌詞和內容，但感觉得到那股迫力的演奏與熱情的歌唱。而且唱得相當的棒！真讓人以為是接受正規音樂教育，科班出身的。不知是為什麼，總之被那能量的強度激盪壓倒。事後問了，才知道是有關愛戀的歷史愛情故事。

再讓我吃驚的是，作這些曲子的是來到現場的台灣人間國寶郭芝苑老師。剛見到他，是一種非常安靜溫柔的感覺，和激情曲子的落差未免太大。也深深的讓我更想知道到底是怎樣的一位老師。

第5天

先去苑裡一家叫「華陶窯」像植物園那樣寬廣美麗的庭園參觀。裏面每樣景觀都很美，又珍奇，光是照相都忙不過來。而後我們去郭芝苑老師的家拜訪。在日本連想去人間國寶的家拜訪的機會都沒有，沒想到却在台灣有這麼難得的機緣。

傳統台灣式樣的宅邸。對我來說門，壁，庭院等等，都是新鮮有趣的。郭老師在他的房間，我們去那兒打招呼。我以為他不記得我，沒想到他居然記得清清楚楚的，讓我好感動。

記得他問我：「在那個大學讀書的？」。我回答說：「東京音樂大學。以前叫東洋音樂大學。」

郭老師告訴我，他年輕時原來預定去東洋音樂大學留學的。說是偶然，也為這個偶然出現的共通點感到高興。真的很驚喜，和郭老師之間的距離也縮短了些。郭老師還和我談了一些從前在日本讀書的緣由和經過。聽他說，在日本學習的經驗對他有很深刻的影響，這些話也讓我這日本人分享到些許的歡喜與自豪。

郭老師的書櫃裏，擺了很多在日本很熟悉的音樂書籍與樂譜。郭老師說著一口沒有外國腔的標準日本話，恍惚間讓我忘了自己是在台灣。

最後郭老師還送我鋼琴曲的樂譜。以一個從事音樂工作者來說，沒有比這更令人高興的禮物了。連像我這樣的人，他也那麼溫和的接待，真的非常感激。希望將來能演奏郭老師的曲子，讓更多的人知道郭老師的作品。



最後一天

去觀光定點「101」。在市街的正中間突然聳立的高樓大廈！顏色和造形都很好，和其他國家的高樓大廈不太一樣。但是進去裏面後反倒感覺不出什麼新鮮感。思索著到底為什麼。在日本也有類似這樣的高樓大廈吧？六本木Hills？新宿？台灣也是，日本也是，如果下次要再建高樓大廈，希望是別處沒有的高樓大廈...

這次在台北，我到指揮吉川老師和萬團長的家裏打擾住宿。她們的家屬都很溫和的接待我，而且都能用日本話和我對話。對不會台灣話、中國話的我來說，他們用日本話說，讓我感到安心。但同時又有一種複雜的思緒。為什麼大家都會說日本話呢...雖然說那是自己無能為力的事，但想到過去，置身處地的想一想，真的由衷感激這麼溫和接待我的這些家屬。



大約2年前遇到「歡喜合唱團」之前，我對有關台灣的認識幾乎等於零。很慚愧僅止於學校學習到的一些皮毛知識。最初和團員說話時，大家對自己國家的強烈關心與愛心，我真的嚇了一跳。當然這裏面也有和日本有關的複雜歷史背景。而日本對自己的國家是不是也會這麼熱心的議論呢。

台灣何時何地都這麼熱鬧。最初也有談到，街上喇叭，車子的聲音不絕不斷，人們說話的聲音又大。吃的東西的衝擊最大。讓人強烈感覺到生存的力量。有了這樣的體驗，不覺中會覺得日本為何如此淡薄，溫順和善，吃的東西也是淡薄。當然那也是日本的好處。住在日本的台灣人難道不覺得日本短缺了什麼的感覺嗎。這次的旅行讓我意識到自己是日本人這件事，也讓我有了時間和自己面對面的自我審視。

關於此次的台灣初旅，還有很多很多想寫沒寫的事情。將來有機會的話，希望能繼續介紹。我很喜歡吃，也許還能寫「食物特集」也說不定。

這兩年不只世界變大變寬，人生也更豐富愉快。真的很感謝「歡喜合唱團」的團員們。我能作的「鋼琴」這件事，如果對台灣、日本之間有所幫助，那將是無上的喜悅。

最後，在此感謝為這次旅行盡力的台灣、日本友人。

●專題 牙齒保健

今天的談話1、微笑的人生

大家都知道 16 世紀義大利文藝復興時期達文西的名作『蒙娜麗莎的微笑』。她那內歛溫婉的微笑，一直到今天都還歷久彌新、扣人心弦。我常常想：她的牙齒不知道長得怎麼樣？如果她的牙齒露出一點點的話、她的微笑是不是一樣迷人呢？也許少了那份內歛、也就不神秘了吧！還是她的牙齒有蛀牙、排列又不整齊、不能露出來？

但是到了 20 世紀、時代不一樣了、開放解放的世紀、那個美女影星微笑時不露齒？奧黛麗赫本也好、瑪麗蓮夢露也好、右邊 4 顆半、左邊 4 顆半、明亮潔白的牙齒隨順著下唇、柔柔地一排微微彎曲的微笑曲線、宛如天成皎潔的上弦月。

於今達文西如果在世、他畫的『21 世紀蒙娜麗莎的微笑』、相信不只明眸、而且也會是「皓齒」吧！有說：「象由心生」。一個人即使有一口漂亮的牙齒和臉蛋、如果沒有善良聰慧的心智、也表現不出那個人獨特的美。兩者兼具是現代人努力的目標。

運用您善良的心意與聰明的智慧、將您的美麗微笑如孔雀開屏般的回向四方與眾生。那是上天賜與您的最佳寶物。

好了、接下來、讓我告訴您們一些有關「牙齒」的具體知識、觀念與方法。

今天的談話2、自己的牙齒自己保護

日本厚生省(等於台灣的衛生署)對於 21 世紀日本人的口腔保健政策推出「8020 運動」。意思是：即使到了 80 歲、也至少保有 20 顆以上自己的牙齒。

除去智齒、健全恆牙應該有 28 顆。(門牙 8、犬牙 4、小白齒 8、大白齒 8。)

保有 20 顆以上自己的牙齒的話、至少大部分的食物都能咬碎、能享受吃飯的樂趣。事實上保有 20 顆以上的 80 歲老人都比較健康有活力。

面對 21 世紀高齡化社會、每個人都希望自己能擁有健康的身体與高品質的生活。而大部分的疾病多屬生活習慣病、只要本人的努力、大部分的疾病都能預防。

但是對於疾病的實態與原因沒有正確的了解與知識的話、疾病的預防與健康的維持也是困難的。蛀牙和牙周病的預防也是一樣。如果沒有「正確的」知識觀念與方法要領的話、即使一天刷牙再多次的牙、也是徒勞無功。

維護好人體第一道關門的口腔健康、才有可能維護好全身的健康。

- 在大家的曾祖父母那一代、大部分人的嘴裏不只缺牙、連假牙也沒有。
 - 在大家的祖父母那一代、嘴裏戴的不是全口假牙、就是部分假牙。
 - 到了父母這一代、活動假牙變少了、但是金牙・銀牙・瓷牙・牙冠・牙橋・人工齒根...變多了、琳瑯滿目。
 - 而您們這一代呢？「應該」是返本還源、回歸自然健康的本來面貌才對。
- 事實上、發展途上國的蛀牙率一直增加、而先進國家的蛀牙率却一直減少。為什麼呢？因為有關蛀牙與牙周病的原因幾乎都已解明、以此知識為基礎、
- ① 國家衛生署對於人民的口腔健康促進、有正確的理念・政策與實施方針。
 - ② 人民的醫學知識提高、對於健康管理的自我責任與要求也徹底實行。

20 世紀與 21 世紀牙科醫療的差異

20 世紀	21 世紀
治療中心 (CURE)	預防中心 (CARE)
疾病的結果出來了、才去治療	了解疾病的原因、預防疾病的發生
口腔裏有很多金屬・填充物・假牙...等人工物	口腔裏很少有金屬・填充物・假牙...等人工物
有了疾病與疼痛才去醫院	沒怎麼樣的時候定期健診
去醫院的目的：治療	去醫院的目的：健診・指導・預防
醫療的主角：醫師	醫療的主角：患者（來院者）
對於醫療的態度：被動的	對於醫療的態度：主動的

今天、我們只針對「個人」的層面、來和大家交換一些心得。
我相信各位的口腔裏、以各位的年齡來看、每個人應該都有 28 顆牙齒才對。

我相信大家到 80 歲的時候、也希望跟現在一樣、有健康的 28 顆牙齒吧！

可能嗎？—可能！只是、要倒過來想：為了達成目標、現在該怎麼辦？

●治療：現有的蛀牙與牙周病、趕緊治療。因為蛀牙與牙周病是會自然消失的。蛀牙多半只會越來越大。(如果只是表面琺瑯質的初期脫灰或蛀牙、可以選取定期觀察、不必要馬上磨洞添補。當然、不可自我診斷、要請牙科醫師幫您診斷。)

●預防：①齒質強化②飲食習慣③刷牙正確④定期健診。

①齒質強化：睡前氟化物漱口可抑制牙齒鈣質的脫出、促進牙齒的再石灰化。(睡前的意思是說：嗽完後、就不要再飲食或飲水。)

②飲食習慣：・養成三餐定時定量定質、營養均衡的飲食習慣。・不偏食不零食不夜食。・最怕一整天嘴裏都在吃東西、那會使口腔裏唾液的 pH 值降低、造成牙齒的損傷、無法修復。・零食應避免果汁、碳酸飲料、選取單純無糖的茶、水、豆漿或牛乳。・避免易粘牙的糖果、餅干、巧克力之類、留在口腔裏的時間越短越好。・選取具有纖維性、有咬勁、少加味料的單純食物。

③刷牙正確：牙垢是蛀牙和牙周病原因的細菌群塊。建議您到牙科診所、請牙科醫師與護士教大家正確的刷牙方法。當然定期清除牙垢與牙結石是絕對必要的。

所以我們說刷牙、是刷什麼呢？→刷牙垢。

大家想一想、吃完飯後的碗、馬上洗的話、一下子就清潔溜溜了。但是那個碗如果擱在桌上放一個晚上、第二天早上要洗時、硬硬的一層殘飯、不好洗吧！刷牙也一樣、等牙垢硬成牙結石時、您怎麼刷也刷不掉它了。

・刷牙的原則：

①左右上下、裏外前後、還有咬合面。從這角刷到那角、每顆牙、每個縫、每個角落都要刷乾淨。

②不可造成牙齒與牙肉的損傷。大部分人的錯誤是該刷的地方沒刷到、不該過力刷的地方拼命刷。

③飯後馬上刷牙。考前睡前→再忙再想睡也要刷牙。

・刷牙的道具：

①牙刷：選取小一點的單純牙刷。太硬的會傷牙齒與牙肉、太軟的效果不好。刷毛外翻時、請換新的牙刷。今天分給大家的牙刷是很好的參考。②單束牙刷：這是補助用的。牙刷刷不到的地方、比如最後轉角的部位、舌側齒頸部、斜面、排列不整的部位、矯正裝置...等。

③牙線或牙間刷：專門清牙縫用的。兩顆牙齒靠在一起的隣接面、牙刷刷不到。這兒也是最容易蛀牙和牙周病的死角。年輕人牙縫不大、適合用牙線。到了中年牙縫變大時、牙間刷的效果更好。④牙膏或漱口水：有加乘效果。有的漱口水有制菌、殺菌效果。

・牙刷的使用：●牙刷刷毛與齒頸部呈 45 度角、●刷毛盡可能進入牙縫、●前後 2-3mm 小幅度振動移動。大幅度移動的話、力道都加在齒頸部、而重要的牙縫却刷不到。●一顆一顆照順序刷、不要這邊刷刷、那邊刷刷、只是表面工夫、徒勞無功。●刷齒頸部的力量不可太大、約 150-200 g 的力量、輕輕的沿著牙齒與牙肉的境界線刷過去。●上顎大白齒的外側與下顎大白齒的裏側不容易刷乾淨、要多學習。●最後轉角處的地方、牙刷也跟著轉過去刷。(實地指導)

④定期健診：3-6 個月的間隔、保持定期健診的習慣是守護牙齒健康的捷徑。而每天地道的力行正確刷牙工夫則是守護牙齒健康的根本。

最後、請大家試試看、練習一下美麗的微笑。

- 首先、用手掌將自己的表情肌按摩一下、放輕鬆、●再來、張開大嘴、合起來、再張開大嘴、合起來、●然後、兩頰像吹氣球那樣、大大的膨脹起來、●好、將上唇嘴角拳肌輕輕的舉起來、像上弦月那樣彎成美麗的曲線。●微微的張開嘴微笑、牙齒看見了嗎？右邊 4 顆半、左邊 4 顆半、門牙切端露出一點點、對！就是這樣！美麗的上弦月！美麗的牙齒！美麗的微笑！
- 今天、明天、後天、天天都美麗！

九州台日文化交流會 牙醫師 本郷啓成・本郷みどり・吳輕煙



蕭泰然

用生命譜寫對故鄉的愛戀 用音樂呼喚台灣人的心靈
他為台灣人留下的民族精神財產 一生職志只為榮神益人

「金銀我擁無，只有將我所有的給您——就是我的音樂！」

在世界樂壇早已享有一席之地之蕭泰然教授，以其一貫溫文儒雅的口吻，說出上面的話。其實，除了音樂，他待人的謙沖為懷，處事的止於至善，他對祖國與朋友親人的真情至性，說不完的完人特質與典範；用台灣話說就是「若是親像之種人，係是擎油企仔火著無地找啊！」（如斯人者，即便持煤油燈亦找不著的！）

1938年元旦當天，整個高雄市的婦產科都歇業，臨盆的孕婦緊急送到鳳山娘家後，由舅媽在難產下勉力的接生了蕭泰然；自幼在留日學鋼琴的母親教導下，他7歲就曾首度公開演奏。高中行將畢業時，齒科醫生的爸爸，依循台灣人的慣例，長子理當繼承衣鉢，於是家庭掀起不小的風波。長榮中學戴明福校長在惜才殷切下親赴蕭家說項：「您兜泰然將來若作醫生，只不過是一個普普通通的醫生，伊的志向沒在茲，若予伊學音樂，未來的發展一定無可限量。」從此蕭教授開始譜寫其璀璨不朽的人生樂章。1963年及1967年先後畢業於師範大學與日本武藏野音樂大學，返國後正式其教學演奏與作曲生涯。

1977年憨厚的蕭夫人在商場上被人訛騙了鉅額金錢，他只有選擇移民美國重新來過的打算，幸得朋友湊錢開了一間藝品店；此時他並未放棄心中的音樂，在租來的鋼琴上擺面鏡子，邊彈琴還可以隨時「觀照」來客，勉強糊口。開店第2個月卻遇到能源危機，生意大受影響。有一天，店裡進來3位老婦人，在聽了他的琴藝後，娓娓的道了兩句：「Young man! Why are you here?」她們的意思是說：像你這種人應該是在舞台上演奏的人才，為什麼屈就在這裡呢？

受到如此的啟發，他當下意識到：莫非是上帝透過3位老婦人傳來的旨意？「趕緊回到音樂之路吧！別在這裡浪費時間了！」上帝讓他一無所有後，鼓舞他重新再起之力量。於是，他收拾店鋪，去加州大學與女兒一起讀音樂研究所。

蕭教授於1987年獲加州大學碩士學位，為其作品注入新的活泉；同年受北美洲台灣人教授協會(NATPA)之託，出版《蕭泰然創作曲集——台灣人的詩篇》，收錄了71首作品；更難能可貴的是在其沉重負擔之下，仍致力於國際樂壇對台灣本土音樂的認識與重視，並擔任台灣人文藝協會會長及台灣人音樂社負責人；1985、1989年兩度指揮文藝協會室內樂團巡迴北美演出，對凝聚海外台灣人心靈與思鄉的交集有莫大之貢獻；1988年起陸續接受台灣人聯合基金會所託，先後完成《小提琴協奏曲》、《大提琴協奏曲》與《鋼琴協奏曲》。

1993年年尾，蕭教授因大動脈腫瘤開刀，生命一度垂危，連醫生都宣告沒有希望，當時他禱告上帝：再給我一段時間吧！等完成《1947序曲》再來召我回去吧！否則就請上帝幫我譜寫了。終於如願順利的走出死蔭的幽谷，在尚未康復中仍勉力完成這首至今已被全世界樂壇公認為「台灣人最偉大的史詩」的序曲，多次為世界一流樂團所公演。

近年蕭教授雖然「無脈」卻「有心」（經過大手術後竟然把不到脈衝），為了故鄉台灣及音樂，為了榮神益人，他孜孜不倦的讓一首又一首偉大作品相繼誕生。他說「長久以來，我有一個感覺，我們有像林昭亮那麼優秀的演奏家，卻沒有好作品，以至於，他們只好演奏別人的作品。」

他感覺：音樂家的責任在於將過去流傳於斯土的民謠、通俗歌謠妥善的整理，正如柴可夫斯基、西貝流士的作品，亦可聽出他們的民謠風格。

蕭教授自我期許：整理先民的音樂文化資產，就好比摘草藥或蕃薯葉一般，不能連根帶葉還沾著泥土就拿來吃，一定要先作一番處理，我們可以抽出好的部份，把不好的再重新改寫，只要好好的處理，就可以端得上檯面，一有機會，便可推上世界樂壇。

誠信：縱然物換星移，再久遠的將來，蕭泰然3個字依舊會為全人類所熟悉；而《毋通嫌台灣》與《上美的花》也必如《菩提樹》與《野玫瑰》般，永遠傳唱全球。那麼！《蕭泰然小提琴協奏曲》與《1947序曲》這些經典之作的留芳萬世代，更是無庸置疑的。

（以上蕭泰然教授的介紹轉載自網上資訊「典藏台灣」。）

上美的花 詞：東方白 曲：蕭泰然

上美的花 請問你 上美的花 開在啷
我愛伊 永遠未飲 我愛伊 永遠未謝
我愛伊 永遠清香 我愛伊 永遠美麗
我聽見花偷偷也跟我講：

我沒開在 Rocky 我沒開在 Canyon
我孤開在你心中 你日夜思念的故鄉 上美的花

阿母的頭髮 詞／向陽 曲／蕭泰然

做姑娘的時陣 阿母的頭髮 烏金柔軟又滑溜
親像鏡同款的溪仔水 流過每一位少年家的心肝頭
嫁給阿爹的時陣 阿母的頭髮 活潑美麗又可愛
親像微微的春風 化解了一度浪子的阿爹
生了阮以後 阿母的頭髮 端莊親切復溫暖
親像寒天的日頭 保護著幼稚軟弱的阮
阮大漢以後 阿母的頭髮 已經失去了光彩
親像入秋的天頂 普通的景色裡一層收成的偉大

阮若打開心內的門窗 詞／王昶雄 曲／呂泉生

夢中的佳人 詞／Moderato 譯詞／王毓驊 曲／佛斯特 S.C.Foster

點心担 詞曲／蕭泰然

想著楊桃湯冬瓜茶，心涼脾土開，若是 Seven up Coca Cola，氣味天差地。
想著楊桃湯冬瓜茶，來啊！飲一杯，闊一杯。

台北圓環仔新竹槓圓，彰化肉圓仔，老鼠麵，
台中鵝仔肉，台南擔仔麵，高雄海鮮，屏東碗粿。

想著楊桃湯冬瓜茶，精神百倍好！若是 Seven up Coca Cola，實在真正善。
想著楊桃湯冬瓜茶，來啊！飲一杯，闊一杯。

嚙通嫌台灣 詞／林央敏 曲／蕭泰然

咱若愛祖先 請你嚙通嫌台灣 土地雖然有卡隘 阿爸的汗 阿母的血 沃落鄉土滿四界
咱若愛子孫 請你嚙通嫌台灣 也有田園也有山 果籽的甜 五穀的香 乎咱後代吃未空
咱若愛故鄉 請你嚙通嫌台灣 雖然討趁無輕鬆 認真打拼 前途有望 咱的幸福未輸人

出外人 詞曲／蕭泰然

咱攏是出外人，對遠遠的台灣來，雖然我會講美國（日本）話，言語會通心未通。
咱攏是出外人，在遠遠的台灣彼，有咱的朋友與親人，不時互相在思念。
人人在講美國（日本）是天堂，使人真欣羨，若是問你講是怎樣？“天堂不是在此”！
咱攏是出外人，對遠遠的台灣來，雖然我會講美國（日本）話，言語會通心未通。
咱攏是出外人，在遠遠的台灣彼，有咱的朋友與親人，不時互相在思念。



赤とんぼ

- | | | | |
|-------------|------|----------|-------|
| (1) 夕焼け小焼けの | 赤とんぼ | 負われて見たのは | いつの日か |
| (2) 山の畑の | 桑の実を | 小かごに摘んだは | まぼろしか |
| (3) 十五でねえやは | 嫁に行き | お里の便りも | 絶え果てた |
| (4) 夕焼け小焼けの | 赤とんぼ | とまっているよ | 竿の先 |

日本NHK曾經問券調查過最喜歡的日本歌、最能代表故鄉的歌、最想傳給下一代的歌...等等、每次這首「紅蜻蜓」總是最高得票。這首歌可以說是代表日本人的心靈原鄉。作詞者三木露風(1889-1964)在他4歲時父母離婚。他的母親是一位感性強烈、思想前進、又有文學才華的女性、而他的父親則是一位有放蕩癖的人、所以露風從小就由祖父母養育、由幫傭的姊姊照顧。這些寂寞孤獨的際遇與苦惱在他的詩作裏處處可感。這首「紅蜻蜓」的原詩發表於1921年。由當時有名的作曲家山田耕筰作曲。

- | | | | |
|------------|-----|-----------------|--------|
| (1) 夕陽裏の | 紅蜻蜓 | 小時候被摺在背上看到這樣的景緻 | 是什麼時候呢 |
| (2) 山上菜園裏の | 桑椹 | 摘到小竹籠裏 | 如幻似夢 |
| (3) 十五歲姊姊 | 出嫁了 | 故鄉的音信也 | 絕途 |
| (4) 夕陽裏の | 紅蜻蜓 | 停在 | 竹竿的那頭 |

這首詩裏、「被摺在背上」是幫傭的姊姊摺他、或是对母愛的思慕？而「十五歲姊姊」是指幫傭的姊姊、「故鄉的音信也絕途」暗示「心靈的歸依也絕途」。最後「竹竿的那頭」就像蜻蜓點水般地淡淡的任孤獨往無窮延伸。

シャボン玉

- (1) シャボン玉飛んだ 屋根まで飛んだ 屋根まで飛んで こわれて消えた 風々吹くな シャボン玉飛ばそ
(2) シャボン玉消えた 飛ばずに消えた 生まれてすぐに こわれて消えた 風々吹くな シャボン玉飛ばそ
(1) 肥皂泡泡飛呀飛 飛到屋頂上 飛到屋頂 消失不見了 風呀風呀你別吹 肥皂泡泡會吹掉
(2) 肥皂泡泡消失了 還沒飛就消失了 一生出來 就消失不見了 風呀風呀你別吹 肥皂泡泡會吹掉

中山晉平(1887-1952)作曲、野口雨情(1882-1945)作詞。據說雨情有個孩子生下來沒多久就去世了、他把那份傷心思念昇華、託付於這首「肥皂泡泡」的詩情裏。儘管他的孩子否定這種說法、但是大家寧願相信詩人的這份深情。

浜辺の歌

- (1) あした浜辺を さまよえば 昔のことぞ 忍ばるる 風の音よ 雲のさまよ 寄する波も 貝の色も
(2) ゆうべ浜辺を もとおれば 昔の人ぞ 忍ばるる 寄する波よ 返す波よ 月の色も 星の影も

成田為三(1893-1945)作曲、林古溪(1875-1947)作詞。林古溪是漢詩古典文學的研究者、詩裏不只出現古字古文、作文的起承轉結也運用自如。比如第一段的あした、並非明天之意、而是早朝之意。第二段的ゆうべ、不是昨夜、而是傍晚之意。さまよえば是彷徨之意、もとおれば是徘徊之意。

花の街

- (1) 七色の谷を越えて 流れて行く 風のリボン 輪になって 輪になって かけていったよ 春よ春よと かけていったよ
(2) 美しい海を見たよ あふれていた 花の街よ 輪になって 輪になって 踊っていたよ 春よ春よと 踊っていたよ
(3) すみれ色してた窓で 泣いていたよ 街の角で 輪になって 輪になって 春の夕暮れ 一人さびしく 泣いていたよ
(1) 飛越七色の山谷 飄流而去 風的彩帶 幻化成團 幻化成團 跑著過去哟 春天呀春天 跑著過去哟
(2) 看見美麗的大海哟 滿滿都是 花的街路哟 幻化成團 幻化成團 舞著舞著哟 春天呀春天 舞著舞著哟
(3) 在莖色窗角邊 哭著哭著哟 在街角邊 幻化成團 幻化成團 春天的黃昏 一個人寂寞哟 哭著哭著哟

團伊玖磨作曲、江間章子(1913-2005)作詞。1940年代後期戰後當時日本全土形同廢墟、站在家屋倒塌的瓦礫焦土堆中、江間女士的心中浮上了這首「花街」的詩。透過美麗的花朵、透過和平的祈念、透過溫柔的歌聲、輕輕的撫慰到處都是受難寂寞的生靈。

里の秋

- | | | | |
|------------|-----------|----------------|------------|
| (1) 静かな静かな | 里の秋 | お背戸に木の実の | 落ちる夜は |
| ああ | 母さんとただ二人 | 栗の実 | 煮てます いろいろ端 |
| (2) 明るい明るい | 星の空 | 鳴き鳴き夜鴨の | 渡る夜は |
| ああ | 父さんのあの笑顔 | 栗の実 | 食べては 思い出す |
| (1) 寂静寂静的 | 故郷の秋天 | 樹上の果実掉落到竹籠裏的夜晚 | |
| 啊~啊~ | 只有母親和我兩個人 | 煮著栗子果 | 於圓炉辺 |
| (2) 明亮明亮的 | 星空 | 夜鴨的哭鳴哭鳴画過天空的夜晚 | |
| 啊~啊~ | 父親特有的那個笑容 | 吃著栗子果 | 回想起来 |

海沼実(1909-1971)作曲、齊藤信夫(1911-1987)作詞。齊藤曾經擔任過小、中學校的教師。1945年終戰前後的動盪期、日本家家戶戶都會為被徵兵出外打仗的家人(也許是丈夫?兒子?或父親?)擔心安否。這首「故郷の秋天」以孩子寫給父親的慰問文形式道出大家的心聲。這兒只摘出兩段、另外還有後兩段。1945年12月24日在NHK放送局第一次播出時、唱這首歌的是小學5年級生的川田正子、才剛唱完、NHK的電話就一直響個不停。一首歌能產生這般直入人心、扣人心弦的大反響據說是NHK開局以來第一次。

夕焼小焼

- | | | | |
|------------|--------|-------------------------|------------------|
| (1) 夕焼小焼で | 日が暮れて | yu u ya ke ko ya ke de | hi ga ku re te |
| 山のお寺の | 鐘がなる | ya ma no o te ra no | ka ne ga na ru |
| お手々つないで | 皆かえろ | o te te tu na i de | mi na ka e ro |
| 鳥と一緒に | 帰りましょう | ka ra su to i sho ni | ka e ri ma sho u |
| (2) 子供が帰った | 後からは | ko do mo ga ka e ta | a to ka ra wa |
| 丸い大きな | お月さま | ma ru i o o ki na | o tu ki sa ma |
| 小鳥が夢を | 見る頃は | ko to ri ga yu me o | mi ru go ro wa |
| 空にはきらきら | 金の星 | so ra ni wa ki ra ki ra | ki n no ho si |

草川信(1893-1948)作曲、中村雨紅(1897-1972)作詞。這首家喻戶曉、每個人都能朗朗上口的「夕陽」、意思是說(1)夕陽西下、山上廟寺的鐘響了、大家手牽著手、和鳥鴨一起回家吧!(2)小朋友回家以後、又圓又大的月亮出來了、當小鳥作夢時分、天空一閃一閃的亮金星。

沒有過多的修飾或技巧、彷彿到處都可見到的故鄉風景、彷彿本來就存在那兒的旋律、給人一種回到家的安心感。

故郷

- (1) 兔追いし かの山 小鰯釣りし かの川 夢は今も めぐりて、忘れがたき 故郷
(2) 如何に居ます父母 恙なしや友がき 雨に風に つけても 思い出ずる 故郷

岡野貞一(1878-1941)作曲、高野辰之(1876-1947)作詞。兩個人都是東京音樂學校的教授、但是兩個人的性格卻完全相反。岡野是虔誠的基督教徒、內斂的情感、認真的人格與對基督的信仰、昇華表現在他的作曲中、使他的作品具有讚美歌的風格。

相反的、作詞的高野豪放磊落、雄弁闊達、教書也常常脫線、談天說地、充滿人間味、深得學生的歡迎。

他們兩個人共同譜出的名曲有「紅葉」、「春が来た」、「朧(おぼろ)月夜」和這首「故郷」。

這首「故郷」的意思是(1)在山上追兔子、在河裏釣小鰯的童年回憶、即時到如今也會在夢裏相思、啊!難忘的故鄉。(2)故鄉的父母親近況如何、朋友們別來無恙、不管風吹雨打、啊!思念的故鄉。



歡喜合唱終於跨出一大步，回到台灣以歌會友，我們雖然是短短的3天2夜之行，卻帶回許多難忘的回憶！

我們第一個晚上住在莊教授的貢寮別邸，和藹笑顏的莊媽媽（莊教授的母親）替大家準備了一大盤令人垂涎的水果。好像迎接遠方子女回家那種親切的感覺。她一個人不停的替大家準備茶水，第二天一大早為大家準備一桌令人懷念的台式早餐。她的親切笑容永遠注入我的心中。



吃完早餐之後，坐在屋簷下享受寧靜的早晨及呼吸新鮮的空氣。貢寮真是空氣新鮮的好地方。

接著我們到豐珠國中做這次台灣之行的第一場表演，唱一些台灣的歌曲和日本民謠給和自己孩子一般大的學生聽，希望他們長大之後，還能記住曾經聽過住在日本的叔叔阿姨的歌聲。雖然我們沒有太多的時間和大家溝通，用歌聲傳達我們的心聲，和大家共渡一段美好的時光。

本來這次的台灣行是準備和海洋大學的海韻合唱團做發表交流會，我們遲遲未做決定，所



出外人 齊藤華蓉

離開熟悉的家鄉、來到陌生的國度、在大海的另一端、以不同的語言溝通生活、轉瞬間已度過好些歲月。在承享有心人因緣際會的交流、大家藉由家鄉熟悉的語言、唱出懷鄉的旋律、久逢知己的心境、感受到家鄉人的盛情難却、離鄉人的依依不捨、讓我們長年旅居國外的一群出外人、

以這次是先到海洋大學訪問，受到海韻合唱團員的熱烈招待，很可惜我們只停留短短的幾十分鐘。他們的熱誠又打動了我的心。期待下次的相聚。

接下來我們到苗栗的建民農場，又是另一種感動。離鄉背景二十多年了，每次回台灣都在台北近郊走動，台灣有這麼多好地方，也吃了一驚！真是變“日本土”了。建民農場真是世外桃源，自然的風景好美。

這次也受到郭芝苑合唱團阮老師的邀請，在建民農場舉辦小型合唱發表會。當天晚上桌子上擺滿了團員手做料理，每一道都是那麼好吃。後悔沒在日本先減肥，來吃大餐。郭芝苑合唱團的團員不只有好手藝，而且很會唱歌，可以感覺到大家对音樂的喜好。這也是第一次聽到台灣語的歌舞劇，別有一番風情。郭芝苑老師也從頭到尾聆聽我們的歌聲，日本的童謠是否喚醒他少年的回憶，那場演唱會太令人感動了！捨不得結束。

真的想寫的東西太多了！就像「出外人」這首歌的歌詞一樣，“言語能通心不通”是我們居住在海外僑胞的心聲。台灣的一切的事、物、人、都非常親切溫暖了我的心。這次的台灣行感謝所有的朋友對我們的接待，三言兩語無法詮釋對大家的感謝，永遠忘不了您們的情義。期待再相會了！



在5月的油桐花季節裡到訪了我們期待再次碰面的日本朋友們。在今年1月份時我們和阮老師及6位人員已在福岡遊玩了近十數天了，在這十數天裡每天的行程真是精采絕倫、毫無冷場，走過、到過、見識過日本的當地生活以及許多美麗特別的景點，更遇到了許久未曾下大雪的福岡，竟被我們遇到了，哇!!我們真是興奮玩雪玩到渾然忘我真是美麗，就像畫一般。由衷的感謝當時全程熱情招待我們的本鄉醫師夫婦，著實的讓您們辛苦了!也謝謝合唱團指揮林老師、下城淑惠老師和他的團員們、尤明輝先生、陳英典醫師的招待，也感謝鹿兒島的娣代阿姨謝謝你開著車帶我到處旅遊。真是謝謝您們!! 所以當我們得知團員們即將來訪時心裡真是高興與期待，心想這一定會是個最美、最棒、最真的交流，就如我們到福岡參訪一樣。



5月4日傍晚時分見到了大家，那燦爛熟悉的笑容依舊是如此的親切，好像一點也忘了他們剛是拖著行李爬著坡的累了，問候擁抱也在在的使彼此溫暖在心中。晚間時刻及到所有的重頭戲即將登場，道地的台菜更是團員們最佳的拿手絕活，大家也都吃的讚不絕口、津津有味。餐敘後進入



到了交流主題【台日音樂文化交流會】由最佳主持人本鄉醫師及阮老師擔當，在演唱中兩團的歌聲彼此吸引著彼此，日本歌有日本歌的美；台灣歌有台灣歌的美，是那樣的令人感動。在二位超級主持人的搭配中邊演出邊解說介紹曲目，也和坐席的來賓聽眾互動熱絡笑聲連連，讓台日交流會上多了些歡笑熱鬧的場面，我想這是團員們首次見識到本鄉醫師及阮老師機智逗趣的一面吧!!還真讓人意猶未盡呢!記得當天晚上我們坐在戶外一起喝著阮師母泡的茶，聊著天、搖著椅、說著笑，那種悠閒愜意的氣氛使人格外珍惜難忘懷。

曾看過一本書說「日本文化以社會和諧為基調，他們重視人與人的關係」。的確，由他們的禮節便可看出它們使大眾社會更加和諧；而我們的學習是需要時間、耐性及一顆受教的心。文章中他提到『太陽使泥土堅硬如磚，也能叫蠟燭柔軟成行；苦難能叫人心腸變硬，也能將人們煉成精金』。我想這正是台灣這美麗的國家最好的寫照，相信有這麼的一天台灣必要贏得這片地，在此剛強茁壯。

註：蔡佩君是郭芝苑室內合唱團的鋼琴伴奏。2006年3月隨郭老師來福岡，於福岡あいの演出，相信大家還記憶猶新。



★台北景賢寮鄉・豐珠國民中小學校★

海洋大學莊慶達教授安排我們回台灣，讓我們有回饋服務與獻唱的機會。

和莊教授的談話裏，我們得知海洋大學的海韻合唱團經常到老人、孤兒等施設去演出，以美麗和協的歌声温暖人心，照亮社會。這也是我們很願意學習，樂意付出的小小心願。

利用今年5月的黃金假期，我們來到台灣最東端的台北景賢寮鄉，那是我們從來沒有來過的偏遠地區。從台灣的歷史裏我們知道景賢寮鄉的古名叫「損仔寮」，凱達格蘭平埔族語「損仔」（KONA）的原意是捕捉野獸的陷阱，而為了等候捕捉野獸，在陷阱附近搭設的草寮，就叫「損仔寮」。

我們也知道西元1626年5月5日西班牙遠征艦隊避開佔據安平的荷蘭軍，從馬尼拉沿台灣東海岸北上，5月11日從東北角的基瓦諾灣（Kivanowan）地區登陸。就像16世紀葡萄牙船員看到台灣島時高呼「Ilha Formosa！」那樣，西班牙艦隊來到基瓦諾灣時，呼稱這兒為「Sandiego」，取其音譯就成了現在的「三貂角」。至於西班牙人為何稱此「Sandiego」，有一些推測，但就字面的意思西班牙文Saint Diego即英文的Saint James（James the son of Zebedee），基督12使徒之一，台灣聖經稱之為雅各，日本稱ヤマト，也是西班牙的守護神（The Patron Saint of Spain）。

經過269年後的1895年4月17日，日清戰爭，清國敗戰，依據日清間的馬關條約第二款

規定清國割讓台灣全島及所有附屬各島嶼，澎湖群島與遼東半島與日本。5月29日由北白川宮能久親王統率的近衛師團從三貂角與鼻頭角之間的澳底南方（現在的塹寮）登陸。日清之間的移交



手續本來預定在台北舉行，但清國全權代表李鴻章的兒子李經方唯恐引起台灣住民的反感與襲擊，堅持改在三貂角的海上舉行。從此台灣再度被迫接受被殖民的統治命運，展開維時50年的日本統治時期。

再經過100年後的1990年代，事情同樣是發生在景賢寮鄉。但這次不是西班牙，也不是日本，而是我們台灣的核四廠。隨著藍綠政黨的對抗，立法院預算案凍結解凍翻來復去，景賢寮鄉美豐村住民的反核抗爭也跟著上上下下進進出出。核四廠成為政客手中的一顆黑白棋子，而扮演永遠是輸家的則是景賢寮鄉無辜的住民與無言的大地。1999年3月17日，核四廠正式動工，經過十年後的今天，政黨也再一次輪替了，抗爭不來抗爭無用的住民無可奈何地望著巨大怪物的核四廠，又能如何？被稱為守護神的Saint Diego是否能保核四廠的無事安全？是否能保美豐大地的永遠翠青？是否能保景賢寮大海的不受污染？是否能保景賢寮鄉的住民永遠健康平安？

和核四廠同一村美豐村的山嶺處有一所鮮為人知的豐珠國民中小學校，全部學生有40多人，老師也有40多位。我在衛星地圖的指標上好不容易找到了美豐村，但是找不到這所特殊的學校。望著地圖上的翠青山脈，想像著那裏面一顆一顆含



苞含章的明星和明珠，是怎麼樣的学生呢？心裏有著無比的期待與盼望。當吳校長將題名「豐澤藏珠」的校刊交到我們手裏時，「啊！原來如此！」的恍然大悟，那兒的確是一座宝山寶庫。校園裏有一座橋叫「蝴蝶橋」，每一位學生就宛如一隻「豐蝶」，川梭校園群蝶飛舞。班級的名称有稚蝶、詠蝶、羽蝶和翔蝶，全部是蝴蝶各個成長期的名称。原來如此！原來如此！生命如蝶，在幼虫孵化後的成長過程中，由於牠的外殼無法跟著身體一起成長，因此必須藉著一次又一次的脫皮行為來成長，而後進行吐絲的工作，把自己固定成蛹，在蛹殼裏蛻變成蟲，而後羽化，展翅。人的成長過程似乎也是如此，總得經歷一段又一段漫長苦痛的脫皮和蛻變，方能脫蛹成蝶，展翅高飛。



交流會在視聽教室進行。我們家有三位牙醫師，因此，先由我們以微笑人生主題為先導，中場以深入

淺出的預防觀念導入正確的醫學知識，和正確的口腔保健方法，最後以刷牙的實地指導為結束。在有限的時間裏，我們不敢說會有多少的助益，但希望我們帶給學生的講義和潔牙道具會有一些實際的幫助。

音樂時間裏，吉川千巧老師為學生們唱蕭泰然作曲的「上美的花」和「阿母的頭髮」。海韻合唱團陳雪燕老師唱「阮若打開心內的門窗」和「Beautiful dreamer」。我們歡喜合唱團則唱日本童謠組曲「赤とんぼ・シャボン玉・浜辺の歌・花の街・里の秋・夕焼小焼・故郷」和蕭泰然的「點心担」，「嚙通嫌台灣」，「出外人」，還有原住民的「賞月舞」。我們自己唱得很高興，但不知道學生們喜不喜歡；也許唱得不好，但那是我們對生命滿滿的歡喜心與對故鄉濃濃的思念意，希望學生們不嫌棄。



海韻合唱團郭團長也在百忙之中，前來陪我們。

他家那位帥哥公子表演魔術，幽默的玩笑與俐落的魔術，把現場師生來客的氣氛誘到再高點，笑聲大盤小盤，讚歎聲更是此起彼落，欲罷不能。

蜻蜓點水般的過訪，讓我想起「赤とんぼ（紅蜻蜓）」裏最後那段宛如船過水無痕的歌詞：「夕焼け小焼けの赤とんぼとまっているよ竿の先」（夕陽裏的紅蜻蜓停在竹竿的那頭）。



吳校長在校刊裏寫的「感恩與祝福」中說：「…雖然，教師們也常因孩子們的一再衝撞，犯錯，而倍感挫折，但在大夥耐心的討論與相互支援中，總能提振精神，進而建立起更周詳的輔導策略。凡此種種，我在孩子的成長中，看到了大夥努力的成果。更可喜的是，一再地於課程設計與輔導計畫的意見交換中，教師們建立了團隊默契與深厚情誼。只是，每年初夏時節，總令我百般無奈，不斷地要面臨教師異動的聖礙。…轉念再想：教育人生路其實無限寬廣，二、三十年的教學歲月，為孩子付出的愛，永遠是我生命湖面中，最豐富的倒影，最珍惜的瑰寶。來到豐珠前，也曾自我期許，希望有機會到此可植福的廣袤田園中，貢獻智慧，帶領老師成為孩子生命中知福、惜福、再造福，以展現生命可貴歷程的貴人。…抬頭再望，星空中獵戶座清晰可見。不禁暗自默禱，請協助我披荊斬棘，使豐珠的孩子在尊嚴中懂得感恩，並能再次展翅遨翔。」句句道出用心從事教育者的心声。這也讓我想起「最高的教育是建立在老師與學生之間無止境的“信賴”與“愛情”之上。」這句話。

離開豐珠校門，腦海裏浮現那面紺青的衛星地圖。地圖上的景賢與豐珠只不過如宇宙穹蒼裏的一粒塵土，但是今天此時此地，在我的心裏，那兒就是宇宙，星光滿佈的穹蒼。



★苗栗苑裡鎮・郭芝苑室內合唱團★

5月4日午後離開海洋大學、我們直奔苑裡隔壁的通霄建民農場。郭芝苑老師、前駐日代表許世楷教授夫婦、阮文池老師和郭芝苑室內合唱團的團員們都在那兒等著我們。

半路上、和阮老師會合後、他一路為大家解說這一帶的地形。以海拔約600公尺高的火炎山為界、西邊往海岸延伸為苑裡海岸平原、南隔大安溪與后里相望。火炎山原來是礫岩紅土、經大安溪溪水的切割、侵蝕、崩塌、而形成崩壁溝谷、陡立山峰、礫石層、卵石流等特殊地形景觀。也可說是台灣南、北氣候分水嶺的火炎山、更因此特殊地形而帶來動、植物等生態環境的差異。即時外圍小稜線造成的深壑也會因為日照折射、地質、風向、氣流、水流等不同、造成農林懇殖的困難與差異。

話題被熱鬧的熱情又開了。

黃昏時候的建民農場、停滿了車子、聚集了好幾十人、有認識的、也有第一次見面的。

建民農場餐廳的餐桌上、像接龍那樣擺了好幾十道料理、全部是郭芝苑室內合唱團的朋友們親手作的。一排、兩排、三排、排長龍那樣、有大鍋子的山珍燉補、丸仔湯、大碗公的魯肉、大盤的魚蝦、三鮮、手作粿仔、各式沙拉、炒青菜、魯筍干、炒米粉、也有素樸的豉白筍、還有甜點、西瓜…像在鄉村辦桌娶新娘那樣。

郭芝苑老師久違了、臉上的表情還是一樣的安靜祥和、慢慢一句一句地和歡喜合唱團的成員們談話。不過、他的腦筋很清楚、因為那裏面除了音樂、還是音樂、他知道這個人是誰、那個人是誰、歡喜的老師是誰、鋼琴伴奏又是誰、他都很清楚。耳朵的重聽似乎成了他內面音樂世界的防火牆、靜寂的世界裏、可以聽到火炎山地層深處的鼓動、也可順著大安溪的蜿蜒、聆聽溪流卵石的輕聲細語。

前代表許世楷教授夫婦雖然卸上官職、仍然馬不停蹄地在為台灣努力、演講、著書、接待日本來的官員訪客、出國演說講學、夫婦二人三腳、同心協力的患難生涯令人欽佩尊敬、也是我們努力學習的楷模。

來過福岡的淑珍、佩君、秋美都見到了；還有郭芝苑室內合唱團的朋友們、雖然是第一次見面、但是我總覺得大家很面熟。對了、在他們唱的CD上見過面、在蘭草博物館的刊物上見過幾位太太。

歡迎會與音樂交流會在阮文池老師幽默話語的主持下展開序幕。光是看那幾排色香味俱全的料理、大家的肚子腸子早已咕咕叫了。大盤小盤的家鄉料理添滿大家的肚腹、也撫慰了大家的鄉愁。人的一生裏、那種過大「受寵若驚」的感受、不會是經常有的、一直到現在心裏還是覺得「受之有愧」。

我們有幸聆聽郭老師的新作歌劇「鳳儀亭」。這

齣歌劇描述東漢末年、宮廷風雲驟起、董卓專權。當時董卓為了拉攏呂布、收他為義子。呂布英雄年少、董卓老奸巨猾。王允利用兩人男人好色的本性、設計安排貂蟬以「連環計」周旋於董、呂兩人之間。一日、呂布趁董卓上朝時、侵入董府邀貂蟬約會於鳳儀亭。貂蟬藉機向呂布哭述董卓之非、呂布聽了既同情又憤怒、此時正巧被回府的董卓撞見、兩人大打出手。從此兩人互相猜忌、王允便說服呂布殺了董卓。

大家更感興趣的是郭芝苑室內合唱團唱郭老師作曲的童謠。

「一隻鳥仔」的歌詞來自台灣民謠：

透早起來仔伊都閣、閣、閣、閣、
一隻鳥仔伊都啁啁、
站在水溝仔伊都燒一個燒、
丟丟銅仔伊都尋無巢。

「雷公歹声嗽」是黃勁連作的詩：

雷公歹声嗽、儂未到、声先到、
因仔驚甲嗎嗎吼、鴨咪仔驚甲攞擲頭、
雨水四界流～

「日頭」也是黃勁連作的詩：

日頭紅記記、照佇溪仔邊、
溪仔邊草青青、白鷺鷥行來行去。

另外還有「鼓井水鷄」、「月娘」、「中秋暝」、「風箏」、「粉鳥」、「秀才騎馬」等童謠。

也許是年齡、也許是離鄉久了、簡單明朗、抒情又愉快的台灣調、掀起大家兒時回憶的情緒、赤腳釣水蛙、捉田螺、射鳥仔、灌土猴…的光景宛如走馬燈似的映入腦海裏。比起藝術歌曲似乎更能直入人心、撫慰遊子思鄉落寞的情懷。

郭芝苑室內合唱團的團員們、坦白說就像隔壁厝的歐巴桑那樣、幾乎嗅不出那種都市上流社會的胭脂香水味、更看不出濃粧艷抹或袒胸露背。火炎山的紅土是大家的胭脂腮紅、大安溪的溪水是大家的乳液化粧水。日出而作、日落而「歌」、鑿井而飲、耕田而食、那種根植於大地的樸實歌聲。而樸實的深處有真情、有真意、還有一份憨厚不拔的志。

當阮老師指揮的手勢一舉起來、大家那種聚精會神的態度、氣息相合的默契與排山倒海的氣勢、時而強勁有力、時而低迴盪漾、有高揚、也有柔情、又有談諧。那是一種很貼心、很溫馨、不須言語、不須解釋、很接近土地的感動、而非高掛天空形而上的感動。

音樂交流会前、阮老師安排茶師以台灣茶道歡迎大家。看著茶師優雅的端壺注茶、我想起25年前剛來日本不久、有一天在恩師的日本茶道席上、他也

是這樣無心有序的舉杓從茶釜裏舀起熱湯、緩緩的注入茶碗裏、然後用茶筴快速有勁的攪拌抹茶。我們只能如行經一般照樣畫葫蘆的跟著走一遭。當時我連茶筴、茶釜這東西都不知道、更遑論茶道的精神境界了。事後、我問恩師一些有關茶道的基礎知識、談到茶湯時、他拿起筆在紙上寫了「松籟」兩個字。他反問我的感想、我只好在「松籟」旁邊回他「五里霧中」。

茶香微微飄來、我很專注的希望聽到25年前的松籟、那怕是一丁点火炎山馬尾松無聲的松籟也好；微微襲來的茶香風聲裏、旁邊的小池子突然爆出閣、閣、閣的叫声、我問茶師、她笑了笑：「水蛙。」

「水蛙？這兒水蛙的叫声怎麼不一樣呢？」

當合唱團唱到「鼓井水蛙」時、我才証實了這兒水蛙的叫声的確是閣、閣、閣、不像日本的呱、呱、呱。

阮老師怎麼教的、我不知道、但是被他輕輕一點、被點到的團員既不畏縮也不強張、落落大方的站出來、好、獨唱、來吧！篤定的神情與歌聲、那絕非一朝一夕造就的勇氣與自信。如台灣諺語「台上十分鐘、台下十年功」所說、自信的背後是日積月累的勤練苦功。

吉川千巧老師唱「上美的花」和「阿母的頭髮」。郭老師聽了非常的高興、讚美不已。

我們歡喜合唱團唱日本童謠組曲「赤とんぼ・シャボン玉・浜辺の歌・花の街・里の秋・夕焼小焼・故郷」和「出外人」。我們很有自知之明、知道自己的程度在那兒、回來福岡後大家會更努力。歌雖然唱得並不怎麼樣、但那是我們一百分原汁原味的誠意。

我們很想唱盧千惠夫人作詞的「我相信」給許世楷夫婦聽、但是我們沒準備好、這一直讓我耿耿於懷。不過我更希望回到台灣的盧千惠夫人能有時間多多寫些有關台灣風土風情的詩、譜成童謠或歌謠。我相信至少音樂文化比較能種瓜得瓜、不像政治總是種瓢仔生菜瓜。

阮老師告訴我：「火炎山看來像是鳥不生蛋的光禿地、但是再惡劣的環境也有適宜生存的生命存在。有一種抗壓力強、生命力強的先驅植物、立地條件越惡劣它的生命力就越強。那就是馬尾松、我們台灣叫赤松。你看它在絕壁上迎風屹立、那種『我就是要紮根下去、我就是要站起來』頂天立地的無言力量、真的是令人感動。」

我問他：「台灣人不也是像馬尾松這樣嗎？」

阮老師皺了一下眉頭繼續說：「就像台灣這個國家快要被吞滅那樣、這兒雖然是國家指定的『火炎山自然保留區』、但是不知保護到那兒去了、根據

2002年靜宜大學生態學研究所的調查、火炎山這兒的馬尾松有95.26%確定死亡或即將死亡。」

「為什麼？」

「外種入侵、疫病污染。」阮老師嘆了一口氣。

郭老師譜的歌曲有天（天門開的時候）、地（土地公、耕田等）、日（日頭）、月（月娘、月光光、下弦月等）、水（落大雨、雨等）、火（雙溪漁火、火金姑？）、風（風箏）、雷（雷公歹声嗽）、但就是缺「山」。身邊的火炎山粗獷、馬尾松蒼茫、沒人寫詞嗎？苑裡身邊的東西、再不寫都快滅種了。比起油桐花、也許不太詩情、却更有意義吧。

隔晨、我們爬上高台、從小丘上的建民農場遠遠地眺望火炎山的小稜線、眼前儘是兒時似熟非熟說不出樹名的樹林、馬尾松是不是也在那裏頭呢？引領遠望點綴其間的是五月雪的油桐花、白茫茫的紛飛亂舞。往西邊遠遠的盡頭望過去、水平無垠的地平線、啊！真的是大海呀！那個名字叫台灣的海峽！大安溪的溪水載著這兒火炎山的紅土礫石、也載著住在這兒原來都叫道卡斯族人的血與汗、默默地向西流、匯入大海、流向何方。

猶記得小時候、家母和我們五個孩子玩沙包遊戲時、她常常對著沙包說：「這是我們家的五個孩子、就像躺在大安溪的大石頭。好了、好了、沙包站起來、要過河流、要過橋、穿過山洞、拍、拍、拍…」家母熟練地一手往上拋沙包、一手接、兒時光景歷歷如昨。大安溪的大石頭刻在腦海的角落裏、若隱若現。大學上台北讀書、離家返鄉去來間、隨著對號火車穿過大安溪時、橋下轟隆轟隆、卡札卡札的映著蒼茫荒涼的火炎山壁、宛如時光墜道的倒退、腦裏却如逃鄉逃課一般連爬帶跑地逃到西方文明的幻像裏、盲人摸象地迷思暴走、而不自知。

再度回到火炎山邊、大安溪畔、有如隔世夢醒的恍然。被泯滅在腦海角落裏的溪石山壁、無言依旧。山壁會崩、溪堤會絕、但崩後的山、絕後的溪、即令風化也湮滅不了這千層千年的風土、綿綿不絕地在斯土斯民的傳承間、代代相續。

斯土如若滄海桑田、斯民亦如滄海一粟。不過音樂交流會的此時此刻、大家眼裏閃爍的星光、歌聲裏跳躍的音符、不禁讓我想起蘇軾的「滄海月明珠有淚」、即令長空、寧有血淚。



牙齒銀行的成立與未來：牙齒幹細胞於再生醫療之高度展望

撰文/ 李勝揚 臺北醫學大學牙醫學系教授兼系主任/所長「牙齒銀行暨牙齒幹細胞科技研究中心」主任

◆幹細胞的發展歷史◆

幹細胞 (stem cells) 的研究源起，遠在1940年代二次大戰期間，科學家們就以動物實驗發現，經由骨髓移植可以使受到輻射而罹患白血病的老鼠恢復健康；在1960年代，Till和McCulloch從老鼠的骨髓中，發現一種細胞可以不斷地增生並分化成血球細胞，他們把這種細胞稱作「造血幹細胞」，隨後，科學家們便開始研究哺乳類動物，例如老鼠或兔子的受精卵或胚胎，希望能找到比造血幹細胞更原始的幹細胞；直到1998年，由美國威斯康辛大學Thomson博士領導的研究小組從捐贈的人工受精胚胎組織中，成功培養出可以不斷繁衍且具多種分化能力的幹細胞，稱為「胚胎幹細胞」，胚胎幹細胞具有可分化為任何一種組織或細胞的能力，具有極大的醫療潛力，引發科學界的一大震撼，自此也開啟了幹細胞的研究大門。

◆幹細胞的功能與分類◆

幹細胞是由胚胎發育到成熟生命個體的過程中最重要的原始細胞，它處在發育早期的階段且同時具有自我更新 (self-renewal) 及多重分化 (multilineage differentiation) 的能力，即使在個體發育成熟後，幹細胞仍普遍存在於生命體內，以擔負各種組織或器官的細胞更新與修復。

依據發育的過程，細胞所出現的先後次序及差異性分佈，幹細胞可分為胚胎幹細胞 (embryonic stem cell) 與成體幹細胞 (somatic stem cell)；胚胎幹細胞是從胚囊內尚未分化的內細胞團中所取得的，它們是全能性的幹細胞，可以發育成超過兩百種以上不同功能的成熟細胞型態，成體幹細胞則是存留於胎兒和成人組織器官中，仍持續保有能生長並分化成其他細胞的能力。

但因為胚胎幹細胞的來源是由受精卵胚胎或墮胎胎兒的組織取得，其中牽涉到宗教信仰、社會道德及法律規範等問題，因此研究受到許多的限制；而成體幹細胞則是可以經由人體部份的組織或器官，例如骨髓、神經、牙齒、皮膚、肝臟、脂肪等，分離培養而來，目前也已經從成人組織中發現許多種類的幹細胞，例如神經幹細胞 (neural stem cell, NSC)、造血幹細胞 (hematopoietic stem cell, HSC)、間質幹細胞 (mesenchymal stem cell, MSC) 等等。

◆牙齒，珍貴的藏寶盒◆

雖然大家耳熟能詳的臍帶血、骨髓中有許多幹細胞，但畢竟取得臍帶血的機會一生只有一次，而骨髓則是必須經由侵入性的方式取得，多數人都敬而遠之，因此近年來牙齒幹細胞便漸漸地成為眾

所矚目的焦點。牙齒本身就是一個完整的器官，在胚胎發育過程及發育的原則中，牙齒與身體許多其他器官都類似，加上牙齒取得較為方便，不論是脫落的乳牙、成人因齒齦矯正、感染預防等原因而所需而拔除的健康牙齒、智齒、多生牙等，這些以往被視為醫療廢棄物的牙齒，現在都成為珍貴的幹細胞之取得來源。

2000年由美國國家衛生研究院牙科及顫顎研究所負責人施松濤教授所率領的研究團隊，率先地從恆牙的牙髓中分離出貼壁性細胞，並證明此種細胞為間質幹細胞 (mesenchymal stem cell)，並帶有與骨髓幹細胞相似的 markers，且具有多潛能分化的能力，可分化為骨細胞、脂肪細胞、神經細胞等。

近十年來，科學家也陸續在不同的牙齒組織中找到了幹細胞，目前發現的牙齒幹細胞主要可分為乳牙幹細胞 (stem cells from human exfoliated deciduous teeth, SHED)、牙髓幹細胞 (dental pulp stem cells, DPSCs)、牙周韌帶幹細胞 (periodontal ligament stem cells, PDLSCs) 及牙根尖幹細胞 (stem cells from apical papilla, SCAPs)。

◆幹細胞與牙齒再生醫療◆

二十世紀後期，醫學界有種新的觀念產生，有別於現存的「治療醫學」與「預防醫學」兩種概念，就是號稱第三類醫學的「再生醫學」 (regenerative medicine)。「再生」這兩個字，顧名思義，是讓已經失去作用的器官或組織重新生長出來，藉由細胞、生醫材料及生物活化分子提供適當的訊息以促進生物有自我修復及再生的能力。

近年來，幹細胞潛能的應用與生醫材料的研發，更是將再生醫學帶到新的發展領域，使得幹細胞已可應用於多種組織的再生，包括軟骨、骨組織、肝臟、神經等，而牙齒再生更是開啟了器官再生的契機。

在牙醫學的發展上，治療缺齒方式包括活動假牙、固定牙橋、人工植牙或齒齦矯正等方式，但從再生醫學的理念與觀點來看，則是希望在缺損部位的周圍，能夠以自己的細胞或組織 (幹細胞、自體牙齒移植等)，來回復原本缺損機能的能力，這是最理想的再生醫療技術，雖然目前仍有許多困難需要克服。因此目前若缺損部位的周圍無法由自己的組織來回復的話，退而求其次，則應由自己的生物材料 (組織、幹細胞等)，再加上人工材料來回復機能，最後才考量單獨使用人工材料，這並不是優劣性的比較，而是希望能藉著過去許多移植經驗的學習，為牙科治療提供更多樣的選擇性，找出對患者最佳的治療方式。

由於幹細胞的應用與發展瞬息千里，越來越多的研究已證明幹細胞可應用於

再生醫學上並具有相當成效，相信未來的臨床應用更是潛力無窮，因此任何機會下儲存具有應用潛力的幹細胞已漸成為一種新風氣，使得科學家們也積極投入進行研發最佳保存技術，包括冷凍方式、冷凍保存液等。冷凍保存觀念的導入以及新式冷凍技術的開發相信將擴大幹細胞於未來再生醫學上的應用。

◆牙齒銀行，賦予牙齒重生與牙齒幹細胞再生醫療的契機◆

在許多臨床情況下，牙醫師會將患者健康的牙齒拔除並丟棄，然而研究顯示，若拔下的牙齒保留相當程度的牙周膜韌帶 (periodontal ligament)，就可以進行自體的牙齒移植 (auto-transplantation)，臨床成功率高達90%，而這種自體移植能夠提供人工植牙所無法達到的自體感受 (proprioception)，繼而提供張口反射功能，對腦部之較佳刺激甚至達到1.67倍咀嚼力，並能維持齒槽骨的高度，日後便於進行齒齦矯正治療，因此對病患來說，自體牙齒移植其實是最佳的缺齒治療方法。

雖然自體移植的好處很多，但並非隨時都可以進行，由於從前沒有牙齒保存的觀念與技術，使得這些健康的牙齒都成為醫療廢棄物，實在相當可惜，因此「牙齒銀行 - 牙齒冷凍保存」的觀念便因應而生，希望可以將拔下來的健康牙齒長期冷凍保存，以便日後有需要時可以再植回，繼而後續冷凍後牙髓幹細胞之取得與再利用。



圖一 比較由傳統冷凍 (上) 與程式降溫冷凍 (下) 的樣本瓶，可看出經程式降溫冷凍的樣本，形成均勻的玻璃化 (vitrification) 白色霧狀液體

2004年，日本國立廣島大學創立了世界第一家企業化的「牙齒銀行」- 齒の銀行 (ティースバンク) 來冷凍保存牙齒之牙周膜韌帶，主要目的乃為了牙齒的再植，其不同於以往的冷凍保存方法，是進一步地利用帶有微弱電磁場的程式降溫儀 (Program Freezer) 來冷凍保存整顆牙齒，藉由單一方向電磁場導致電子順磁自旋效應，使鍵結動能不為零，水分子處於過冷態但不固化，此時改變溫度或移除磁場，分子便會瞬間均勻地產生玻璃化 (vitrification) 凍結，而不及形成冰晶 (圖一)，因而大大地降低對細胞組織的傷害，確保細胞活性，進而也提高了日後再植的存活率。

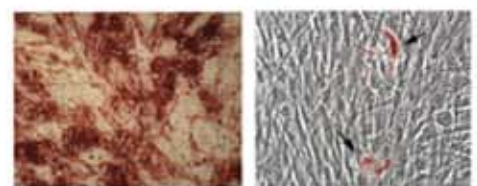
2007年，台灣台北醫學大學與姐妹校日本廣島大學技術合作結盟，成立了世界第二家的牙齒銀行 - 「北醫牙齒銀行暨牙齒幹細胞科技研究中心」，並於2008年9月開始營運 (圖二)。



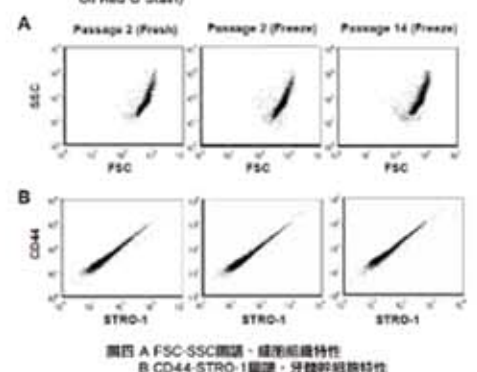
圖二 北醫牙齒銀行 - 牙齒儲存標準流程

有別於日本廣島大學牙齒銀行之僅著墨於牙周膜韌帶的保存與牙齒再植，北醫牙齒銀行進一步積極地開發在學術界較少研究發表的牙齒內牙髓組織之冷凍保存技術，以及牙髓幹細胞庫的建立與其應用。過去一年，北醫牙齒銀行研究團隊已能成功地從恆牙的牙髓中分離萃

取出幹細胞，同時從冷凍儲存再解凍後的牙齒內也可以分離出具有活性的牙髓幹細胞；實驗結果顯示，由於每顆牙齒所取得之牙髓體積不一且受試者之年齡與性別不同，所培養出的細胞量會有差異，但單一顆牙齒可培養出的牙髓細胞濃度，自P1細胞繼代至P3平均可達 $2.0 \sim 2.2 \times 10^7 / \text{ml}$ ，並且都可以藥物成功地誘導其分化為骨細胞及脂肪細胞 (圖三)。同時研究團隊將牙髓幹細胞繼代培養至P14時，冷凍後的細胞依然與原始的細胞 (P2) 具有相同的細胞特性，如 FSC-SSC 圖譜 (圖四A，細胞組織特性) 與 CD44-STRO-1 圖譜 (圖四B，牙髓幹細胞



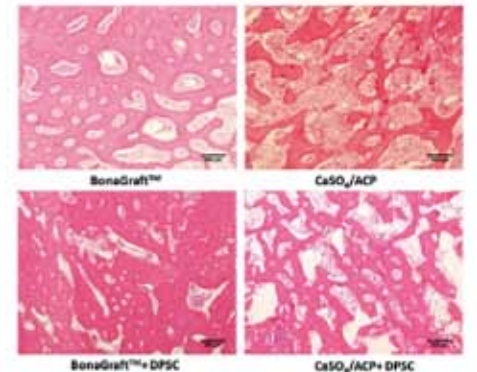
圖三 從牙齒分離出的幹細胞，經藥物誘導六週後可成功分化為骨細胞 (左圖) 及脂肪細胞 (右圖，箭頭處) (Alizarin Red S & Oil Red O Stain)



特性) 所示，同時亦仍具有幹細胞分化的能力。

先前北醫牙齒銀行研究團隊利用蘭嶼豬的下顎骨缺損模型，觀察不同合成骨填補材混入人類牙髓幹細胞 (異種移植) 對於骨再生的促進能力，X光結果顯示，在缺損部位中單獨加入牙髓幹細胞並無法促進骨組織再生，而BonaGraft™ (HA/β-TCP) 及CaSO4/ACP的組別中顯示，在骨缺損部位中結合牙髓幹細胞與骨填補材的確能促進骨組織的癒合，同時癒合效果亦比單獨填入骨填補材要來

得優異。本實驗也經由組織切片結果證實 (圖五)，人類牙髓幹細胞的免疫調節功能相當不錯，即使在異種移植的情況下，也不會產生異體反應，同時還能促進骨組織的再生。目前北醫牙齒銀行研究團隊正在開發快速大量增殖幹細胞以及無血清的培養技術，也正積極申請醫學中心的臨床人體試驗。



圖五 不同骨填補材混入人類牙髓幹細胞於蘭嶼豬下顎骨缺損模型之組織切片圖 (植入後八週) (H & E stain)

◆未來展望◆

日本厚生省與齒科醫師會在1989年提出的「8020運動」，乃希望日本國民口腔健康水準能提升到高齡八十歲仍擁有二十顆自己的牙齒，以維持健全咀嚼能力，達成健康快樂的飲食生活；但台灣經過調查評估發現，目前六十五歲以上擁有二十顆自己牙齒的人口不到六成，老年人缺齒的狀況，勢必是將來亟需解決的一大課題，因此，在適當的時機儲存健康的牙齒也就顯得更加地重要。

北醫牙齒銀行，除了提供冷凍儲存後牙齒的自體移植外，同時也提供了牙齒幹細胞研究發展的契機，未來牙齒幹細胞更可應用在臨床的醫療發展，例如：口腔疾病的治療、中風治療、美容醫學及再生醫學...等研究領域，相信牙齒銀行的成立，能長期保存將來可供再植的牙齒及珍貴的牙齒幹細胞，同時結合高科技的牙齒幹細胞研發，更能將現有的牙科治療帶向一個全新的領域，達到再生醫療的理想，也能對將來的臨床醫療帶來更多實質助益。

◆◆◆ 參考文獻 ◆◆◆

1. Robinson PP (1983) An electrophysiological study of the reinnervation of reimplanted and autotransplanted teeth in the cat. Arch Oral Biol 28 (12): 1139-47.
2. Andreasen JO, Paulsen HU, Yu Z, Bayer T, Schwartz O (1990) A long-term study of 370 autotransplanted premolars. Part II. Tooth survival and pulp healing subsequent to transplantation. Eur J Orthod 12 (1): 14-24.
3. Gronthos S, Mankani M, Brahimi J, Robey PG and Shi S (2000) Postnatal human dental pulp stem cells (DPSCs) in vitro and in vivo. PNAS 97 (25): 13625-13630.
4. Kawasaki N, Hamamoto Y, Nakajima T, Irie K, Ozawa H (2004) Periodontal regeneration of transplanted rat molars after cryopreservation. Arch Oral Biol 49 (1): 59-69.
5. Oh YH, Che ZM, Hong JC, Lee EJ, Lee SJ and Kim J (2005) Cryopreservation of human teeth for future organization of a tooth bank - a preliminary study. Cryobiology 51: 322-329.
6. Robey PG and Bianco P (2006) The use of adult stem cells in rebuilding the human face. J Am Dent Assoc 137: 961-972.
7. Kaku M, Kamata H, Kawata T, Tai M, Kohno S, Motokawa M, Tohma Y, Fujita T, Ohtani J, Tsuka N, Ohwada T and Tanne K (2007) Cryopreservation of PDL cells by use of program freezer with magnetic field for teeth banking. Dentistry in Japan 43: 82-86.
8. Tsutsui K, Kaku M, Motokawa M, Tohma Y, Kawata T, Fujita T, Kohno S, Ohtani J, Tenjo K, Nakano M, Kamata H and Tanne K (2007) Influences of reduced masticatory sensory input from soft-diet feeding upon spatial memory/learning ability in mice. Biomedical research 28 (1): 1-7.
9. Huang A, HC, Chen YK, Lin LM, Shieh TY and Chan A, WS (2008) Isolation and characterization of dental pulp stem cells from a supernumerary tooth. J Oral Pathol Med 37: 571-574.
10. d'Aquino R, Papaccio G, Laino G and Graziano A (2008) Dental pulp stem cells: a promising tool for bone regeneration. Stem cell Rev 4 (1): 21-26.
11. de Mendonça Costa A, Bueno DF, Martins MT, Kerkis I, Kerkis A, Fangioli RD, Cerruti H, Alonso N and Passos-Bueno MR (2008) Reconstruction of large cranial defects in nonimmunosuppressed experimental design with human dental pulp stem cells. J Craniofac Surg. 219 (1): 204-210.
12. D'Aquino R, De Rosa A, Laino G, Caruso F, Guida L, Rullo R, Cecchi V, Laino L, Tirino V and Papaccio G (2009) Human dental pulp stem cells: from biology to clinical applications. J Exp Zool (Mol. Dev. Evol.) 321B: 408-415.

一 序言

歡喜快樂本一體，是人之性本善，流露出來的。歡喜比較傾向於心靈上的語言，快樂比較傾向於官能上的語言。歡喜可以從自心湧出，快樂則要有對象來引起。比如你看到大家有說有笑，會覺得歡喜，會樂意參加他們的談笑。去郊遊是快樂的，擁抱所喜歡的人更快樂。上帝保佑我們，好歡喜好快樂。從佛教上看，人的六根：眼、耳、鼻、舌、身、意。如果各根，與他們的對象配合，會感到歡樂。眼看到美色，歡喜快樂、叫好。耳聽到美音，會覺得身心爽快、拍手，請再唱一曲。鼻聞到香味，會神魂恍惚，會希望再給我一聞（不是吻）。舌得到美味，會快樂大吃一頓，會想下次再來吃一頓。身手觸摸到，潤滑滑的美體，會專心多摸幾下，希望那種令人歡喜快樂的柔情，永遠難忘。至於意，是要去了解真理，了解法，了解道的智慧。可是孔子說：「三月不知肉味」，「朝聞道夕死可也」。這是他的智慧開悟到極點，那時他的心中歡喜到無可言狀而言的狀態。這是中國文人表現的特徵，比如：怒髮衝冠、笑死人等等。所以別超過了極點，超過了就會樂極生悲。兩人曲肱而枕之，不覺恍恍惚惚，互相叫出我喜歡你，我愛你，這就是歡喜天的世界。也是此岸的極樂世界。

二 本文

學問是啟開智慧之門的關鍵。而促進智慧成長的良方就是哲學。凡是任何自己不知道的事情，關心去學去問，求得自己滿足的回答，都是哲學。因為每一個人都有思考的能力，所以不一定去專求事物的本質或真理，一天到晚在腦裡亂轉，想去想出一套嶄新的學說或發想一個新的宇宙真理，才是哲學。當然要成為哲學家，就要走透這一條路，專心研究。一個普通的人，隨便想一想，思考一下，也是哲學。不要想得太嚴重，否則智慧就離開。智慧是給我們在社會上生存得健康好過、快樂的原動力。但只有智慧人是不能在社會上好好地生存的，就是能生存，也活得不舒服，生活品質差人一等了。

除了智慧，人需要有意志力和美好的感情。意志力和真正的歡喜與快樂無關，比如，硬要表示快樂的臉就是冷笑。硬要表示歡喜就是心裏藏刀。不是真正的歡喜與快樂。所以智慧和感情是歡喜與快樂不可欠少的因素，表達歡喜與快樂的中樞是人腦裡的感情中樞。感情的發

達促進人類社會的和諧，使社會變成像樣的人類社會。歡喜與快樂我想是人類感情發達的最善表現。所以來把歡喜和快樂哲學一下，輕鬆地研討一下。哲學是要追求事實的本質，而歡喜與快樂有甚麼本質。歡喜就是歡喜，快樂就是快樂，都是差不多。你說對不對，我說不對。因為哲學不許有差不多，是要追求到絕對的東西才算。所以我不能這樣就擱筆，否則這篇文章無法交代，還是硬著頭皮哲學一下好。哲學事物或研討東西要認識主題，現在的主題是歡喜與快樂，所以先要認識「歡」、「喜」、「快」、「樂」這四個字的意義，然後才能找到真正的歡喜和快樂的本質。

(A) 歡：欠十音符。欠是彎腰狀。歡是形聲字。彎腰嚙嚙樂鬧地歡喜談話之意。

a 歡：〔漢武帝秋風辭〕中流與君飲燕歡甚。

評——居高不傲與臣下同心協力，盡粹國事。抽空飲燕，此歡可喜可嘉也。廢話！一國之君，不許你批評。好在現在不是漢代。

b 歡愛：〔曹植〕歡愛在枕席，宿昔同衣衾。

評——現在的年青男女，樂此不疲也。

c 歡樂：〔漢武帝〕歡樂極兮，哀情多。

評——天下第一等人如此，我們普通人何話可說。

d 歡喜天：〔佛〕天女為觀音化現，抱彼得其歡心，以鎮彼暴，故稱為歡喜天。今為佛法守護神，給人平安、幸福、夫婦和好之神。

評——可惜孫悟空不是壞神，否則被天女一抱，也不會大鬧天宮了。我很想壞到底，好讓天女給我一抱。唉！老頭子，胡亂想，不淨。

e 歡迎：〔歸去來辭〕僮僕歡迎，稚子候門。

評——這已成為現在上班族的夢想了。單身赴任，下班回寓冷冷清清，最多喝一杯啤酒就算幸福了。

f 歡笑：〔顏氏家訓〕歧路言離，歡笑分首。

評——不是旅程之路，是人生之路，今熟年離婚風盛，該學這古訓。不要鬧成屍首分離。

g 歡娛：〔蘇軾〕歡娛在今夕。

評——詩人愛惜生命。他還有一句「春宵一刻值千金」。現在男女戀愛自由，消耗春宵的地方很多，且不太貴。但要防愛滋病。

h 歡心：〔孝經〕得百姓之歡心，以事先君。

評——現在的立法委員應該以君子的態度，正正當當的得百姓之歡心，

不該用錢買百姓之歡心、買選票，以免誤人誤國。

i 歡喜冤家：〔史記樂書〕得以接歡喜合股勤。本指極喜愛之人，今用以指稱感情深摯情緒上每相作弄之人。

評——這對歡喜冤家的夫婦，昨天晚餐時大鬧一場，使我好擔心難眠，恐怕他們含恨分手，你看，今天早上又歡歡喜喜地在吃早餐了。我這一夜的失眠真不值得。

(B) 喜：亼十口的會意字。喜是台架盛飯食之形狀。或兩旁置裝飾優美的樂鼓之意。即供養美食或奏樂以示喜悅之情。

a 喜樂：〔詩經〕喜樂無度。

評——也是人之常情。人都會樂此不疲，而會忘自制。無度是沒有控制，超過程度之意。無度量的人，不會有真正的喜樂。多一個量字，意義就差之千里，中文之妙就在此矣。

b 喜心：〔禮記〕其喜心感者其聲發以散。

評——聽了貝多芬第九交響曲歡喜頌詞：「……快樂快樂快樂無疆，讓我們同聲歌唱……」東方與西方的歡喜感和感情的表露都是一樣，只是音樂、樂器不同罷了。

c 喜躍：〔柳宗元〕無任拊蹈喜躍之至。

評——無事一身輕，像我們現在的社會，無任，可以去旅行。但旅遊要錢，生活要錢。錢愈多愈善。賺得忙不可開交。一家之主，何可無任。唉！任到粉身碎骨，非到極樂世界去不可的程度，多矣。反之，現在好多青年，學無專長，遊手好閒，或成為不上班族，怎麼能了解柳宗元無任的喜躍呢。應該敬聽朱熹的「少年易老學難成，一寸光陰不可輕，未覺池塘春草夢，階前梧桐已秋聲」愛惜光陰，己立立人，終有拊蹈喜躍之日也。

d 喜心厭舊（樂新厭舊）：〔陸贄〕時俗常情，樂新厭舊，有始卒者，其惟聖人。

評——有這一句，我們一般男人就安心了。因為要被稱為聖人是難之又難。現在的婚姻法又強制一律做聖人難矣哉。但如果夫婦各能自覺，日新又日新，每日都變成新人，就無舊可厭了。兩人天天洗心做新人，喜心就起，清淨恩愛如常，大家都是聖人了。

e 喜形於色：〔三國志先主傳〕少言語，喜怒不形於色。

評——劉邦之為劉邦就有這一特技，是觀察人最好的方法，提拔人材輔佐的真髓也。不過，當他統一天下凱旋歸故鄉時，與眾擊筑自為歌詩

曰「大風起兮，雲飛揚，威加海內兮，歸故鄉，安得猛士兮守四方」，快樂滿意形於色，但卻不忘安邦，是真天子之材也。

f 喜怒哀樂：〔中庸〕喜怒哀樂之未發謂之中。

評——喜怒哀樂是人之常情。喜極流淚，怒髮衝冠，哀吼傷心，樂極生悲。凡是中庸好。順其自然，否則心身症必發。

g 喜從天降：〔一般俚語〕有喜從天降也該有喜從土生。

評——這個金錢社會，除了中了三億的特獎外，有何喜從天降的事。相反的，禍從天降比比皆是。路上被搶，突然從背後刺一刀，飛機從天墜落，好難過的社會。但晴耕雨讀，植物不會背叛我們，加一份愛情就多一份收穫，這可以說是喜從土生罷。

h 喜洋洋：〔范仲淹·岳陽樓記〕其喜洋洋。

評——文人對事物的感受大，就說「其喜洋洋」，而政治家則說「得意洋洋」（或得意忘形）。當然喜洋洋，是文人對事物本身的感受所產生的歡喜表達出來的。而得意忘形，得意洋洋是政治家居高臨下，隨心所欲所生的歡喜表露出來的。同是洋洋但基本上不同。

(C) 快「類」爽：夫是挖コ行之坑+心的會意兼形聲文字。即把心結挖掉時，所感到的爽快心情。

a 快：〔史記莊周傳〕快吾志焉。

評——讀史記或莊子，誰不稱快。雖文言難懂，但知道史實，心遊於逍遙之邦，是何等快樂。

b 快心：〔新論〕則聞者不快於心。

評——最近新聞、難淡的記事多。好像與我們無關，如抱著幸災樂禍的快心，要猛省了。明天可能輪到我們。可是如果突然遇到惡心的殺人犯，那只有叫天啊！「你沒眼睛」。是啊！因為我們背後沒眼睛，一刀從背後殺來不能應付。

c 快斧：〔高啟〕借汝快斧斫大桂。

評——真的要借上帝得快斧，斫掉幸災樂禍的潛意識，提高警覺，真正地快活下去。保護環境，大桂大樹不要亂斫，這社會已是末法之末的狀態了。

d 快樂主義：〔快樂說〕古希臘以及中國古代，都有這種思想的人。說人生的目標是快樂。避痛苦求快樂，是道德的最高原理。

評——可是現在逃得過痛苦嗎？兒時的快樂知多少。背了比體重重的書包，已是一件苦行。但還好，書中自有顏如玉在等你。

e 快人快語：〔傳燈錄〕快馬一鞭快人一言。

評——喻人性情爽快，說話無所顧忌叫人聽了痛快。但不要拍馬屁，他人聽來全身起雞皮，就叫人不快了。

f 快活：〔白居易〕別有優游快活人。

評——這句和曹操在赤壁之戰時所發的詩「對酒當歌，人生幾何，譬如朝露，去日無多……」一樣，都隱藏著悲觀的念頭，人要樂觀向前看，才會產生活力。英雄隨心所欲，但還是敵不過有限的生命。何況是一個詩人。抓緊生命，優游快活，同樣是人生。現代旅遊風盛，優游快活的人多了。如走馬看花，無所得矣。

g 快晴：〔陳興義〕孤松立快晴。

評——五月的晴天，沙灘一棵孤松，屹立海邊，好神威，汪汪一片大洋盡在吾眼中。

h 快意：〔蘇軾〕快意雄風海上來。

評——前言的孤松一定是雌的，所以海上的雄風她感到快意。如果是我會說「快意雄風海上來」，又溫柔又體貼、好幸福。現在社會雌風盛，多數的男人都甘居下風。孔子說「唯女子與小人，為難養也，近之則不孫，遠之則怨」。朱熹解釋說「君子之於臣妾莊以肅之，慈以畜之則無二者之患矣」，希望甘居下風的男人多多應用。成為快男子。但不可爭上下。

i 快婿：〔魏書〕欲雙一快婿。

評——自由戀愛的時代，男女平等。女子眼光高，她的慧眼也許比父母高一等，但千萬不要等到珠胎暗結，或成為老處女，使父母不快樂，措手不及。

j 快啖：〔蔡襄〕大饗快啖飲幾斗。

評——大饗我所欲也。這是人生樂趣之一，偶而可以。如此大吃大喝，患了代謝病（糖尿病等），得不償失。病體沒有快樂可言。

(D) 樂「对」憂：象形文字。樂器。聽音樂快樂，故為樂（樂器）。引伸為愛好、安樂。

a 樂天：〔易繫辭〕旁行而不流，樂天知命，故不憂。

評——易是歸納的結果所得的普遍原理，不是部分原理，所以順從天命。不為眼前的現象左右喜憂。如水之滲透，濕濕的不知水從何處來。我們在世間，似乎感到凡事都是偶然而起，其實如此句所說的，還是逃不掉天的支配或天的計劃（人生亦是歷史也是），年輕時，血氣方剛，疲於滿足慾望，但年齡一高，可以

了解這事實也。

b 樂天觀=樂天主義：〔哲〕古希臘哲學之一（柱列哲學），黑格爾等等。（ストア意譯為柱列）

評——世界人生的意義等，究極乃是善的。就是連惡的存在，也是對神預定的宇宙的和諧，有所貢獻。這種看法和樂天知命極相似。東西之賢人，心靈是相通的。

c 樂山：〔論語〕仁者樂山。

d 樂水：〔同〕智者樂水。

評——仁者的心，不動如山，又能生萬物（植物、動物）。智者的心如水，周流不息，能包含萬物。又如山不厭高，水不厭深。人能替山、替水感受。智愈深厚，仁愈高大，愈近聖人，就能體會與宇宙為一體的法善。

e 樂道：〔孟子盡心上〕樂其道而忘人之勢。

評——古之賢王、賢士好善而忘勢，所以說樂其道而忘人之勢，道就是善，得善果者必有福祥之事也。

f 樂義：〔同〕尊德樂義則可謂魯矣。

評——囂囂，自得無欲之貌。欺詐橫行，錢錢錢的世界裏，這一句話已近死語。

g 樂國：〔詩經〕適彼樂國。

評——世界上的烏特邦是夢想。但至少也該有愉快好過的地方吧！找個這樣的地方養生養老去也。等一等！錢從何處來，傻瓜。

h 樂業：〔漢書〕眾庶樂業。

評——建立國家的目標是在建立樂國，使人民能安居樂業。何必求天上樂園（天國）西方樂土。文明越發達，天國越遠，所以宗教興旺，邪教騙錢者充銜。

i 樂事：〔謝靈運〕天下良辰美景，賞心樂事。

評——詩人悠遊自在，何等清閒快樂。但也要不愁吃穿。看、李白的「行路難」。金樽清酒斗十千，玉盤珍羞值萬錢。停杯投箸不能食……長風破浪會有時，直挂雲帆濟滄海。詩聖貧苦，但不失其志。

j 樂以忘憂：〔孔子〕發憤忘食，樂以忘憂，不知老之將至。

評——能集中精神從事完成自己的理想，是男子漢的本願，何老之有。他現在還壯年，永存在論語之中也。

k 樂不思蜀：〔漢晉春秋〕蜀漢既亡，劉禪舉家遷洛陽，司馬文王與劉禪宴，作故蜀技，旁人皆為之感愴，而禪喜笑自若。他日王問禪曰：「頗思蜀否？」禪曰：「此間樂，不思蜀也」。

評——我們留學日本，結果樂不思蜀乎？不！國民黨過去的白色恐怖，迫

使我們不得不走這一條路。等到今日，台灣獲得民主自由。但當時的年青學子，如今已白髮鬢鬢，不得不苟且偷安在日，自慰「樂不思蜀」罷了！可是拋開國界，活下去的地方就是樂國，努力工作，樂此不疲，亦可謂焉也。

1 樂此不疲：〔後漢書光武帝紀〕皇太子見帝勤勞不息，乘間諫曰：「陛下有禹湯之明，而失黃老養性之福，願頤養精神，優游自寧。」帝曰：「我樂此，不為疲」。

評——劉禪與光武帝何等人，命運之神總站在有志者之一方罷。

m 樂在其中：〔論語〕飯疏食，飲水。曲肱而枕之，樂亦在其中矣。

評——孔子沒運賺錢，語此聊以自慰罷！不遜。這句是世間一般原理，知足常樂，這種樂天主義的快樂才是真正的快樂。生活品質高人一等也。而且他覺得能大吃大喝的大富翁雖官能上快樂，但比不上「朝聞道夕死可也」的歡喜大。而且他的樂在其中比大富翁的腹上死大（這腹不一定是美女之腹，復為90公分以上之腹也是）。

n 樂極生悲：〔史記〕淳于髡對齊威王曰：「酒極則亂，樂極生悲，萬事盡然」。

評——因為樂是心身上的行為，過度的酒，一定危害健康，引起交通事故，發生性騷擾，賠了夫人又折兵。這是對酒害而言。但對世界而言，地球的溫暖化，也是人類過份享樂的結果引起的。也許不久的將來，地球就如聖經默示錄所說，火（禍）從天降了。史記這一句，至今還是活生生的。

o 樂而不淫：〔孔子〕樂而不淫，哀而不傷。

評——男女之間，琴瑟鐘鼓之樂，不宜過度，比如最近流行的「失樂園」小說，這種癡情，在我們潛意識裏都存在，兩人的終局近乎腹上死。這種腹上加福的死法，大概是最幸福的臨終。雖腹福字不同但音相同。這種忘我的臨終不知何等快樂。可惜，沒人回來報告，詳述情況。因為只能試一次，再無第二次的。此小說暢銷全日，看起來，終日不知所終，令人哀而不傷，但有傷大雅。

以上是從中國古人之經驗，從漢字中來探討歡喜和快樂。以便直覺地了解歡喜快樂的概念和本質。因為用文章說明，難表達真意。這是起因於中國文字，中國人思惟的方法與今日哲學的思惟方法不同所致。

三 從西方哲學上來看歡喜與快樂

我們每天的生活都在判斷、抉擇

之中行動。只是在有意無意之間罷了。哲學是在啟發我們來正確判斷，來正確決定，來正確實行。以便我們的生活品質提高，過有意義的一生。要正確判斷，就要思索、反省、思惟，才能去了解其中的真諦與奧妙。但愛好智慧而求之的行為，比能否得到智慧更重要，更有價值。比如參加比賽，能否得到冠軍是一回事，去參加比賽才是真正有意義的事。這宇宙中可稱具有智慧的存在只有神。人只不過是愛神的智慧，想獲得神的智慧的一個存在而已。所以笛卡爾說：「我思故我在」，他由苦心思惟中得到這個真理，完成了他不可朽的笛卡爾哲學。

笛卡爾的「情念論」，他說：「歡喜」是精神本身爽快的感動。是精神享受善的基礎，這個善是腦中各種印象付給精神本身的善。沒有善的歡喜，精神是得不到善的享受，所以精神不會感到歡喜。又說，身體得到各種快感的感覺，就繼而生起歡喜，歡喜是心臟的神經，產一種精氣，這精氣使腦感到快樂。他這樣用他的身體和精神分開的二元論，來說明他的哲學，來論他的感情問題。所以我們對他的歡喜定義，一下子我們不知道他在說什麼，而且又把「善」拉出來說明。

本來哲學是探詢所有存在的基本或真理。其探詢方針有二種，一是還元論，就是把問題分析下去，到不可再分，這不可再分就是基本。另一是總體論，就是把問題綜合起來，得到一個普遍的結論，這普遍的結論就是真理。現在的科學是還元論發展下來的。我們現在享受科學發展的恩惠不淺。浴於科學萬能的時代，連我們想法程序都是還元性的，稱為科學的。另一個總體論的方法，我們叫做形而上學，是綜合上去的，我們大都避而不談，因為不知如何去談。

起初，哲學是愛智之學。不分科學或形而上學。而現在的哲學則著重形而上學。研究綜合性的基本問題。但一直往上綜合上去，所達到的地點就是真、善、美的世界。而真、善、美的真正智慧只有神具有。哲學家愛智求智，就是愛這真、善、美的智，是他對神的世界的一種鄉愁，無意識裏想回歸神身邊的運動。

笛卡爾在這裡所用的「善」是綜合性的概念，代表所有的好東西、好想法、好行為、好政治等等。這和老子的「道」相通。所以笛卡爾從形式上論感情的問題，就把「善」這個綜合性的字來代表一切善。說

歡喜是享受善的基礎。在那裏享受就在精神。從他的心身二元論也有其理。他說感情是身體應便外來的刺激產生的，不是精神的功能引起的。又說善給我們精神感到快樂，惡給我們感到不快。這是精神合一時所發生的現象。所以關於情念，他還是心身合體來說明。想在我們知道心身不二，二而一，一而二，色即是空空即是色。我們知道，有腦神經系統，有快感神經，有神經傳達物質，而且腦會產生快感物質。我們知道長期的不快會生病，會患心身症（如胃潰瘍、憂鬱症），會自殺。凡快感物質在腦裏增加，我們就感到歡喜快樂。看到良善的行為我們會發出無心的微笑或拍手稱快。看到女兒用功讀書暗暗歡喜。看到美色我們會開心多看一眼。這些都是快感神經興奮所致。

由上可知，中國哲學家的思想過程，和西方哲學家思想過程之不同。中國是傾向於直覺頓悟，而西方則從蘇格拉底、柏拉圖以後傾向於推論漸悟，所以西方哲學往往會被其文詞搞得莫名其妙。就如佛教所說走火入魔一樣，但如果一但脫出魔境，就近悟，也可得般若波羅蜜多了。

四 結論

歡喜與快樂，始於善而止於至善。善就是道，道就是萬物之始、宇宙之極。故知善、行善，人一定會歡喜、會快樂，世界會調和會平順。智慧、道德、宗教的基本由此而立。孔子說：「君子務本，本立而道生」。不論你想得對或不對，只要是向善，就是形而上學。但要切記：「智慧出有大偽」，這句老子的話。這是警告、顛倒夢想的現世真理。

歡歡喜喜無所得
無所得故痛快
快快樂樂無所得
無所得故共歡喜

凡是持無所得的心情，就無所求，就心無罣礙，心無罣礙，歡喜心就起，就感到快樂了，不是嗎？

（2008年6月12日 完稿）

緣起

筆者在逢甲大學水利系服務近二十年，2008年卸任系主任職位，2009年恰逢升等教授滿七年可休假一年再充電的機會（英文叫sabbatical leave），因此2008年便聯繫了九州大學的小松利光教授（目前的系主任），獲邀來九大地球環境工學科的環境、水工系(Department of Urban and Environmental Engineering)任三個月的訪問學者。由於在台灣還有研究計畫的執行因素，便將時間訂在七月中旬至十月中旬，此乃在福岡生活三個月的緣起。

日本印象

台灣曾受日本統治近一甲子，所以日本的影響是無所不在的。小時候住的台糖宿舍，是日式房子。爸媽講私密話不讓小孩聽懂時，用的是日文。台鐵火車至今仍是靠左行進的。有太多太多的例証可以說明其影響會是永遠存在。但是對日本的印象卻是很複雜的，有好的有壞的，有愛有惡的。如汽車、電器用品等等許多產品，“日本製”代表的是“好的品質”，是人們心中喜愛的。但是談到南京大屠殺、慰安婦、釣魚台領土之爭、AV女優的充斥，…等等，卻又是另外一種心情。

身為台灣人，對於日本，無論愛與不愛是必須要有正確認識的；就如同影響台灣很深遠的美國以及中國大陸一般。以往來日本，皆是參加研討會的短暫停留，蜻蜓點水浮光掠影的匆匆來去，接觸到的多是同行的人，對這個國家地區的印象是片面不全的。很想更進一步的體驗日本，第一手地感受這個國家，這個文化，以及這邊的普普通通的人們，便成了來日本的另一個重要的意圖。

在水利專業上，九州島與台灣的面積相當而稍大，一個是三萬九千平方公里，一個是三萬六千。緯度也還算接近，因此九州治理河川，海岸的經驗，應該是可以讓台灣借鏡的。

福岡印象

由桃園機場飛抵福岡，只花了兩個小時，比“心目中的距離”要短很多。九州大學安排我住在生活機能較好的西新地區，而非已遷到郊區的伊都校區。所下榻的地方叫“九州大學西新



plaza”，是一幢三層樓的建築，一二樓乃展示與集會場所，三樓有四間客房、兩間榻榻米式的會議室，以及公用的廚房與洗衣機空間等，我住在三樓的一間單人套房。每週一與週四會有專人來打掃與更換床單被套，住宿費用若僅住一晚需5500日圓，並不算便宜。但若連續住60天，僅需105500日圓（約一晚1760日圓，合600台幣），則相當合理了。因福岡的物價約台灣的三倍，再加上匯率目前大約是1比3(台比日)，因此日幣100圓的銅板，便相當是台幣10圓銅板一樣的地位。這裡有許多的百圓商品店，就相當台灣的十元店一般意思。

適應期

人是有慣性的，來到一個新的環境自然是需要一段時間來適應。譬如說吃一碗拉麵便要四、五百元日幣，而且只小小一碗還吃不太飽。雖然吃得起，但是與逢甲商圈的價格有些許差距，自然要去自我調適。上了年紀的我，飲食已愈來愈清淡，但是九大食堂裡的蔬菜並沒有很多選擇，可能是學生喜歡油炸的甜不辣吧，連中午的販賣便當裡，也必然有此物。這也是須要去調適的。自己買菜自己煮當然是最經濟也最能合乎自己的飲食需求，但是就會花太多時間在菜市場與在廚房，違背了當初來此的目的，終究來日本的目的不是只為了省錢與吃飯。最後的平衡點，便是早上吃麥片粥(台灣帶來的，這裡幾乎沒在賣)與烤土司，中午在九大吃，每天晚上煮一道菜且能吃三次的份量，如咖哩飯、山藥味噌雜菜湯…等。

除了食以外，“行”也是一個問題，九州大學工學院已在兩年前由市區的箱崎校區遷至郊區的伊都校區。此新校區在福岡市西邊，已脫離市區地鐵的範圍，是把一座山的上面剷平再蓋的新型高樓。我須搭地鐵與JR(Japan Rail)到一個新站（九大學研都市驛），再換搭bus到伊都校區的工學院站，車程便至少一個小時以上的時間，來回要花一千元以上的日幣。此與家住在逢甲附近的通勤情況相差甚遠。後來調適的方式是，騎自行車到地鐵的終點姪濱站（約20分鐘），再用JR月票搭至九大學研驛，再換昭和巴士。等車搭車時便看書，才不浪費寶貴的時間，且騎單車變成每天至少有的運動量，一舉數得。

人際與心理的調適是最重要的，遠離了親人、同事，以及學生，孤單的感覺必然是有的。雖然有internet 與skype軟體可與台灣視訊，且時常出國參加研討會的我已經自以為習慣於單獨自處了。但在福岡這個空氣新鮮，有山有水，井井有條的都市中，我卻是有孤單與寂寞的感覺！當然這樣的感覺也是另外一個成長的機會，遠離自己熟悉的環境，脫離平日運行的軌道，才能更清楚理解

自我的本質，那些是虛，那些是實，不假外求的本來面目是什麼。

漸漸地會參加一些社區公民館與市民中心的日語課程，認識一些日本人的義工與其他國家來日本打拼的年輕人，從這些人的行為、舉止、言談裏，漸漸可理解他們的需求與想法，而由此瞭解到周遭的環境與社會經濟的狀況。許多義工是已退休領年金生活的老先生與老太太，他們一生的經驗與回憶一告訴我許多未知的事情，他們樂於付出時間，教外國人日語，並依不同時節舉辦不同的活動，如穿浴衣、足踊、捏陶、到Yahoo Dome看棒球比賽等等以介紹日本的傳統與現代文化。有幸也認識到福岡若干的台灣僑胞，真有其鄉遇故知之感，從多次聊天當中也漸漸加深了自己對日本的認知。

福岡市容

福岡市市中與台灣最大的差別，是日本不能路邊停車，所以比台灣還要窄的巷弄，在此汽車皆可通行無阻。巷子兩旁劃有白線，白線兩旁是行人與腳踏車的空間，白線之間則是汽車的空間。當然所需付出的代價便是，每輛車皆需有停車位，或是須停在付費停車場內。相對而言，日本政府也有以稅收獎勵空地建設停車場的政策。由此一小點也可以類推其他事項：日本人要求高的品質，也同時願意付出較高的成本或以較佳的管理來達成此一品質。

有一次在路邊，我看到三、四個工人在修補一小塊馬路上的瀝青路面，指揮交通的人不算在內，三、四個工人花了許多的時間在攪拌瀝青與粒料，圍好範圍，分次一層層地倒進、抹平再修，看起來不太像在做工，而是像在做個大蛋糕或是藝術品似的。也難怪這些路面與緣石或排水溝蓋之間總是那樣的平整、乾淨。若是在台灣，當然是很快速地填土，用機具壓平，但也必然會有日後的不均勻沈陷與裂縫了。

觀光客心態

剛到福岡的前兩個星期，心態上比較接近觀光客，到處都覺得很新鮮，每天帶著傻瓜相機，四處拍照。花草樹木、房子、天空、招牌、行人、路燈，馬路上的鑄鐵蓋等等，好像什麼都可入鏡頭。住超過一個月之後，就不再有這種心情了。還未去過的地方也不太想去了。住超過兩個月之後，就很想回台灣的家了。

根據一份福岡市的地圖，以及一小冊福岡市的旅遊資訊，在兩個週末，就走遍了小冊子內的大部份景點。天氣實在是熱得要命，我穿著T恤、短

褲、涼鞋，頭戴著一頂帽子，卻是非常有勁地馬不停蹄，不斷四處遊走。看到有佛寺或神社，便一定要進去瞧瞧。在大濠公園，看到循環水流的人造河流中有真正的魚群游來游去，令我實在是十分的興奮。許多小孩，脫掉鞋子下水，在人工河流的沙質底床上行走納涼，代表著這樣的設計是相當成功的。

跟台中市比，福岡的特色是座落在海邊，因為海風的緣故，空氣相當乾淨，夏天的時候，天天是藍天白雲的，雖然很熱但照起像來是相當好看的。且雲彩的變化很快，一下子就成了另一個樣子，十分有趣。

河流水質良好

福岡市立總圖書館二樓牆上掛著一大幅福岡海邊舊地圖與新地圖的重疊比較圖，可以看出，許多往北流到博多灣的感潮河流原來也是彎彎曲曲的河口河道(estuary)，目前因都市向北填土擴充以及馬路的興建等因素，這些感潮河口兩岸皆已被直線化，且寬度縮小了許多。當然兩岸就必須以混凝土強化保護，來防止沖蝕，再加上一米左右的薄薄堤防以防止風浪溢流。要是以現在流行的自然化河道復育理念，當然是不會這樣做的。然不幸中的大幸是，水質尚稱良好，河口中皆有魚兒的游跡。以此來看，福岡市的污水處理應做得不錯。

福岡市的公寓與房子

另一個讓我印象深刻的是，福岡市的公寓與房子的興建。由於日本是個地震災害頻繁的國家，公寓大樓的建築法規規定，必須要有外掛的逃生梯，而且佔了相當大的空間，如此當然會影響建築物的景觀。個別房屋的改建，因土地面積都不大，故必須有許多巧思。譬如圓弧突出的窗戶，有曲線的車棚棚頂，美觀的圍牆兼有規則孔隙或凹槽的隔音效果。分兩層來放置單車，以節省空間等等。與台灣最大的差別是，這裏建築法規執法很嚴格，因此沒有台灣那種使用執照拿到以後再二次施工的可能性。其結果是，每一戶都得犧牲一些空間作為公眾行人所用，但是每個人都享受到所有他人所貢獻出的空間來行走。在台灣的情況是每一戶或每個社區二次施工後，把公眾可行走的空間圍進自己的私人空間，因此每個人住的空間或許不小，但是一出了家門，卻是被迫走在大馬路上與汽車爭道而寸步難行。究竟是大家害了彼此，卻又個自沾沾自喜以為佔了些便宜。在福岡市區，我也尚未看到頂樓再加蓋頂棚的例子，因此搭飛機著陸前，市容看起來就是比台北

的屋頂來得潔淨整齊。

單車族普遍

在福岡市，交通雖然發達，有地鐵、JR、西鐵、以及兩種公車，四通八達，但是交通費並不便宜。因此之故，腳踏車仍是中距離使用的最愛。雖然單車專用的車道不多，但是單車可騎在寬廣的人行道上，尚稱舒適。若天氣涼又有時間，我騎上一個鐘頭，也不覺得累，比搭地鐵風景要好許多。在台灣則感覺交通的設計是比較偏向汽車的方便，再其次則是機車。好像騎單車，是有點危險的感覺，走路更是不被鼓勵的，因為馬路上的配套措施是不足的。在這個地球暖化，各國爭相減少CO2排放量以節能減碳的同時，台灣的馬路設計，真得需要再一次的檢討吧！應該以鼓勵人行道與單車道的設置要更優先於大眾交通的施設才對！更不要去鼓勵大家買車了。現在的台中，有的小家庭，才夫婦兩個人，便買了兩部車，實在是違反了世界的節能減碳潮流。在福岡市的另一個印象便是“井井有條”，似乎日本人不喜歡台灣這種喜愛“亂中有序”的交通狀況與生活態度。就連單車也是不能亂停的。每次騎到市中心的天神區或即使是在西新地鐵站外面，單車也是不許亂放的，且是要付費的。當然配套措施則是有些停車場（此稱駐輪場）是三個小時內免費的，或是一個小時內免費的，如此就讓你更少了胡亂停放的理由。

培養孩子的「自勝力」要從做小事開始

郭展禮/國立台灣海洋大學教授兼通識教育中心主任 暨本校教職員海韻合唱團團長

邇來，聯合國經濟合作暨發展組織，針對全球五十七個國家對四十萬名中學生檢測的結果。台灣學生在學科能力表現出色，但自治及忍耐的評價，幾乎敬陪末座。

一般而言，「自勝力」是自治與忍耐的綜合體，它係人們克服困難，承受壓力以及迎接挑戰的基本素質。梁啟超曾說：「凡自古以來，能成就大事的人，其自治與忍耐必定是超強的。」可見「自勝力」是決定成事的關鍵因素。換言之，人們能否承受壓力和困難，就是識別一個人能否勝任做大事的標準之一。

同樣地，教導孩子不是只有讀書而已，必然要從育化其「自勝力」至關重要。平心而論，當今很多家長不知如何教導孩子？過高的期許以及給予過重苛責的壓力。以致忽視了家庭教育中「樂中學」(learning by happiness)的觀念。這也是第一夫人酷嫂一周美青女士在部落格強調「快樂學習」的緣由。因她早已看出「快樂學習」是教導孩子

游泳的天堂

再分享一個游泳的心得。因為我的住處（九大西新plaza）與福岡塔旁邊的海濱公園很近。每天早上起床後，第一件事，便是先騎車到人造沙灘那裏游一游泳。大約是六點半去，八點回到住處。因為每天的氣候條件不同，造成每天的海水情況也不同。所謂的情況不同，包括水溫、浪高、濁度、水質、鹹度…等等。沒有一天是完全一樣的。很多時候水溫是上層溫暖下層較涼，有時卻是相反的，且各分層的厚度也時常不同。偶而會看到大隻魚，有時下雨時，會被跳躍過的小魚群撞頭，實在很有意思。讓自己有一種更接近大自然的感覺，這是在標準游泳池中無法享受到的。且人造沙灘經常有人清潔打掃又有淋浴更衣處，且是免費的(這在日本是少有的情況)，實在是太幸福了。

台灣可以更好

福岡是很現代化的都市，卻又如此的接近自然，實在是難得。有一個週日從福岡大學醫院搭公車到油山市民森林，只花了200日圓，卻有如到了溪頭一般的享受。福岡是個有山有水，居民也親切的地方。我很慶幸來此住了三個月，也看到了許多值得台灣學習與改善自己環境的具體方向。

最有效的方式。足見，要求孩子在快樂中學習「行之有恆，克之有節」，才是台灣孩子品格養成的第一件要事。例如，每天固定要求孩子讀書數頁、寫日記或打掃清潔及幫忙到垃圾等家務「小事」，才是磨練孩子自治與忍耐「自勝力」的基石。孩子平日要從「克勤小物」做起，日久則能體現「小處入手，眼界宏遠」的大道理。不可諱言地，「泰山之高乃不棄糞壤；滄海之大乃不拒獨流。」印證了曾國藩云：「事事從小事做起，則大事可成矣！」這些無非「銖積寸累」、「積沙成塔」的效益。

綜上所述，若要教導我們的孩子成為可用之材，首先就要叫他們「快樂學習」，同時也要能育化「忠誠」、「寬恕」與「孝道」的儒家精神。同時強化自治與忍耐「自勝力」的觀念，相信假以時日，台灣團仔必能成就大器，不再是「草莓族」，方能造福桑梓，也能擔起重責大任，如此，優秀的人才必能蔚為國用。

以歌会友 萬逸真

昨年福岡おかあさんコーラス交流会に出かけ、多種多様な演奏で数十人の大団体から、数名ぐらゐの小さなグループまでいろんな団体に会った。見学後これなら来年【歓喜】もこの舞台に立てると、自信満々でさっそくコーラス連絡会会長と挨拶、そして入会の希望を申し入れた。宮崎憲子会長が快く歓迎してくれ、事務局の方にもとても親切に連絡先の交換をしていただいた。よし！これから1年間練習し、台湾の歌を日本の方に紹介できるよう夢を膨らませながら、ワクワクだった。



それから半年が過ぎ、そろそろ今年の交流会の発表に向けて、本格的に選曲（伊是咱的寶貝・賞月舞）と練習が始まった。さてさて、いざ始めると、団員の欠席が続出、男性もたりず満足な練習ができないまま、毎回毎回指揮の吉川先生を悩ませ、私も心底不安と焦りが増え、無情にも時間だけが流れ過ぎ、私はただ練習するたびに良くなるよう奇跡を祈るばかりだった。交流会1ヶ月前ようやく混声のバランスが取れ、曲の仕上げまであと一息。自慢話にはならないが、今回の発表演奏の練習で全員揃ったことは、なんと前日のリハーサルと当日2回だけだった。これで舞台上立つ度胸だけはプロ級で、指揮する吉川先生に相当プレッシャーをかけたと思った。なぜなら本番は2度と繰り返せないから。前日のリハーサルで、初めて今までにない集中力と完成された歌声で2曲を続けて歌いきったとき、しばらくシーンと沈黙のまま。おそらくみんな自分たちの思いがけないすばらしい歌声に驚かされたのだろう、これはまさにこの1年間求め続けた成果だった。やればできるじゃないかと自ら大拍手を起し、自画自賛で「明日の演奏はもはや大成功間違いなし」と太鼓判を押した。私にもやっと【歓喜】の皆さんがひとつになった実感できた。

今年4月から毎月交流会準備のために連絡会の定例会に出席し、そこで初めて正式に

【歓喜】をほかの団体に紹介した、連絡会に加入することがとても光栄と伝えたところ、例会に行くたびに

会長、事務長そして多くの団体責任者から歓迎と期待の言葉を頂いた。当日会場でもあちこちから声をかけられ、たくさん応援をいただいた。皆さんは私が想像に以上

【歓喜】の演奏に対して好奇心と期待が一杯で、うれしい半面ちゃんと無事に演奏できるかしらと不安でドキドキ、この場から逃げたい気持ちだった。開会からプログラムが順調に行われ、とうとう【歓喜】の出番がやってきた。大舞台上立つのは初めてではないが、緊張の糸が切れたせいか集中力が欠け、出だしから少し躓き、リハーサル時ほどの堂々さと仕上げた歌声が出せず不完全燃焼で終わった。それでも大きな拍手をいただき、笑顔一杯で舞台から降りた。降りた途端みなさんが口揃って、『自分の声しか聞こえなく、ちゃんと歌えたかしら』と最後まで戸惑っていた。しかし、録画された映像を見ると幸い大きなミスもなく、のびのびとした声で、ぎりぎり先生の合格サインを頂いた。そこでやっとほっとして、団員互いに無事に演奏できたことの喜びを分かち合えた。そして、もうひとつうれしいことは今回交流会で講評くださった中村禎子先生が【歓喜】の歌を聞き、大変お気に入り、しかも、偶然にも翌月72名ほど宮崎の合唱団体を連れて台湾で交流会を行う予定との事で、『間に合えないですが、ぜひこの2曲を今後の曲目に入れたい』と直々お話しをくださったことだ。今になって、考えるだけでもとても光栄と感激で胸が一杯だ。今回初めて大規模な交流会に参加し、もっとも大きな収穫は大舞台上立つことなく、たくさんの方からお褒めのお言葉を頂いたことでもなく、台湾の歌を日本の方に紹介し、更に広げることを実現できたことだと思う。『歓喜』は上手でもなく、有名でもない小さな合唱団だが、福岡にて微力ながら着実に台湾音楽文化を伝えていきたいと思う。

註：

*宮崎憲子会長：
福岡おかあさんマコーラス
連絡会会長

*中村禎子先生：（右写真）
宮崎市合唱協会会長



福岡媽媽合唱交流会 感想 米多粒

由福岡媽媽合唱連絡会主催の第37回福岡媽媽合唱交流会が10月25日（日）在福岡百道音楽庁舉行。今年參加の団体有34個団体。

交流会在連絡会会長宮崎憲子の開會詞與全員合唱「声を合わせて」（合声）下展開序幕。因為一個團體的平均發表時間只有7分鐘、因此每個媽媽合唱團都竭盡其力把這一年努力學習的成果以最美麗、最和諧的歌声呈現給聽眾們、以期達到獨樂樂、不如眾樂樂與相互學習的目的。大家在團體上的巧思更是色彩繽紛、天工奪目。

我們歡喜合唱團是唯一由外國出身者組成的合唱團、今年也是第一次參加。17名團員在吉川千巧老師的指揮下、合唱「伊是咱的寶貝」與「賞月舞」兩首台灣歌曲。有別於日本人內斂的個性、歡喜合唱團把台灣人既溫柔又有活力的歌声唱遍音樂廳、奪得聽眾滿堂的喝采。大家也以能在異鄉唱出台灣的歌給日本人聽、而感到心慰與高興。

「台上十分鐘、台下十年功。」回想起這3、4年歡喜合唱團大家在一起、曾經是那麼的同心協力、無我夢中、也曾經南轅北轍、遍體鱗傷。介於朋友與親人之間的情感、喜悅與傷心、歡笑與哭泣、使得彼此之間既愛又恨、難分難捨。

就像合唱的一部和二部。一部的人多、像排山倒海那樣拼命的吊嗓子、二部的人更是手掩著耳、不看、不聽、不聞的只顧唱自己的二部。什麼和音？和諧？都沒有。練了快一年的「伊是咱的寶貝」、什麼寶貝？自己都不感動、聽的人怎麼會感動呢？「賞月舞」地板都快踏破了、男聲的勁

出不來就是出不來。連吉川老師都不知道該怎麼調教才好。

日本人大概覺得新鮮吧！誇獎的誇獎、掌聲的掌聲。如果是在3年前、我想我也会像寫情書那樣、自我感動一番、也讓人跟著感動。

但是今天、對於進入4歲的歡喜合唱團、一方面理智告訴我：基礎訓練不足、團員對合唱的動機不足、求知求進心不足、認真學習的態度不足。另一方面感情告訴我：比合唱更重要的是大家感情的融洽、合唱如果缺乏互相疼惜的感情基礎、即時歌唱技巧唱得再好、也很難讓聽的人感動吧！經由合唱的學習過程、互相啓發、互相扶持才是歡喜合唱團的初心目的。

介於純音樂與娛樂的兩極之間、如何取得平衡點、進三步退兩步的螺旋前進、須要大家認真的共識與地道的努力。

能站在異鄉音樂廳的舞台上、唱我們台灣的歌給日本人聽、這是大家共同的心念與願望。化這份令人感動的心念為願力與動力、期待大家能百尺竿頭更進一步。



歡喜合唱團

伊是咱的寶貝（イシランエボーベ）
賞月舞（サンキューウー）

指揮／吉川 千巧 ピアノ／菊池 啓子

作詞・作曲：陳明章 編曲：蕭茂涼
作詞：不明 台灣原住民族民謠 編曲：陳晉淵



平成21年度 福岡市民芸術祭参加 第37回 福岡おかあさんコーラス交流会 2009年10月25日 福岡県立青少年文化センター ももちパレス

私は、台湾が大好きです。少し前に台湾で日本が大好きな若者のことを「哈日族」と呼んでいましたが、私は間違いなく「哈台族」です(若者かどうかは別として!)

台湾の食べ物も文化も大好き。そして何より台湾の人が好きです。

最初に台湾を知ったのは映画でした。侯孝賢監督の「悲情城市」だったのでしょうか。まだ台湾の歴史も何もわからなくて、背景が理解できないところもありました。でも、何か惹き付けられるものがあり、日本で見られる台湾映画は片っ端から見ました。

そして台湾ポップスと出会ってからは「哈台族」一直線です。「こんな素晴らしいミュージシャンがたくさんいるんだ!」と感動し、またまた片っ端から聞きまくり、とうとう我慢できずに台湾まで飛んでいくことに。

それからというもの、年に3回は台湾通いが続きました。知れば知るほど奥が深い!台北に到着するや否や、夜市で蚵仔煎(牡蠣のオムレツ)を頬張り、牛肉麵をすすり、魯肉飯をかき込み、珍珠奶茶(タピオカミルクティー)や木瓜牛奶(パパイヤミルク)を片手に街を闊歩し、茶藝館でまったりとお茶をいただき、温泉巡りをして、映画館で新作映画を見て、KTV(カラオケボックス)で歌いまくる……。ああ、なんて幸せなんでしょう。

もちろん大好きな歌手の演唱會(コンサート)もチェック。ずいぶんたくさんの演唱會にも行きました。台湾音楽の中に身をゆだねる心地よさに酔いしれました。

原住民文化に興味をもったら、原住民の村を訪ねて屏東の奥地までバスに揺られて行き、豊年祭巡りをして衣装を着せていただいて踊りの輪の中に加えていただいたり。

行く度に嬉しい出会いがあり、感動がありました。でも、出産してからはなかなか行く機会がなく、さびしい思いをしていました。

ところが、ご縁があって、地元福岡の歡喜合唱団の一員に加えていただくことになりました!

大好きな陳明章の「伊是咱的寶貝」、原住民曲「賞月舞」、台湾語童謡「秀才騎馬」など、選曲も素敵! 歌唱力も語学力も拙いながら、精一杯張り切って参加させていただいております。団長の萬さんはじめ、団員の皆さんはとても温かく、熱心でとても勉強になります。そして、何より吉川先生のご指導が素晴らしい。時に厳しく、時にユーモラスに、わかりやすく指導して下さいます。

その歡喜合唱団がなんと、10月25日のももちパレスでの「福岡おかあさんコーラス交流会」に参加することになり、私も舞台に上がらせていただけることになりました。初の大舞台です。緊張しましたが、歌を愛する福岡のおかあさんコーラスの皆さんに、台湾の素晴らしい歌を聞いてもらいたい! その一心で歌いました。

楽しかった! 自分としては練習不足で皆さんに申し訳なかったのですが、とにかく楽しく歌わせていただけたのが嬉しかったです。

歡喜の皆さんと一緒に台湾で歌えるようになったら……。それが夢です。まだまだ新参者ですが、台湾の合唱団の皆様とも歌の交流ができれば、こんな喜びはないでしょう。その時が来るまで精進して練習に励みたいと思います。

その時に、こっそり抜け出してCDショップでCDを買ってしまったり、珍珠奶茶をすすっていても、どうか許してください。

やっぱり私は台湾と台湾の音楽が大好き。萬歳、台湾の音楽、美麗的寶島!

我非常喜歡台灣。不久前、在台灣把非常喜歡日本的年輕人族群稱做「哈日族」，而我則是正典的「哈台族」(年不年輕卻是另一回事!)。

我不只非常喜歡台灣的飲食和文化、更喜歡台灣的人。

最初我是從電影開始知道台灣，侯孝賢的「悲情城市」。那時候連台灣的歷史都不知道，對電影的背景有很多無法了解的地方。但是不知不覺中好像被什麼吸引住，於是從一知半解中開始看起台灣的電影來。

再來從接觸到台灣流行音樂開始，我就成了忠實一直線的「哈台族」。被「台灣有這麼多超極棒的音樂人!」感動。於是我又開始從一知半解中聽起台灣的音樂，最後甚至按耐不住的飛往台灣。

從那以後，我每年到台灣3次。漸漸的對台灣了解越多，就越覺得那裏頭的深奧!一到台北，馬上往夜市衝、痛痛快快的蚵仔煎、牛肉麵、魯肉飯的大吃一頓，一手拿著珍珠奶茶、木瓜牛奶，一邊闊步街頭，上茶藝館喝茶，泡溫泉，看新上映的電影，痛唱卡拉OK……等等，啊啊~真的好幸福!

當然有閱自己喜歡的歌手的演唱會，一查再查的不願錯過，也參加了好多次的演唱會。讓自己全身全靈的浸潤陶醉在台灣的音樂裏面。

對原住民文化有興趣之後，坐著搖搖晃晃的巴士到屏東裏頭的原住民村去拜訪，穿著原住民衣裳參加他們的豐年祭，加入他們的跳舞團裏。

每次去台灣都會遇到許多快樂和感動的事，但是生了孩子之後，就沒機會去台灣，感到缺少了什麼的寂寞感。

也是托因緣的福吧，我加入了福岡這兒台灣人的歡喜合唱團，成為裏面的一員。我很喜歡陳明章的「伊是咱的寶貝」，原住民的「賞月舞」，台



平成21年度 福岡市民芸術祭参加 第37回 福岡おかあさんコーラス交流会 2009年10月25日 福岡県立青少年文化センター ももちパレス

灣童謠「秀才騎馬」等，都是非常好的選曲。雖然我的歌唱和語言能力還不好，但是盡最大的努力參加。萬團長和每一位團員都很親切和熱心，讓我學習許多。吉川老師的指導更是棒、有時嚴厲，有時幽默，教導的方式也很容易了解。

10月25日歡喜合唱團參加在此地百道音樂廳舉行的「福岡媽媽合唱交流会」，也讓我有機會跟著大家上台表演。第一次上這麼大的舞台，雖然感到很緊張，但是我真的很想把台灣美麗的歌曲唱給福岡這兒喜歡歌唱的媽媽合唱團們聽!我以這樣的心情、全心的唱。

我真的覺得非常高興!雖然我自己有練習不足的地方，也覺得對大家很抱歉，但是能這麼歡喜的唱歌、真的非常高興。

將來能和歡喜合唱團的大家到台灣唱歌是我的夢想。雖然我還是新團員，能和台灣的合唱團一起學習歌唱和交流，比什麼都高興。為了這天的到來，我會專心努力學習。

到時候、如果我偷偷地離隊到唱片行大買CD，吸著珍珠奶茶，還請大家放我一馬。

總而言之，我是這麼的喜歡台灣和台灣的音樂。

萬歲!台灣的音樂，美麗的寶島!



陳世憲書法與郭姝吟鋼琴連合演出in福岡 本郷みどり

報導：

由九州台日文化交流会主辦的「陳世憲書法與郭姝吟鋼琴連合演出」於11月22日在福岡市郊的石釜農舍舉行。有別於音樂厅的現代都市風格、在鄉間竹林下的百年老屋裏、近百名音樂文化愛好家享受了一場來自台灣的書法與鋼琴連合演出的饗宴。

楓紅杏黃時節、竹林搖曳落葉婆娑的鄉間老屋裏、這場別緻的「書・琴」演出在大家充滿好奇與期待下展開。

陳世憲在8公尺長2.5公尺高的巨大畫布前、隨著郭姝吟的新作鋼琴曲「風中竹」、以意導筆、揮毫書墨。他先以紅色的顏料在畫布的天空橫揮「雲霞滿天飛過」、而後以綠色顏料直筆以「風・竹・大地・萬物」為主題的書。內容緣起於陳世憲寫的「袖舞」。圍觀的音樂文化愛好家、大家一廂屏息聆聽屋後竹林传来的婆娑聲與郭姝吟自作自彈的「風中竹」、一廂好奇地盯著陳世憲看他到底會書畫出什麼樣的作品。

作品在大家的連想創作中、漸漸浮現出來、有看得懂的字、也有看不懂的字、但他呈現給大家的不是一个一個的字、而是整體的「字畫」、觀眾可以一個一個的去解字、也可以整體的透過會意與形象、投入字畫與音樂的想像空間裏、由觀眾自己自由發

揮意象的連想與創造的延伸。

有別於傳統的書法、這次的演出不只讓觀眾大開眼界、更對台灣的現代書法藝術有更深一層的了解。

最後、在聲樂家吉川千巧、南愛子的聲樂、岩永繁好的日本民謠、山本あゆみの鋼琴、合唱團演出與全員大合唱「故鄉的秋天」下、結束這場令人難忘的書法・音樂交流會。

台灣と日本の草の根文化交流に取り組んでいる九州台日文化交流会は11月22日、福岡市早良区石釜の本郷農舎で、台湾からの「書道&ピアノによるジョイント演出」が開かれました。台湾の書道家、陳世憲さんとピアニストの郭姝吟さんによる「書道&ピアノによるジョイント演出」を開いた。

陳さんは竹林の波打ちをイメージした作品「袖舞い」を、郭さんはジョイント演出のために作曲した新曲「風中竹」を披露し、訪れた地元の人や台湾からの人など

台湾の書&ピアノ

石釜・本郷農舎で住民ら演出楽しむ



「袖舞い」を披露する陳世憲さん（提供：石釜農舎）

12月19日「読売新聞福岡西部かわらばん」



台湾からの「書道&ピアノによるジョイント演出」in福岡 本郷みどり

台湾と日本の草の根文化交流に取り組んでいる九州台日文化交流会は、11月22日早良区石釜の本郷農舎で、台湾からの「書道&ピアノによるジョイント演出」が開かれました。台湾の書道家陳世憲さん及びピアニスト郭姝吟さんの共同演出には約百名の日本人と台湾人の方々が訪れました。

陳世憲さんは台湾南部蓮の産地白河鎮の出身です。蓮畑に囲まれた環境の中で育ち、毎日蓮葉を営んでいる農夫たちの姿を見て、その苦勞と喜びを分かち合いながら、独自の書道風格を醸した。伝統書道の技法を基礎として、蓮、竹、里山の風情、農夫たちの人情、風土を書道のなかに取り入れて、新しい風格を作り上げた。今回は竹林の波打ちをイメージにした作品「袖舞い」を披露しました。

ピアニストの郭姝吟さんはパリ音楽師範学校で作

曲専攻、モントルイユ音楽院でピアノ専攻した後、台湾国立台南芸術大學で教鞭をとっています。今回ジョイント演出のために、ピアノ新曲「風中竹」を作曲しました。

訪れた方々は台湾現代「書・琴」異なったジャンル、違う文化の雰囲気にも温かく包まれました。風中竹の琴声を聞きながら、筆先の旋律に合わせて、演出者とともに会意、形象を想像し、創造空間に身を任せ、幸せな一時を過ごしました。

最後は声楽家吉川千巧、南愛子の独唱、岩永繁好の日本民謡、山本あゆみのピアノソロ、コーラス演出および全員大合唱「里の秋」と「夕焼け小焼け」の歌声のなか、国境を超え共通の文化交流ができた事に感動を覚えました。時間のたつのも忘れ、皆さんと過ごすことができた一日でした。



袖 舞

陳世憲



散步的中途，有一段路非常乾淨，風雨常來打掃，
時見竹葉旋然而落。

夕陽的風中，落葉在生命的盡頭躍動最後的舞姿！

我實在很難想像落葉怎麼會這麼美！

黃褐的葉子是舞者，背景是綠色的葉海，舞台是小鄉徑，
畫面獨特而精彩！

葉黃翻落之後，農夫會整理竹田，將老枝剷去，一叢竹僅剩三、四主枝，
其餘空間留給未收之筍，
新筍的空間加大，即可奮力向上，竹筍一直向上抽枝，
然後下垂。

越接近根部越加雄壯，要努力抓住泥土才有根柢，
越向天空越細緻，而垂下的地方僅是一條似絲的竹帶，
相當輕柔，微風吹送，那竹帶於空中和緩搖擺，
那是空中優美的典型。

落日剎那射來最後一道餘暉，竹帶是一條移動的光絲，
這不是書法的線條嗎？
這不是書法線條的節奏嗎？
這不是世上每一件靈秀的生命嗎？
生命精彩了，書法還會差嗎？

並不是一直鑽研書法技法，就會創出新的書法風格，
而是有了一種全然的生命美感，才有創作新書風的可能。
另外當然還關係創作者的轉化能力，能力強度夠了，
自然容易落筆入紙！

袖舞的原型是篆書，再加上一些隸書的開張，純粹的長鋒羊毫，
依自己對天空的寬度，任由竹尾擺盪起舞！
我自有我的起舞方式，
在心中！



袖舞い

陳世憲
翻訳：本郷みどり

散歩の途中、すごくきれいな道があり、雨風が常に掃除に来てくれて、
時に竹の葉っぱが舞い落ちてくる。

夕陽の風の中、落ち葉が命の最期、終盤の舞いを舞い踊る！

どうしても想像できない、なぜか落ち葉がこんなに美しい！

黄ばんだ葉っぱは踊り子、緑の葉の海は背景、田舎の小道は舞台、
なんともいえない素晴らしい独特な画面！

黄落の後、農夫が竹畑を整理し、古い枝を伐って、三、四の主枝しか残らない、
残りの空間は採り残しの竹の子に
竹の子の空間が広がり、ぐんぐん上に伸びていって、伸びていって、
やがて垂れてくる。

根元に近づくほど太くなり、必死で泥土につかまらないうと、
根を張りおろすことが出来ない、

天辺に伸びるほど、細くなり、垂れてくるところが竹の絲帯になり、
軽く、柔らかく、そよ風が吹き込んで、竹の絲帯が天辺でゆらゆら揺れて、
まさに空の美の典型。

夕陽が差し込んだ暮れの光、竹の絲帯が揺れる光帯になり、

まさに書道の線條ではなかるうか？

まさに書道線條のリズムではなかるうか？

まさに世の中すべて靈秀の魂ではなかるうか？

いのちが鮮やかに生きてきたら、書道が拙くなることあるうか？

必死で書道の技法に専念すれば、

新しい書道の風格を創造することができるとは限らない。

いのちにたいする純粹の美感があつてこそ

新しい書道の風格を作り出すことが可能になる。

いのちにたいする轉化能力、その強度がまんばいに達すれば、

自然に筆を運ぶこと、画紙に形で表現することができる。

袖舞いの原型は篆書であり、隸書に展開が加わって、純粹の長鋒羊毫で、

空にたいする寛容度の働きかけで、

竹尾の揺れ流れに任せて自由に舞い上がれ！

私しかできない踊り、私しかできない舞い！

私の胸の中に



車陣中的玉蘭花 陳至興

紅燈亮了
我只有短短五十秒的時間
匆忙地我由安全島跳下

戴著斗笠的我
胸前垂掛著一小竹籃玉蘭花
伸直的左右手也各拎著一小串玉蘭花
想像自己是一隻老弱的蝴蝶
疲憊地在車陣中展翅搖晃

貼著深色隔熱紙的車窗
常常冷漠地閉著
我看不到車內的人
但他們應看得到我舞動的玉蘭花

偶而搖下了細縫的車窗
有我熱切期盼的二個十元銅板
但更多的是
丟出一截未熄火的煙蒂
吐出一口濃痰或一口血紅的檳榔汁
一張用過的衛生紙

我早已忘記玉蘭花淡雅的香氣
我最熟悉的是
綠燈一亮
眾車同踩油門撲鼻而來的廢氣

2009.9.26

註：作者陳至興醫師為耳鼻喉科開業醫師。從大學時代即發表散文、詩作於大學刊物、台灣各大報紙、文學台灣等專門刊物。著作有「診療室的365天」與「第七講堂的粽子」。轉載自「文學台灣第73期」。

卓也之行 謝元敏

坐擁青山寂靜聲， 回憶昨日巧遇情，
奇珍異木飽覽目， 花梨、荔枝、牛樟木，
香榧、鐵道、紅豆杉， 巧奪天工鬼斧匠，
拈手妙思感嘆深， 鴻福殊緣起落途，
千岱博物濶視野， 老闆專業贊許聲，
卓也小屋淡有味， 梯田扶疏青翠色，
典型山城話詩意， 北中南好友相聚，
泡茶笑談初秋意， 天涼氣爽福報來，

台日交流賞美音， 苑裡合唱團歡迎，
國寶老師郭芝苑， 識得瑰麗與風範，
柔和聲中帶童年， 沐浴亮光星辰曲，
簡單弦律活潑調， 伴隨鋼琴流露情，
歌謠純真樸實厚， 響遏行雲舒心窩，
日友輕婉音窈窕， 韶景風韻盡翺秋，
聆聽悅耳音繞樑， 蕙質蘭心展藝能。

2009.10.19

註：於卓也小屋偶然相逢的台電朋友。她們告訴我：「昨夜夢裏好像聽到好美好美的歌、有台灣的歌、也有日本的歌；明明就在身邊、但又彷彿從天而降的天籟。」



鄉愁二帖 阿玉

那年下雨的寒冬、回到台灣、落難似地、
「想吃什麼？」你搭著我的肩膀溫柔地問、
「還用說嗎？第二市場的肉圓、三個、加餛飩湯。」
油炸皮Q、肉燥香、還有切丁的竹筍與香菇。
紅醬、白醬、台灣辣椒醬、再加一點點的香菜。
肚裏的鄉愁全部擠在碗裏那顆飽滿圓圓的肉圓裏。

斜風細雨、濕了襪子與裙擺、也亂了髮絲與眼角、
大黑傘下溫柔依然：「還是搭計程車回家吧！」
大黑傘下熟悉的体温與氣息、還有那串叮噹鈴聲的鑰匙、
想你、想你、還是想你、外加那麼一點點的醋味、
懷裏的鄉愁全部擠在傘下那窩濃情綿綿的胳膊裏。

背影 童靜瑩

11月23日的上海午後，新加坡的朋友Karen帶我穿過湖南路，道路兩旁林立著梧桐樹，聽說那是法國人種的，也是過去上海租界的另一種標誌。我們走進一家Karen推薦的盲人按摩院，來場背部指壓按摩。不一會兒，有個溫和卻有自信的聲音傳來，親切地按摩師們打過招呼，我的按摩師也用上海話回聲：醫師好。

當時我是臥著的，雖然看不見那位醫師，卻隱約可以聽見醫師寬衣的聲音，他嘆了聲說：「我昨個啊，去了朱自清的墓上香了。都過好些年了，可是只要一想起朱自清，至今還是令人仰慕啊！」按摩師們似乎不是很清楚朱自清是誰，所以不知怎麼回答似的，不知所措地應了聲「ㄟ」，然後整間房間又陷入了寧靜，只剩些許的關節聲低調地此起彼落著。

Karen也不清楚朱自清是誰，但對我來說，那是個好久沒聽到卻讓人有著滿腔回憶的名字。回到福岡後，跟妹妹在msn上聊天，想起這件事，我問她，你知道朱自清是誰嗎？她說：「知道啊，我還記得課本上的梧桐樹。」

梧桐樹？我說，我不記得有梧桐樹這回事，但記得課本的文章篇名叫「背影」，裡面說的就是他父親的背影。妹妹說：「大概知道，不過篇名沒記住，就只記得裡面的梧桐樹。」

當天我查了一下關於朱自清的生平。原來朱自清出生於11月22日，是那位醫師去上香的日子，也是日本的夫婦日。生平沒有明確記載他在上海的生活，不過，他倒是曾經針對駐上海的美國領事對中國人的歧視話語提出過嚴正的抗議聲明。抗議聲明中鏗鏘有力的用詞遣句跟「背影」裡的感性柔情有著完全不同的態度，卻都反應著那個時代的知識份子愛家愛國的情懷。

我們家的兄弟姐妹都對「背影」這篇文章印象深刻，我跟我妹都同意，這應該是跟我們家的老爸有關。我們家的老爸，跟「背影」裡的父親形象有點像，都是身材五短有點笨拙似的模樣，站出去可能不夠顯眼，但是



作者攝於上海新天地石庫門古建築客廳，將西方時鐘巧妙融入中式客廳，充分反應上海的東西融合城市背景。

疼愛孩子的心，卻可以讓他有時候看起來相當雄壯威武。

老爸喜歡走在我們前面，或是馬路外邊；小時候過馬路時，如果我們先跑，他會大聲喊我們回來，一定要被他拉著才能過馬路，他說，很多小朋友就是在馬路上出事的，不能不小心。

孩子的身體健康是他最關注的。有時只是喉嚨一時乾癢，在二樓的房間輕輕地咳了一聲，就把在一樓看電視的他給嚇了，穿著拖鞋趴他趴他地馬上跑過來問，感冒了嗎？有沒有發燒？我看看燙不燙。青春期的時候，總是嫌他囉唆，他卻很認真地強調，你不知道有很多小朋友光發燒，就能燒成小兒麻痺或是智障，當父母的怎麼可以不在意！

從小到大他都是跟老媽忙進忙出，所以總是習慣看著他們的背影。隨著時光流轉，依然經常看著他們的背影，只是總覺得他們的背影雖然依然堅強，就是小了一點；他們一心一意還想扛著我們，我們卻已經急著想要有自己的舞台了。第一次說出，「你們不要管我們了啦，我們都已經長大了，可以獨立做很多事了。」的時候，他們倆落寞有哀傷的眼神，至今讓我印象深刻。

又過了幾年，終於，慢慢地他們發現我們已經不是孩子了。現在他們懂得坐下來休息，慢慢喝杯茶，然後跟我們說，「我們都已經退休了，你們也大了，現在的時代是你們的了！」如今他們倆總是歡欣地帶著我姊姊的孩子們上山下海遊山玩水。有天只有我在家的時候，他們覺得這些孩子們好像長得太慢了，所以提議去清水紫雲巖跟大甲鎮瀾宮走走，祈求觀音跟媽祖保佑他們快快長大。於是我開車送他們去，下車時他們祖孫們相當雀躍，把我丟在後面就一路飛奔進廟。

看著他們的背影總覺得似曾相識。我現在依然喜歡看他們的背影，只是現在的背影多是含飴弄孫的背影，也只有在看著他們背影的時候，我才會深深體悟我們這一代已經成長到該是扛起家庭扛起時代的時候了。



上海新天地（港資規劃）附近的梧桐行道樹以及翻新後的上海古建築。

從我們這兒商店街轉個彎、路地裏的巷口有家矮旧不起眼的平房、門口掛著半節的紅色暖簾、紅布白字「味一番」的店名、隨著客人的進進出出、暖簾一開一合地渡過了多年的寒暑晨昏。朝東的店面、任它再鮮紅的暖簾也敵不過年過一年艷陽的照射與風雨的吹襲、褪了紅顏、也傷了肌膚的火紅暖簾映著斜陽彷彿老婦喚不回的殘紅。而拉麵湯鍋裏咕嚕咕嚕冒熱湯氣的豚骨香似乎是紅暖簾唯一的加持、在歲月光陰的吐納中把「味一番」三個斗大的字染成古澀的草灰色、在人進人出的飄曳中默默地述說「味一番」豚骨湯的真髓。

暖簾的左袖與右袖、正好把「味一番」的「一」字從中分開、宛如卦裏的爻、合則成陽爻、分則成陰爻。而進出的客人、单手捲簾也好、左捲右捻也好、双手開弓也好、单指或双指、手背或手心、可以風平浪靜、也可暴風浪捲…而客人飢腸轆轆與飯飽酒酣之間、肚裏乾坤的吞吐、就在暖簾一開一合的玄機中闔辟推磨。

和到處都有的拉麵店差不多、斗大的店面四張簡陋的桌子、泛黑烏烏的桌面被豚骨湯汁浸潤得亮光光、櫃檯頂多坐八個人吧、紅色的圓皮椅面和暖簾一樣的紅、一樣的斑駁。角落這兒堆著醬油桶、紙箱子、那兒積著面紙、免洗筷子…、牆壁上掛著日本庭園的月曆、風景枯山水寧靜得有点怪異。壁上還貼滿了各種廣告、有旅行的、語學補習的、搬家公司、求職…等等、還有一張A2九州交響樂團的大海報。其實老闆他們可以把店面收納得更整潔一些、但是我想拉麵店如果太整潔、也許就煮不出美味的拉麵吧。

老闆娘矮胖矮胖、兩頰薄暈的腮紅襯托著那兩片微薄上下開合的紅嘴唇、像極了日本版畫家棟方志功作品裏的女妃神。除了客人進出時的招呼、點麵、端麵、收錢、找錢、很少看她講話。老闆用長筷、老闆娘用短筷。當老闆在前面下麵、她就在後面默默地準備湯碗、燙湯碗、洗豆芽菜、放醬、放湯、等老闆把麵撈到湯碗裏時、她手裏那雙短筷就像撥箏一般、一撮青白蔥、三片超薄的叉燒肉輕快地覆上湯岸邊、等端到客人面前、叉燒肉帶汁的軟勁、自是美味難言、撲鼻的蔥香更是把濃濃的豚骨湯點化開來、濃而不膩、潤而不油。

瘦挑的老闆頭上綁的頭巾和脖子掛的毛巾濕淋淋的、汗流夾背、老闆却似乎一点也不在意、紅通通的臉龐相映著赤熱熱的火爐、在熱湯鍋的蒸氣中撥霧揮毫。老闆右手拿長筷、左手拿麵撈。下麵、上麵、正好一分鐘。上麵時、右手的長筷往大湯鍋裏像刷羊肉那樣、左刷右刷、然後用麵撈撈起麵團、上下迴甩、濾乾鍋湯後、輕巧地往湯碗裏一過、麵條如網、纏而有序、弛張有勁。

老闆知道我喜歡看他下麵。

那一天去的時候正好傾盆大雨、快打烊的時間、

客人稀稀疏疏的三、兩人。

「知道你們會來…」老闆溫和地笑了笑。看著他手裏兩團有点乾乾塌塌的麵團、「今天的麵好像沒精神？」

「是呀！下雨天、麵悶在那兒沒人理會、大概也累了吧！」老闆把麵提起來、拍一拍、放進麵鍋裏去。

「你看、麵是不是活起來了？」老闆右手的長筷圈著麵團右旋左旋、或收或放、忽弛忽張、沿路纏綿、靜運無慌。

「老闆、我怎麼覺得你不在下麵、而是在寫毛筆字、又好像在打太極拳…」

聽我這麼說、老闆笑了起來、說了一段我聽不太懂的話、像在背書、又像吟詩、我請他慢慢的再念一遍：「動靜の機、陰陽の母なり、陰は陽を離れず、陽は陰を離れず、陰陽相濟して、正に勁の懂りを為す。」（動靜之機、陰陽之母、陰不離陽、陽不離陰、陰陽相濟、方知為勁。）

「這些原先都是中國的文化、傳來日本後、漸漸的溶入日本人的生命裏、成為日本『和』文化裏的精髓。我也只是把它運用到我的『麵經』裏玩一玩、揣摩久了、自有它随心所欲的奧妙處。」老闆一邊洗洗刷刷、一邊比手畫腳的說：「麵是有生命的、就看你怎麼把它的生命力引出來、而關鍵就在麵的『勁』。麵可以只是一團麵、也可以是如河流或氣流一般有吞吐、能呼吸的麵、天氣、濕度、節氣、每天不一樣、就像照顧小孩那樣、那要看你怎麼去呵護它、鍛鍊它…所以我們說『打麵』、而不說作麵。而打麵的三要『挽き立て、打ち立て、茹で立て。』就是這個道理。」

「揉麵、打麵、燙麵的三要！沒想到老闆的『麵經』還真有一套。」

「也沒什麼啦！麵鍋裏的世界無非就像太極宇宙一般、有乾坤天地、也有離坎日月、還有山、海、雷、風、右手長筷、左手麵撈、宇宙在手、萬化由心。而鍋裏的麵無非就像太極圖裏的太極魚、鼓之以雷霆、潤之以風雨、逆風順水、悠遊自在。」

老闆一邊收拾廚房、關了爐火、压低声音悄悄地說：「要收攤了、『収』、知道吧！把火關起來、把湯倒掉、把廚房收拾、把餐具洗乾淨、把暖簾捲起來、把燈關掉、把門關起來…一天的運轉到此為止。」老闆說「収」這個字的時候、有点像重點強調似地兩手往上束囊一般、然後輕輕的把手貼在胸



前：「而最重要的是要知道感謝、感謝上天、感謝神。」老闆靜默地站在店門前、面朝外雙手拍手、合掌、敬禮。

「一般關門、不是用『閉める』這個字嗎？」
「『閉める』只是一個動作。日本話的『収』比『閉』更有意思、人也一樣、不只要懂得『閉』、更要懂得『収』、『納』、也要懂得『修』、這幾個字的念法都是一樣是osameru。」

雨後的夜空無星無月、靜悄悄黑漆漆的、浩瀚蒼穹、天心太極。

回頭後瞧、遠遠的、老闆正在收拾紅暖簾、日出

粽子 阿娥

小時候住在台灣中部的小鎮豐原、每到農曆5月5日端午節（五日節）前、當時不知道端午節是什麼典故、只知道左隣右舍與往常不同的忙進忙出、又是線香又是金紙、家家戶戶有老阿媽和孫子的人家到處掛著香包、有粽子的、桃子的、扇子的、元寶、老虎雞鴨…各種造型、紅紅綠綠的花布一圈又一圈的纏上五顏六色的縫線流蘇、香包裏撲鼻的檀香、夾著阿媽擦面的粉香、也摻著阿媽頭髮玉蘭花的香。

媽媽的菜籃裏不再寒酸、沾血的舊報紙裏裹著一長塊帶肥的五花肉、油淋淋的生腥味摻著鹹海味的冬蝦、還有一朵朵亮亮帶紫的紅蔥和肉厚的香菇、一束束竹葉香的粽子葉和綁索仔的細麻繩。

昏暗的廚房裏、媽媽忙著把五花肉、香菇切成小塊、還有冬蝦和紅蔥；熱鍋裏炸香的豚油把五花肉爆得香噴噴的、隨著油煙燻滿斗大的廚房；媽媽手裏的煎匙、一邊翻著炒香的紅蔥、冬蝦和香菇、一邊塩、酒、醬油、胡椒、香辛料、再把炒香的五花肉一起下鍋、輕輕撥炒；哇！擠在一旁的我們家五個孩子、那裡等得及包粽子呢？肚子咕嚕嚕的口水直流、你一口、我一口的搶著吃。

「喂！再吃、就不用包粽子啦！」媽媽一手打下來。

「粽子葉洗好了沒有？綁索仔撕好了嗎？」媽媽一邊催促著我們、一邊把泡好的糯米倒入撈起配料的油鍋裏、用溫火慢慢的炒香、炒到半熟起鍋。

媽媽先教我們手的動作、兩手合攏、平放胸前、手心朝上、手指朝外、然後慢慢地從小指外旋到食指、食指並著食指、手指朝下、手心朝內。媽媽說這是很要緊的禮儀、手心合攏朝上是表示自己的真心、對祖先家人的感謝與對神明的敬意。而食指並著食指、手指朝下、手心朝內是對客人的誠心與禮貌。

而粽子葉要一大一小、頭尾錯著並排、放在兩手的手心上、順著上面教的動作、把粽子葉疊成開口如杓的袋子、先用湯匙把糯米添入底部、中心部一

紅簾上、日落紅簾下、客來兩袖闊、客歸一字合。老闆的「麵經」揮之不去。

太極拳經譜曰：「精練已極、極小亦圈。」

後記：

今天是第二星期六、早上正要開始診療時、偶一轉頭、窗外對面大樓的停車場、來了幾位義工在回收舊報紙、唉！頭上綁著頭巾的不就是拉麵店的老闆嗎？「對了、今天要把這篇文稿完成。」心裏自言自語。

夜晚、我正在「収」（完成的意思）這篇文稿時、突然電話鈴響：「对不起、請問是『味一番』嗎？」

嚇了我一跳。我很想告訴打錯電話的那個人：「這兒不是『味一番』、但是、我正在寫一篇『味一番』店老闆的故事。」

也許此時此刻「味一番」拉麵店和我這兒的電波是在同一線上吧！（2009年10月10日秋夜初寒）

匙帶点油醬汁的餡、再把竹葉袋子添滿糯米；成型的粽子要飽滿、但又不能過猶不及、角要有角的稜角、面要有面的方寸。綁的時候、細麻繩一圈兩圈一結兩結、樸素的單蝶結。

小時候剛開始包粽子、不是葉子破掉、糯米跑出來、餡跑出來、要不就是角不成角、面不成面、慘不忍睹。媽媽總是耐心的一再示範、一邊教一邊說：「粽子要有粽子的樣子、就像作人要有作人的樣子、有面有角有方寸。裏面的餡就像是作母親的愛、世界唯一的獨家秘方、不是別人家學得來的味道。」

窗邊的晒衣竿上、一串兩串三串、看著媽媽包的粽子、個個飽滿有角、每個粽子就宛如母親那無求的祈念與叮嚀、紮紮實實的包在竹葉香與糯米香裏、緊緊的綁在綁索仔的單蝶結裏。夜深人靜、孩子們都入睡了、小小的廚房裏、昏黃的燈光下、坐在爐灶前的母親強忍著睡意、數著時間計算著鍋裏冒出的蒸氣、添柴去火。

等我們五個孩子一夜醒來、哇！屋子裏充滿了粽子的香氣。不過媽媽有個堅持、一定要等祭拜過祖先之後才可以吃粽子。為了吃粽子、我們五個孩子都很合作、不必等母親催促、趕緊拈香：「敬請祖先、保佑阮爸爸會賺錢、媽媽會煮飯、囡仔會讀書。」那也是我們家孩子拜拜時的定型句。

來到日本後、幾乎沒有包粽子的機會、反而常常握飯團。握飯團的時候、很自然的會想起媽媽教我們手的動作、兩手合攏、平放胸前、手心朝上、手指朝外、然後把香噴噴的白飯攤在手心上、中間一小團紫紅的梅泥、左右手90度反轉合掌、一上一下、下面的手心司地基、拇指以外的四指拱起築壁、把飯團的架構握起來、上面的手心司三角屋頂、兩手合氣握手成型。

如果說粽子是我們台灣人的鄉愁、那麼飯團可以說是日本人的鄉愁囉。



2009/10/26，漂流的開始...

雖然現在已經平安地在台中清水的家中，但總不免回憶起哪段旅行的開始、經過與結束。

在2009年準備離開前公司時，與在就讀語言學校時的美國人同學聊到台灣的現況時，發現其實歐美人對台灣並不了解，許多外國人對台灣的印象，只有台北市而已，同時回憶以往與日本人往來連絡的經驗時，也深覺其實台灣與日本如此的接近，但是彼此的認識與了解還是如此的不足，也因這樣的經驗也讓我覺得如果能讓外國人多認識台灣，應該是一件有意義的事情吧，所以結合個人的興趣與自己的條件同時加上台日交流的概念，決定以「自行車旅行日本，並沿途進入日本各地國小介紹台灣」作為這次計畫的主軸。

根據在日本生活過一年的經驗以及對日本人的行事風格的了解，深知若是私人直接與日本的小學聯繫，很可能無法得到回應，為尋求其他單位團體的援助，所以將自己的想法與相關執行細節寫成中文版以及日文版的計畫書，以尋求外交部亞東關係會(簡稱亞協)協助，在經過幾次來回修改後，終於獲得亞協文教組鄭組長的首肯願意協助，並透過在日的我國代表處與辦事處聯繫日本的小學，終於敲定可以如願進入日本小學介紹台灣。

這個計畫是透過台灣小朋友的畫作介紹台灣的人文風土民情給日本小朋友，所以台灣小朋友畫作的收集也是一個重要的工作，最初十分苦惱對於這個問題，由於本身並不是教育相關的人士，也並不認識小學的老師或是校長等，曾經嘗試直接聯繫各地知名國小的校長等，很可惜的是



反應不佳，甚至還有被懷疑是別有用心等狀況，正當一籌莫展之際，母校的老師介紹目前任職於國小的老師校長朋友們，透過他們的連絡，大約收集到30多幅畫作，內容均是台灣生活的習慣與各地活動與風景。

由於這趟旅行並不是輕輕鬆鬆地坐著車到處觀光，然後順便進入日本的國小介紹台灣，而是以每天踩著自行車前進約80km的旅行，所以自身的體能與所攜帶的裝備，均是影響這趟3700km的旅行的重要關鍵，為了加強體能狀況，特地尋求大學時的體育教授針對個人當時的體能，加強訓練，以免在這趟旅行中有半途而廢的遺憾發生。

這類的體育活動，大都會尋求相關公司團體的協助，一開始，則是尋求台灣的第二大自行車公司的協助，在經歷漫長的討論後，該公司只願意以市價的六折販售，可惜的是，在最後列出清單給該公司時，完全無法聯絡上該公司的聯絡窗口，失望之餘，抱著志志不安的心情，聯繫台灣之光捷安特公司，捷安特公司在三個禮拜後，二話不說馬上撥一輛全新的長途旅行用自行車GJ1贊助這趟旅行。

在完成相關準備聯繫工作後，於2009/10/26攜帶自行車與重達30公斤的裝備搭上長榮飛往北海道新千歲機場的班機，並在札幌轉車前往稚內後，由此展開這趟為期大約2個月半的自行車旅行。

北海道許多地方荒涼無人，曾經在某地區騎了一天大約70km，沿途均無住家的聚落，均只是農場等，而舉目所見，也只是稀稀落落的畜牧動物等，在這裡，經歷的許多的第一次，第一次一個人在荒野中露營，第一次在下雪天騎自行車，第一次……，在寫這篇文章時，回憶起當時，一切都是甜美，但是在當下的我而言，卻是痛苦難熬。

日本很多地方還有野生動物，例如熊等危險動物，所以大家對於冬季在野外露營亦抱持著某程度的保留態度，但是對於自行車旅行而言，野外露營卻是不可避免的狀況，基於安全考量，盡量尋找道の駅，也就是國道旁的休息站露營，這類的地方由於較為明亮，或許較為安全些，但缺點就是人來人往，比較吵鬧些。

某些地區由於未曾有外國人到訪過，所以曾經發生過，在某地投宿時，依規定該出示身分證明例如

護照時，旅館櫃檯人員反而回問我，該看護照的哪些地方呢？這種狀況在北海道東北還是四國等地區較常發生，外國觀光客到訪的大多是觀光的大景點，某些較不熱門的城鎮，就少有外國訪客到達，所以這情況就不足為奇了，事後回想該地區，或許以後再去拜訪可能性也很低，畢竟以觀光客的眼光來看，該城鎮或許並沒有十分吸引人的景點。

這次以自行車旅行日本，到過了許多以未曾到訪的地區，甚至許多日本人也未曾聽過該地區地名，所以在進入日本國小，為小朋友介紹台灣時，小朋友除了對台灣的事情，很感興趣外，也對日本各地的狀況感到新奇有趣。

拜訪國小時，對小朋友介紹台灣時，除了在台灣收集的台灣小朋友畫作介紹台灣之外，有些學校也會掛上台海與日本的地圖掛於黑板上，讓我方便在口頭介紹時，也方便以地圖介紹該地的地理位置，同時，地名或是相關重要名詞，我都會直接用粉筆寫於黑板上，希望加深小朋友的印象，例如在介紹三義木雕時，就寫「三義」木



雕」於黑板上，或許這樣的介紹不夠深入，但是對於一個人以自行車行走了3000多公里到各校介紹自己的國家，我想我這樣的方式已經是盡力了吧。或許有人會好奇，這樣的短暫介紹，小朋友是否很快就遺忘了呢？其實我也很了解，或許我所介紹的內容，小朋友在兩三個月內就會遺忘了吧，但是我所希望的是，以後在她們的成長過程中，只要看到「台灣」兩個字，就會想起有一位台灣人曾經在她們國小時，以自行車旅行日本，千里迢迢地走了好遠好遠來到她們學校介紹自己的國家「台灣」，進而對台灣的相關事情感到興趣，這樣的結果，對我而言就哪足夠了。在這群接觸過的小朋友的心中，種下對台灣關心的種子，這就是我一開始所期望的結果。而其它更深入複雜的問題，就留給這群小朋友，在成長的過程中，慢慢的去發掘了解，也不是我一個人可以在一小時多，可以讓他們了解的。

常常覺得，大國站著不動，其它世界各地的人們，很容易就可以感受到它的影響力與力量，而



我們是個小國，為了讓其他地方的人們認識我們，應該要加強透過介紹還有加強交流，所以為了這個理念，我以自行車慢行於日本，介紹我們自己，雖然還有很多可以改善，但是對於第一次從事這樣活動的我一個人而言，也是耗了相當的時間與精力才得以完成。

這趟旅行的完成，受到沿途大家以及各地代表處的照顧，在旅途的最後一段，鹿兒島的木村阿姨、叔叔，以及福岡的本鄉叔叔、阿姨，以宛如照顧家裡的晚輩般的關心照顧我，雖然是白雪靄靄的日本冬天，但是這份溫暖，卻是如八月天的溫暖在我心中。一直覺得如果是同樣一個景點，大概去個幾次就不會想再去，但是因為認識大家，我想，我會眷戀九州的。

2010/1/31 顏俊傑於台灣台中清水

相關部落格

<http://u4740026.pixnet.net/blog>

<http://s1318017.pixnet.net/blog>

古早人的話 ——台語文化的寶庫、祖先智慧的結晶——

一枝草、一點露。
一粒米、百人汗。
滴水成河、粒米成飯。
有時星光、有時月明。
三年水流東、三年水流西。
你讓人三分、人敬你一寸。
做人陰沈沈、咬人三寸深。
刀傷好治、口傷難醫。
一句話三尖六角、角角攏會傷人。
合家是兄弟、分家是厝邊。
人情留一線、日後可相看。
多結一個冤仇、多起一堵牆。
多交一個好友、多一條生路。
只有千里人情、忺無百年威風。
海恰深也有底、樹恰小也有根。
山恰高有人開路、海恰深有人過渡。
入山不驚傷人虎、只驚人心兩面刀。
心內無私天地寬、私字當頭事難辦。
樹多成林不怕風吹、滴水成河不怕日曝。
春耕無好耽誤一冬、教子無好耽誤一世人。

編集部

編後語

袖舞醉語

11月22日、忙完台灣書道家陳世憲先生・作曲家郭姝吟女士的「書道&音樂によるジョイント演出」後、24日送走客人。

和往常一樣、身體脫了一層皮、精神褪了一層殼、人累了一個禮拜。

11月29日、和同學去石釜整理會場的殘局。曲終人散後的老母屋又回復到隨著竹林北風颯颯催寒的本來面貌。陳世憲寫的字畫「袖舞」在這兒陪伴著老母屋渡過一個禮拜、冷清又孤獨。

一種既濟後的空虛感吧！

「畫布拆下來吧！」同學問我。

「不、這幅『袖舞』還沒舞完呢！你没看它還在那兒靜靜的吐納舞動嗎！字畫裏的天空彩霞還太艷麗、竹節硬挺、竹葉張滿…看不到一片落葉…」

「時序吧！」同學了解我的落葉心境、要我等到大地回春時再回來造訪這幅「袖舞」。

在我等待的這段寒冬期間、老母屋會給它一些褪色與土壁的顏色、還有竹影掃階的落空時間、還有一些留白的空間。積雪的冬夜、我那不喝酒的同學也許會把竹簫當扁担、捎來熱爛的燒酎、窩在圍爐裏、對著炭灰、對著字畫、消愁愚痴一番也說不定。（本郷みどり）



秋空下的收穫：
嘸驚蕃薯落土爛、只求枝葉代代傳。

